

日立市 文化財保存活用地域計画



令和3年12月

茨城県日立市



日上市文化財保存活用地域計画

目次

序章	1
1 計画作成の背景と目的	1
2 計画期間	2
3 日上市文化財保存活用地域計画の位置付け	2
4 計画作成の体制	3
第1章 日上市の概要	4
1 自然的・地理的環境	4
2 社会的状況	9
3 歴史的背景	19
第2章 日上市の文化財の概要	30
1 文化財の把握	30
2 文化財の概要	31
3 文化財の特徴	41
4 既存の文化財調査の概要	48
5 文化財に関する普及・啓発活動	52
第3章 日上市の歴史文化の特徴の考え方	55
1 歴史文化の特徴を整理するための観点	55
2 歴史文化の特徴の考え方	55
3 歴史文化の特徴を示す文化財とその集積地	56
4 歴史文化の特徴	59

第4章	文化財の保存・活用に関する方針	88
1	文化財の保存・活用に関する現状と課題	88
2	文化財の保存・活用に関する方針	91
第5章	文化財の保存・活用に関する措置	94
1	文化財の保存・活用に関する措置	94
2	現状・課題・方針・措置の対応関係	101
第6章	重点的に実施する措置（日立市文化財回廊の設定及びサテライトガイドランスの整備等） ..	103
1	メインガイドランスの整備	103
2	日立市文化財回廊の設定とサテライトガイドランスの整備	103
第7章	文化財の保存・活用の推進体制	113
1	事業の実施体制	113
2	国・県との連携体制	115
3	全体の進捗管理体制	115
参考資料	116
1	文化財リスト	116
2	協議会及び保護審議会	120
3	参考文献等一覧	122

序章

1 計画作成の背景と目的

我が国では、人口減少や少子高齢化の進行により、地域経済や地域コミュニティの縮小が懸念されている。本市においても、令和 22 年（2040）における人口は、約 12 万 9,000 人にまで減少すると推計されている（国立社会保障・人口問題研究所将来推計）。また、総人口が減少傾向にある中で、65 歳以上の老年人口は一貫して増加傾向が続いており、国や県を上回るスピードで高齢化が進行している。これらの事態は、文化財に関わる担い手不足等も引き起こし、本市においても文化財の保存・継承を困難にする要因の一つとなっている。特に、人から人へ世代を超えて伝えられる伝統的な風俗慣習や民俗芸能などは、少子高齢化の影響を受け、次世代の担い手となる若者の減少によって、その存続が危ぶまれている。

そのような状況下で、我が国では、「明日の日本を支える観光ビジョン」や「文化財活用・理解促進戦略プログラム」等を策定するとともに、平成 31 年（2019）4 月には文化財の計画的な保存・活用の促進を図ることを目的とした改正文化財保護法が施行され、『文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針』（以下、「文化庁指針」）が定められた。

この文化財保護法の改正を機に、本市の多様な文化財を適切に保存するとともに、地域社会の活性化に寄与する取組みにつなげる検討を進めるため、本市では、文化財保護と地域活性化の両方を達成すべく、令和元年度（2019）に日立市文化財保存活用地域計画協議会（以下「協議会」）を設置し、「日立市文化財保存活用地域計画」の作成に取り組むこととなった。

検討の過程で、本市の文化財は太古から近現代までの各時代、各分野に輝いた多種多様の文化財が、市域に広く点在していることが特徴であるとの結論に至った。

この文化財の特徴を地域社会に活かすために、その保存・活用に向けた視点を一点にとどめることなく、時代、特徴、地理、自然環境など、多角的に市域全体を通じて「見る」こと「知る」ことの重要性を、改めて認識したところである。

そのため、この多種多様の文化財を巡る周遊性を地域に創出する等の取組みによって、本市の歴史や文化を伝える観光資源等として活用することで、本市の魅力を顕在化させ、高齢者の社会参加はもとより、人の移動や集客効果による交流人口及び定住人口の増加や地域経済の活性化に期待する。

これまでも、本市では、文化財保護法及び日立市文化財保護条例等により、有形、無形の文化財について保護の施策が講じられ、所有者等の尽力により継承への取組みがなされてきた。今後は、地域社会全体での文化財の次世代への確実な継承とまちづくりへの活用、及び郷土愛の醸成を目指していく。本計画は、市内の文化財を対象として、文化財の計画的な保存・活用を促進し、総合的かつ基本的な考え方、方向性、取組み等を示すことを目的とする。

また、本計画で文化財の保存・活用を進めることによって、平成 29 年（2017）に策定した「日立市文化振興指針」に定めた「ひたちらしさ」を明確にするとともに、「日立市に住むすべての人々が協働して、「ひたちらしさ」という個性ある文化を育て、誇りを持って、いつまでも住み続けたいと思えるようなまち」の姿（目標像）の実現を目指す。

2 計画期間

本計画の計画期間は、令和3年度(2021)～令和12年度(2030)の10年間とし、前期(3年間)・中期(4年間)・後期(3年間)の3期に分ける。

計画期間		
前期(3年間)	中期(4年間)	後期(3年間)
令和3年度(2021) ～令和5年度(2023)	令和6年度(2024) ～令和9年度(2027)	令和10年度(2028) ～令和12年度(2030)

ただし、本計画の上位計画に位置付けられる「日立市総合計画 後期基本計画」が令和3年(2021)に、「日立市文化振興指針」が令和9年(2027)に満了することから、これらの計画の更新や、その他社会経済情勢の変化により本市の文化財を取り巻く環境に大きな変化が生じ、歴史や文化に関わる項目に大きな変更がある場合には、計画期間中であっても適宜計画の見直しを行い、文化庁の再認定を受けるものとする。ただし、文化財の保存や地域計画の実施に支障のない軽微な変更については、県を通じて文化庁へ報告を行う。

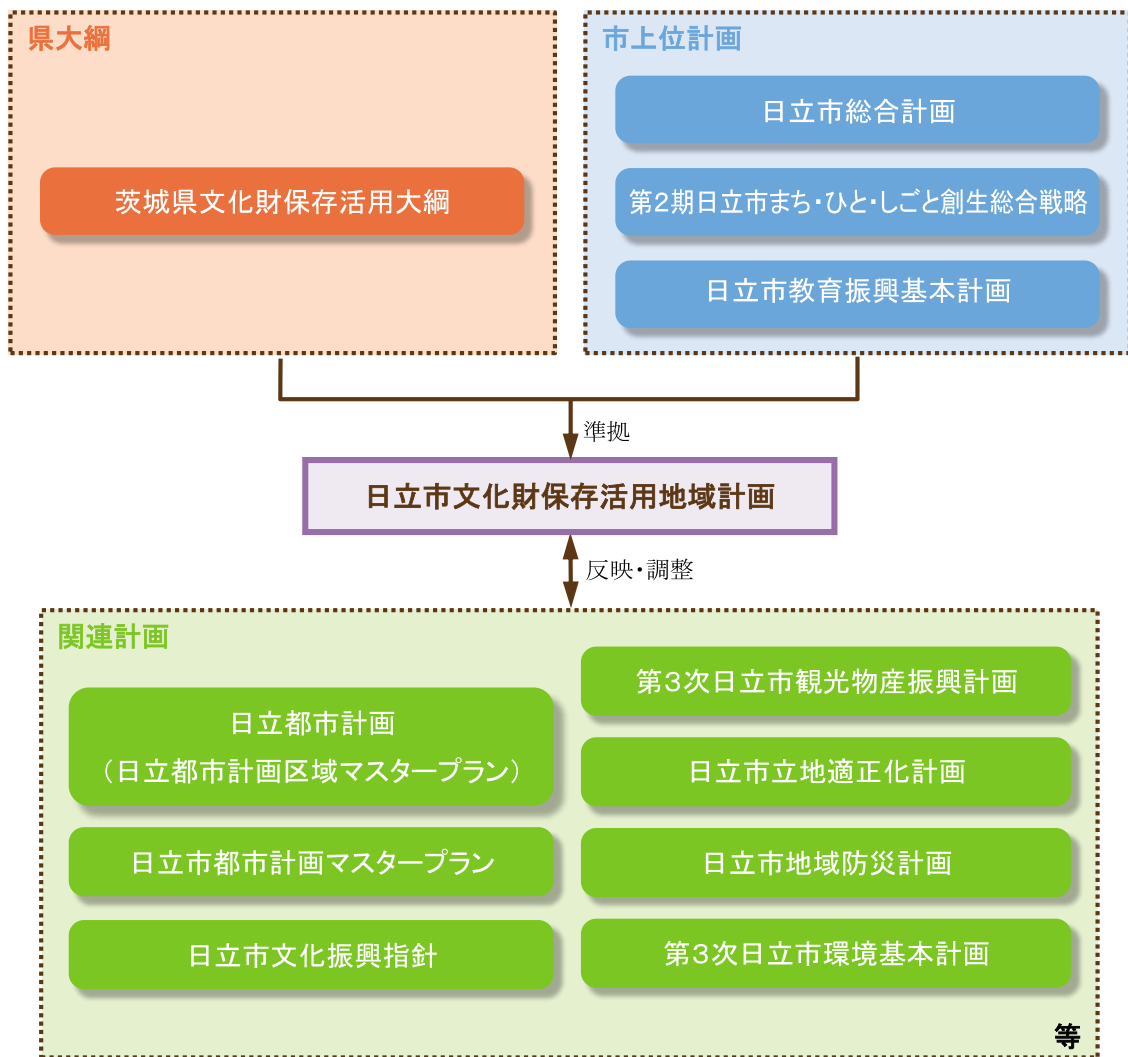
また、計画の進捗状況について、計画期間中の前期(令和3年度～令和5年度)、中期(令和6年度～令和9年度)、後期(令和10年度～令和12年度)のそれぞれ期末に自己評価を行い、その結果を次期の計画推進に反映させる。

3 日立市文化財保存活用地域計画の位置付け

本計画の上位・関連計画としては、以下のものが挙げられる。上位・関連計画と本計画「日立市文化財保存活用地域計画」の位置付けは、次頁の図に示すとおりである。

表：上位計画・関連計画一覧

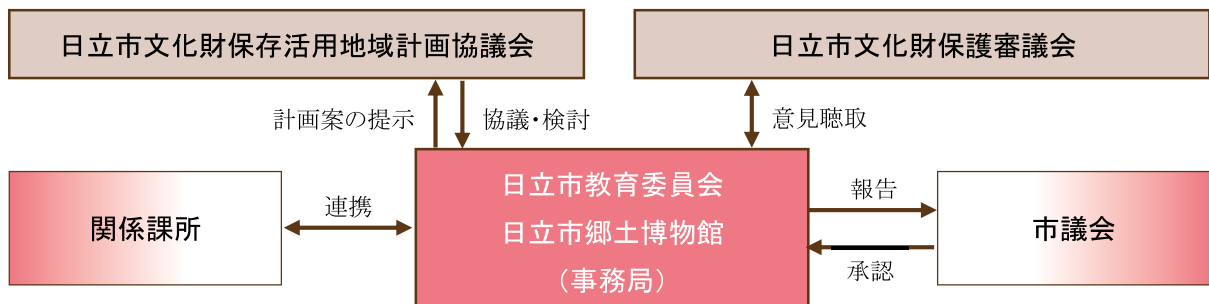
	計画名称	策定者等	計画期間
県大綱	茨城県文化財保存活用大綱	茨城県	—
市上位計画	日立市総合計画(策定中)	日立市	令和4年度(2022)～令和13年度(2031)
	第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略	日立市	令和2年度(2020)～令和6年度(2024)
	日立市教育振興基本計画	日立市	平成31年度(2019)～令和5年度(2023)
関連計画	日立都市計画 (日立都市計画区域マスタープラン)	茨城県	—
	日立市都市計画マスタープラン	日立市	令和2年度(2020)～令和22年度(2040)
	日立市文化振興指針	日立市	平成29年度(2017)～令和9年度(2027)
	第3次日立市観光物産振興計画	日立市	平成31年度(2019)～令和5年度(2023)
	日立市立地適正化計画	日立市	令和2年度(2020)～令和22年度(2040)
	日立市地域防災計画	日立市	—
	第3次日立市環境基本計画	日立市	平成30年度(2018)～令和4年度(2022)



図：本計画の位置付け

4 計画作成の体制

地域計画の作成に当たっては、学識経験者・関係団体・行政関係者から構成される「日立市文化財保存活用地域計画協議会」を設置し、日立市郷土博物館を事務局として、日立市文化財保護審議会の意見を反映するとともに市議会に報告を行い、市内関係課所と連携しながら検討を行った。



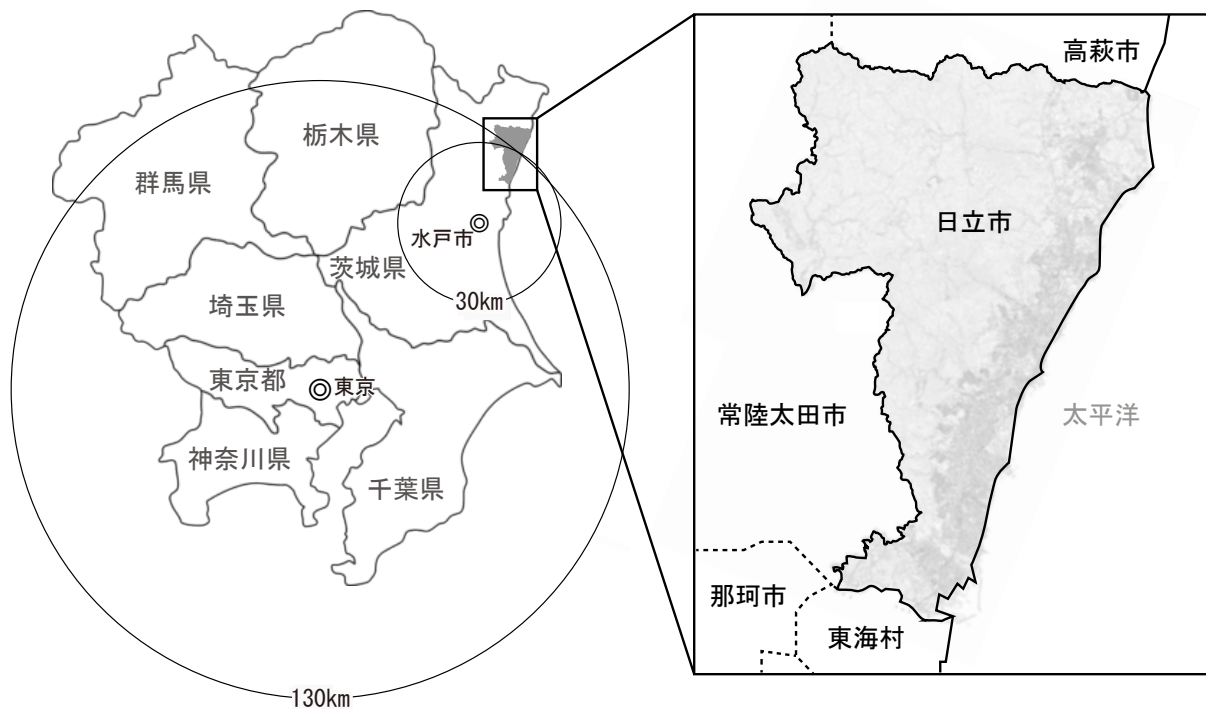
図：本計画作成の体制

第1章 日立市の概要

1 自然的・地理的環境

(1) 位置

本市は、関東平野の最北端、茨城県の北東部に位置している。本市中心部の位置は、東京から北東に約130km、県庁所在地である水戸市中心部から約30kmの距離にある。面積は225.71km²を有しており、南北26.3km、東西17.9kmである。東は南北約33kmの海岸線で太平洋に面し、北は高萩市と接している。南は久慈川を挟んで東海村に相對し、西は阿武隈山地を境として常陸太田市に隣接している。



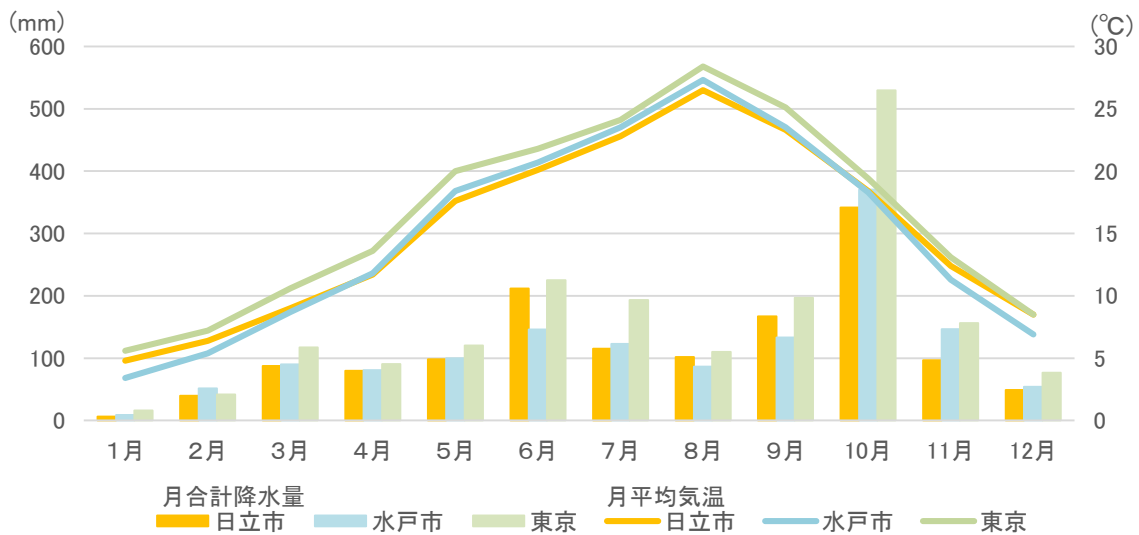
図：日立市の位置

(2) 気候

本市は、太平洋側気候を代表する東日本型の東海・関東気候区に属し、2019年の夏(6～8月)の平均気温は23.1℃で降水量が多く、2019年の冬(12～2月)の平均気温は7.3℃で晴天の日が多い。

市街地は太平洋と多賀山地に挟まれているため、年間の気温差が小さく温暖である。本市の2019年1月と8月の平均気温差は21.7℃であり、水戸市の23.9℃及び東京の22.8℃より低く、関東圏北部に位置しつつも比較的温暖な気候である。

本市の2019年の年間降水量は1,394mmで、東京の1,874mmより少なく水戸市の1,391mmとほぼ同量である。また、本市は降雨時に海水から発生した水蒸気を含んだ空気が山地の斜面に吹き付けることが特徴であり、茨城県内では年間降水量が多い地域である。



図：2019年の日立市、水戸市、東京都における月合計降水量及び月平均気温

(3) 地形

本市の地形は、山地、丘陵地、台地、低地、平地から成り立っている。これらは気候変動による海水面の上昇下降や地殻変動等による、陸地の隆起と沈降の繰り返しによって形成されてきたものである。

山地は、福島県から南北に連なる阿武隈山地の南端に当たる多賀山地である。起伏が少なく、南下するにつれて高度が低くなっており、市内の約60%を占めている。神峰山^{かみね}や高鈴山^{たかすず}は、硬い岩石のために侵食から取り残された残丘である。

丘陵地と台地は関東ローム層から成り、多賀山地の東側を海岸線に平行して南北に続く海岸段丘である。そのうち、山地を縁取るように分布する標高120m前後の部分を丘陵地（上位台地）といい、丘陵地と50m前後の高低差で接し、丘陵地と太平洋の間を南北に連なる標高60m～20mの部分を台地（中位台地・下位台地）という。これらの丘陵地と台地に、主要な市街がつくられている。

低地は、久慈川下流や北部海岸に分布している。久慈川下流の低地は、多賀山地の南端から東海村までの台地が、久慈川の洪水等により侵食されてできた氾濫原低地で、川の氾濫によってできた自然堤防上が、畑や住宅として利用されている。

平地は、十王川や里川の谷間に小規模に形成されており、集落が発達している。

また、本市東部には、南北に長く海岸線が伸びており、直角にそそり立つ海食崖や砂浜等の変化に富んだ地形を見せている。硬い地層が侵食に耐えて岬をつくっており、漁港に活用されている。

(4) 水系

本市の水系は、阿武隈山地南部の多賀山地及び久慈山地、八溝山^{やみぞ}地に源を発している。多賀山地を東流する十王川^{じゅうおう}、東連津川^{とうれんづ}、北川、宮田川、鮎川、桜川、茂宮川等の河川は多賀山地の傾斜に沿って谷を刻み、山麓の平地に出る所で小規模な扇状地を造っている。里川は、多賀山地と久慈山地に挟まれた谷底平野を南流し、本市南西部で久慈川に合流する。久慈川は、茨城県、福島県、栃木県の県境に位置する八溝山^{やみぞ}に水源を持ち、山間部を流れて平野を流過し、里川等の支流を合わせて市境南辺を東流している。

(5) 地質

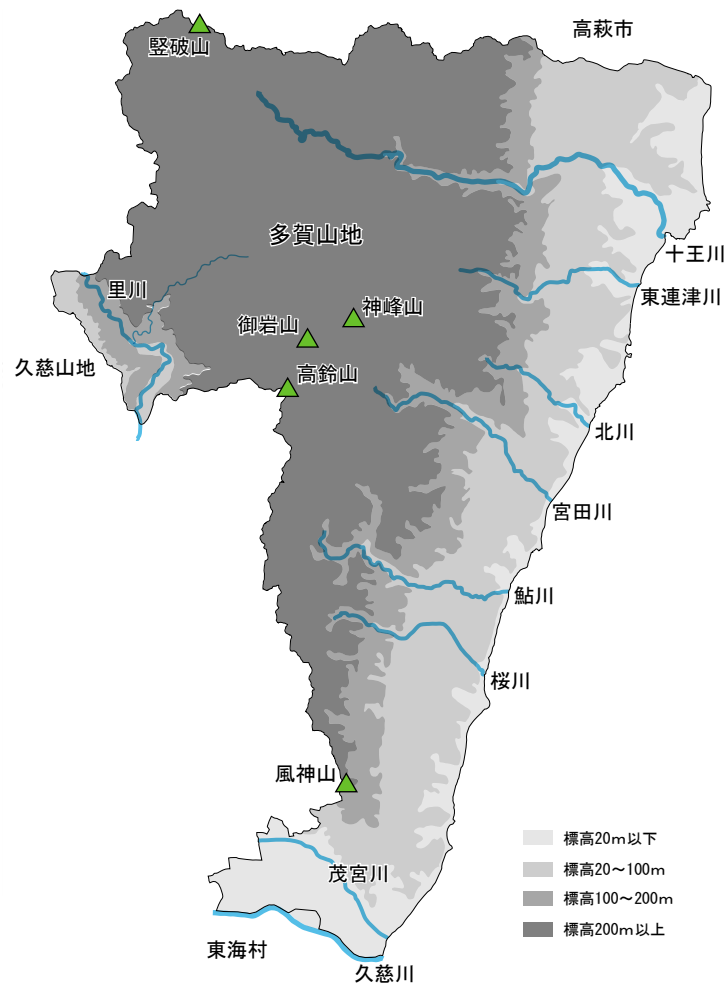
本市を含めた阿武隈山地一帯には、日立古生層が分布している。日立古生層は新しい方からペルム紀、石炭紀、カンブリア紀の地層で形成されており、カンブリア紀の地層からは、日本最古である5億3,300万年前の地層が発見されている。古生層は、古生代(約5億4,100万年前～2億5,000万年前)には海底に没していたが、古生代末頃からの造山運動により海上に押し上げられた結果、阿武隈山地が出現した。新生代(約6,600万年前～現在)には、阿武隈山地は侵食を受けて準平原化が進み、地下の深部にあった花崗岩類や変成岩類が地表に現れるようになった。

阿武隈山地に含まれる多賀山地は、鉍石をはじめ石灰岩や石炭等の地下資源に恵まれている。日立鉍山や十王町域の炭鉍、セメント工場等によって開発されたこれらの地下資源は、本市に興った鉍工業を支える基盤として、地域の経済発展に大きな役割を果たしてきた。

日立鉍山や諏訪鉍山の鉍石は、層状含銅硫化鉄鉍(変成鉍床)で黄鉄鉍や黄銅鉍・閃亜鉛鉍等が含まれている。この鉍石を製錬することによって、銅を主体に亜鉛、鉛、金、銀等も生産された。

石炭は、福島県南東部から日立市北部の十王町域にかけて分布している。十王町域では、昭和期に楡形炭鉍や川尻炭鉍が開業した。

石灰岩は、主に助川町の大峰山や諏訪町の大平田・滝平等に分布している。明治期には、石灰岩を原料とするセメント生産のために助川セメント製造所(現在の日立セメント(株))が創業した。また、大久保の風穴や諏訪の水穴は、長い年月にわたる地下水による石灰岩の溶解によって形成された鍾乳洞である。



図：日立市の地形・水系

(6) 生態系

ア 植生

本市は照葉樹林帯に属しており、植生は沿海部、平地部、山地部で区分できる。

沿海部の海食崖^{かいしょくがい}には、タブノキ、シロダモ、モチノキ、ヤブツバキ、オオバイボタ、ヒサカキ、カジイチゴ、マルバグミ等が生育している。沿海部の林床には、タブノキ、トベラ、ヒサカキ、ススキ等が目立つ。砂浜には、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ハマアオスゲ、オニシバ、ハチジョウナ、ハマニンニク、ギョウギシバ、ツルナ等の海浜植物が見られる。イブキの自然分布の北限に近い花貫川^{はなぬき}河口には、樹齢約400年の「いぶき山イブキ樹叢^{じゅそう}（国）¹」が存在する。

平地部では、スダジイやカシ類が生育している。十王町の「愛宕神社境内「椎」（市）」や日高町の「澳津説神社のシイ（市）」は、市北部を代表する巨木である。大みか町の「大甕神社境内樹叢（市）」には、スダジイやサクラの巨木が生育している。また、大久保町の鹿嶋神社境内には、樹齢550年以上といわれる「駒つなぎのイチョウ（県）」がある。

山地部には、アカマツ、コナラ、スギ、ヒノキ等の二次林が見られる。スギは沢沿いや山腹に多い。「御岩山の三本杉（県）」は、樹齢500年以上と推定されており、高さ約39mの市内で一番高い木とされている。「本山の一本杉（市）」は、日立鉱山の開発による伐採から逃れて残る巨木である。

また、神峰山^{かみね}や高鈴山^{たかすず}の周辺にはオオシマザクラ、クロマツ、ニセアカシア、ヒノキ、ヒサカキ、オオバヤシャブシ等が、市内の諏訪台^{すわだい}、杉本^{すぎもと}、大雄院^{だいおういん}、本山通り等にはオオシマザクラやソメイヨシノが見られる。これらは、日立鉱山の銅製錬によって発生した排煙に含まれる亜硫酸ガスの被害に耐え得る植物として、鉱山が大正2年（1913）から12年間かけて植栽したものである。その結果、山の緑は復元された。

昭和52年（1977）には、サクラが市の花に、ケヤキが市の木に制定された。かみね公園や平和通りのサクラ並木は、本市の観光名所の一つとなっている。けやき通りのケヤキ並木は、新緑の頃に特に素晴らしい景観を見せる。

イ 動物

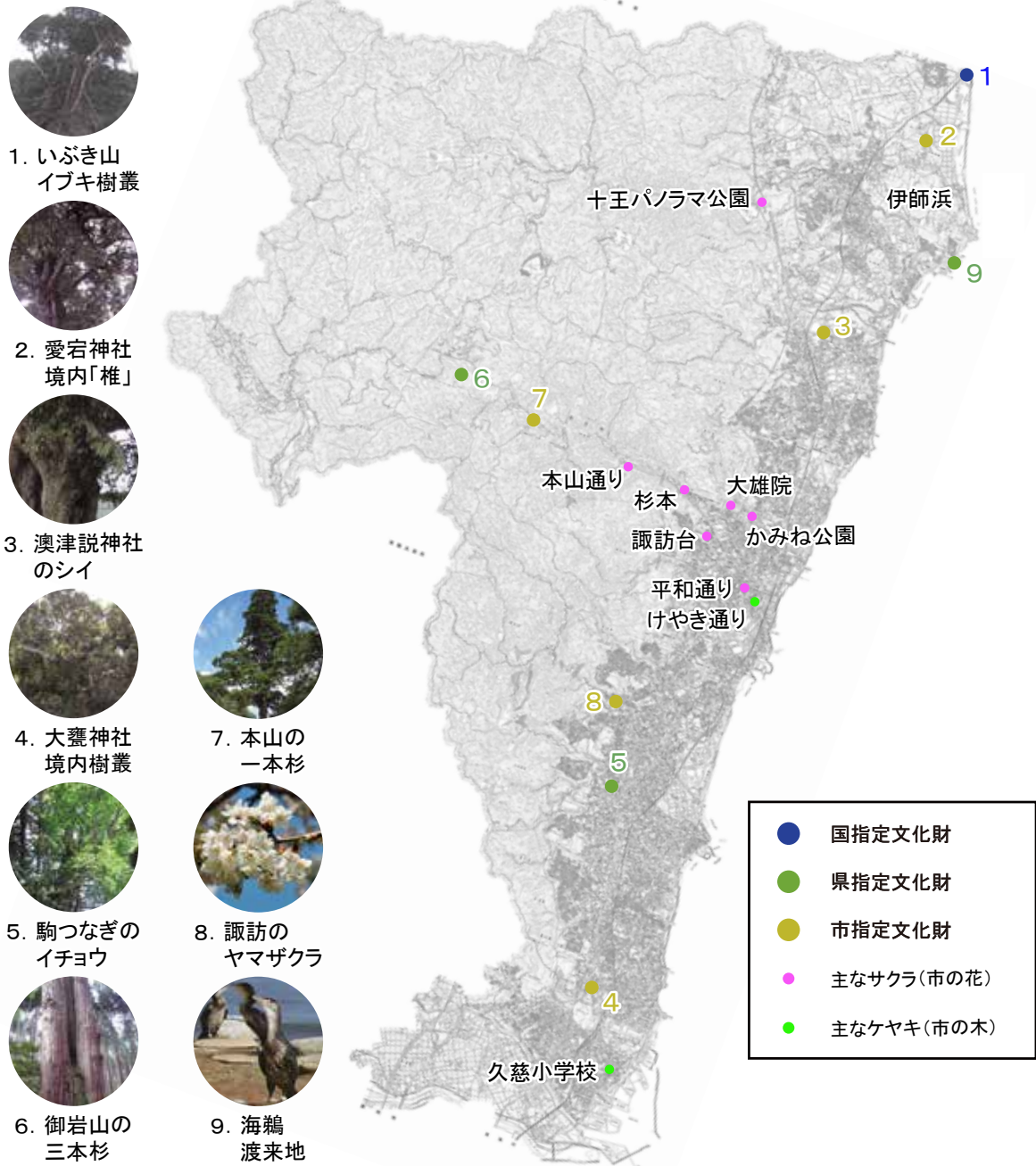
本市北部の十王町伊師浜^{いし}は、魚介類・甲殻類の生息に必要な海藻が繁茂していることから、それらを餌とするウミウやアカウミガメの休息地・産卵地となっている。また、数千万年前に海底に堆積した火山噴出物等が、海水面と地盤の上昇下降の繰り返しによって段丘状に重なった軟質な岩盤を有しており、岩棚や岩礁に鵜捕り場を作りやすい地形となっている。

ウミウは、毎年春と秋に伊師浜に飛来して渡りの休息を行う。鵜飼いに用いられる種であり、「海鵜渡来地（県）」で捕獲されたウミウは、全国11か所の鵜飼地に供給されている。

アカウミガメは、伊師浜が太平洋側における産卵・ふ化の北限地とされている。南方系の爬虫類であり、国際希少野生動物種に指定されており、環境省レッドリスト及び茨城県のレッドリストで絶滅危惧種に選定されている。

平成元年（1989）にはウミウが市の鳥に、平成15年（2003）には「さくらダコ」が市のさかなに制定された。「さくらダコ」は、水揚げ量が過去30年間県内1位であるタコに市民に親しみのある「さくら」を冠し、日立沖で漁獲されるミズダコ・ヤナギダコの総称として決定した。

¹（国）は国指定文化財、（県）は県指定文化財、（市）は市指定文化財を指す。



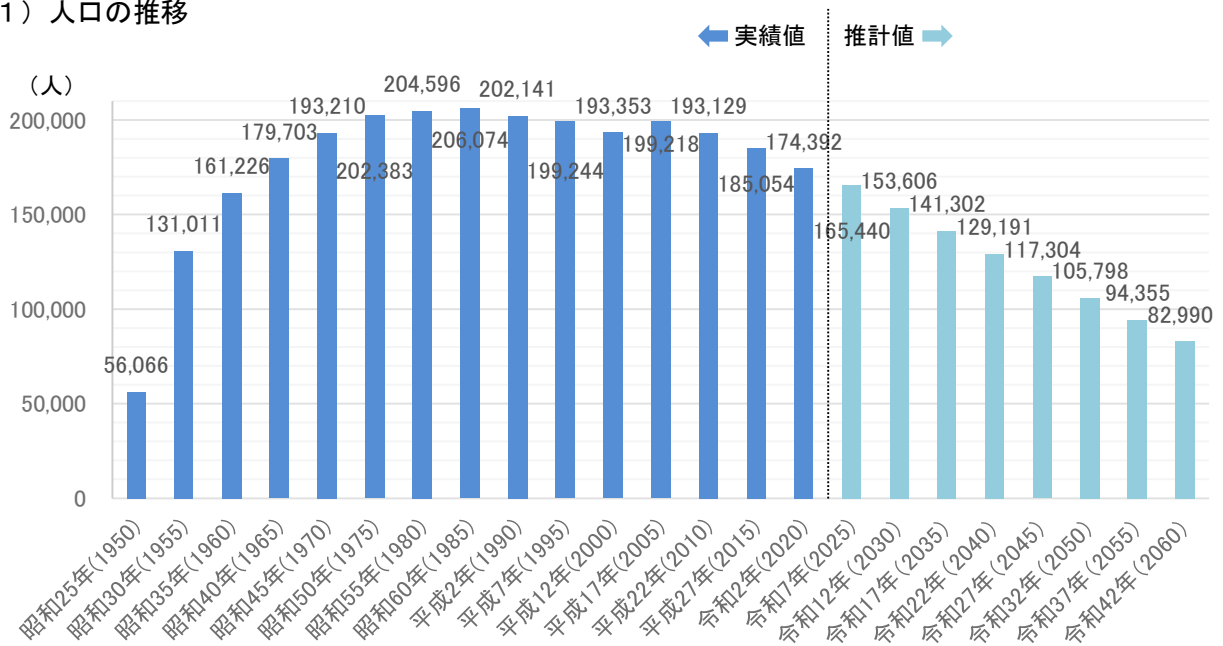
図：指定文化財の天然記念物及び主なサクラ・ケヤキの位置

表：市の花・木・鳥・さかなのシンボルマーク

名称	シンボルマーク	シンボルマークのデザイン	名称	シンボルマーク	シンボルマークのデザイン
サ市の クの花		ひたちの「ひ」の文字で5枚の花びらを構成させ、市民が手を繋ぎ合う様子を表現した。	ウ市の ミウ		太平洋から立ち昇る大きな太陽を全身に浴びて輝くウミウを表現した。
ケ市の ヤの木		市民の腕の輪と日立という文字を抽象的に融合させた。	さ市の くら ダコ		大きく元気なさくらダコを表現した。

2 社会的状況

(1) 人口の推移



図：日立市の総人口の推移（令和7年（2025）以降は将来推計）
（総務省国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計を基に作成）

本市の人口は、戦後の復興から高度経済成長、また昭和30年（1955）の周辺町村の編入を経て、13万人を超えるまでになり、その後も人口は増加し1960年代には総人口数が県内で第1位の市となった。増加の一途であった人口は、昭和58年（1983）の206,260人をピークに徐々にその数を減らし、少子高齢化の進展とともに総人口が減少傾向にあるものの、令和2年（2020）10月1日現在（常住人口）は、17万4千人が生活する県北地域の中核的な都市である。

しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計（2018年推計）によれば、令和42年（2060）の本市の人口は、令和2年（2020）時点の約半分まで減少し、82,990人になると推計されている。

(2) 市域の変遷

明治期以降の市域の変遷は、次に示す図表のとおりである。

「日立」の名を冠した市町村は、明治22年（1889）に市制・町村制により誕生した日立村が最初となる。大正13年（1924）には、町村制への移行によって日立村は日立町となった。昭和14年（1939）9月に日立町と助川町が合併し、本市が誕生した。その後昭和30年（1955）・昭和31年（1956）に周辺の町村と合併し、平成16年（2004）に十王町と合併したことにより、現在の市域が形成された。

表：日立市域の形成に関わる年表

年	月日	出来事
明治初期		久慈郡と多賀郡からなる。(図：明治初期の日立市域)
明治 22 年(1889)	4月1日	市制・町村制により2町 12 箇村が誕生する。 宮田村、滑川村が合併し、日立村になる。 助川村、会瀬村が合併し、高鈴村になる。 諏訪村、成沢村、油縄子村が合併し、鮎川村になる。 下孫村、金沢村、大久保村が合併し、国分村になる。 大沼村、森山村、水木村が合併し、坂上村になる。 大和田村、石名坂村、南高野村、茂宮村が合併し、坂本村になる。 神田村、留村、下土木内村が合併し、東小沢村になる。 中深荻村、下深荻村、入四間村、東河内村が合併し、中里村になる。 高原村、山部村、黒坂村、福平村(現在は高萩市の一部)が合併し、黒前村になる。 友部村、伊師本郷、伊師村の一部が合併し、櫛形村になる。 川尻村、砂沢村、折笠村が合併し、豊浦町になる。 小木津村、田尻村が合併し、日高村になる。 河原字村が河原字町になる。
明治 27 年(1894)	2月5日	久慈村が久慈町になる。
大正 13 年(1924)	8月 26 日	多賀郡日立村が多賀郡日立町になる。
大正 14 年(1925)	1月1日	高鈴村が助川町になる。
昭和 14 年(1939)	4月1日	国分村、河原字町、鮎川村が合併し、多賀町になる。
	9月1日	日立町、助川町が合併し、日立市になる。
昭和 16 年(1941)	2月 11 日	坂上村が多賀町に編入する。
昭和 30 年(1955)	2月 11 日	黒前村、櫛形村が合併し、十王村になる。
	2月 15 日	多賀町、坂本村、久慈町、東小沢村、中里村、日高村が日立市に編入する。
昭和 31 年(1956)	1月1日	十王村が十王町になる。
	9月 20 日	豊浦町が日立市に編入する。
平成 16 年(2004)	11 月1日	十王町が日立市に編入する。



図：明治初期の日立市域

(3) 土地利用

本市の市街地は海岸沿いに南北に細長く広がっていることから、都市計画区域も同様の範囲に指定されている。平成 28 年度（2016）都市計画基礎調査によると、都市計画区域内の区域区分の内訳は市街化区域 5,061ha、市街化調整区域 3,252ha となっており、都市計画区域内の市街化区域の割合は約 60.8%であり、区域区分制度を採用している茨城県内の市町村の中で最も高い。また、都市計画区域 8,313ha のうち自然的土地利用が約 2,937ha、都市的土地利用が約 5,376ha となっており、自然的土地利用では山林が、都市的土地利用では住宅用地が、それぞれ最も多くを占めている。

凡例

-----	都市計画区域
-----	市街化区域及び市街化調整区域
用 途 地 域	第一種低層住居専用地域
	第二種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域
そ の 他 の 区 域	防火地域
	準防火地域
	高度利用地区
	臨港地区
都 市 計 画 施 設	都市計画道路
	都市計画公園
	都市計画緑地
	都市計画広場
	都市計画交通広場
	都市計画市場
	下水道排水区域
ポンプ場・終末処理場	
土地区画整理事業	
市街地再開発事業	
地区計画	
都市公園	
急傾斜地崩壊危険区域	
-----	建築協定



図：日立市の都市計画区域（平成 27 年（2015）3 月現在の日立市都市計画図を基に作成）

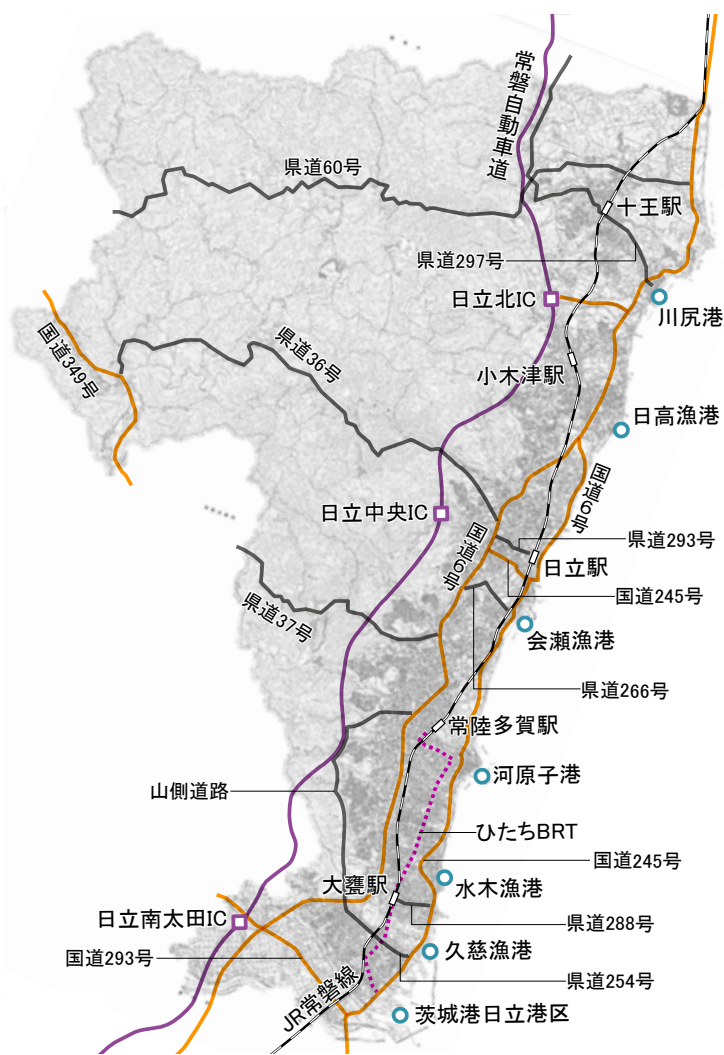
(4) 交通

本市の交通網は、道路交通と鉄道等の公共交通に分けられる。

主な道路交通としては、国道6号、国道245号、国道293号、国道349号、常磐自動車道がある。国道6号は、東京都の日本橋を起点として千葉県・茨城県・福島県を経て宮城県仙台市に至る。明治期以前は、水戸から岩城・岩沼まで通じる街道として岩城相馬街道（岩城相馬道、岩城街道）と呼ばれ、明治期になると浜街道や陸前浜街道と呼ばれた重要な道路である。国道245号は、水戸市を起点として、ひたちなか市・東海村を経て本市に至る茨城県内の道路である。国道293号は、茨城港日立港区から常陸太田市を経て栃木県に至る。国道349号は、水戸市を起点として福島県を経て宮城県柴田郡柴田町に至る道路であり、本市内においては西端の一部を縦断する。明治期以前は、水戸から棚倉まで通じる街道として棚倉街道と呼ばれた。常磐自動車道は、埼玉県三郷市を起点として埼玉県・千葉県・茨城県・福島県を経て宮城県仙台市に至る。常磐自動車道の本市内のIC（インターチェンジ）は3箇所あり、日立南太田IC、日立中央IC、日立北ICである。昭和62年（1987）に日立南太田ICから日立北ICまでが開通し、平成元年（1989）に全線が開通した。

公共交通機関は、JR常磐線、バス、乗合タクシーがある。JR常磐線は、東京都の上野駅から宮城県の仙台駅までを繋いでおり、本市内には大甕駅、常陸多賀駅、日立駅、小木津駅、十王駅があり、在来線特急「ひたち」「ときわ」は上野東京ラインに乗り入れている（終点は品川駅）。バスには路線バスや、日立電鉄線跡地を活用した「ひたちBRT（定時性・速達性に優れたバス高速輸送システム）」がある。ひたちBRTは、道の駅「日立おさかなセンター」からJR常陸多賀駅までの約8.6kmを結んでいる。乗合タクシーには一般のもの他に、市内南部地区における大型乗合タクシー「みなみ号」や、山間部と市街地を結ぶNPO法人が運営する「なかさと号」がある。

また、市内には3つの港湾と4つの漁港がある。港湾の中心は茨城港日立港区であり、北関東における物流拠点として国内外を結ぶ玄関口になっている。漁港の中心は久慈漁港であり、近接する道の駅「日立おさかなセンター」では水揚げされた鮮魚が地元の特産品と共に販売され、多くの地元客や観光客が訪れている。



図：日立市の交通網及び港湾・漁港の位置

(5) 産業

ア 第1次産業—農業・林業・水産業

本市域は、明治中期まで農漁村が点在していたが、日立鉱山と日立製作所が創業して以降、昭和30年代（1955～1965）に至って工業が発展し、かつて農耕地であった台地は工業用地や宅地となった。昭和期には米が農業生産額の1位であったが、平成2年（1990）を境に野菜の生産額が米を上回る事となった。本市の水田地帯は、十王川や東連津川、里川、茂宮川、久慈川流域などの低地に形成されている。また、畑は十王町伊師、滑川町、大久保町、金沢町、水木町、茂宮町等に分布し、カボチャ、キャベツ、ダイコン、ハクサイ、パレイショ、ハウレンソウ、ナス、ネギ等が栽培されている。

林業は、黒坂・高原地区、中里地区や諏訪地区において、昔からスギ、ヒノキの造林が盛んに行われてきた。令和元年（2019）には、本市の森林面積は総面積の約58.8%を占めており、そのうちスギを主体とした人工林率は59.4%である。しかし、現在の森林所有者は農業との兼業がほとんどであり、労働力は減少している。

本市の近海は水産資源が豊かであるため、沿岸漁業が発達した。本市内の漁港は、久慈漁港をはじめとして、風をよけられる岬の陰の入江や河口に立地し、明治以前より天然の良港として発展した。水揚げされる主な魚は、アジ、アンコウ、イワシ、カレイ、コウナゴ、サバ、サンマ、シラウオ、シラス、タイ、タコ、ヒラメ、ブリ、メバル等であり、平成21年（2009）現在の漁獲量は茨城県内第3位である。しかし漁業就業者は高齢化し、就業者数は減少している。

イ 第2次産業—鉄鋼業

戦前から鉱工業都市として発展していた本市は、戦災で大きな打撃を受けたが、日立製作所社長小平浪平が終戦の翌日には再建方針を示し、昭和30年（1955）頃には復興した。そして、日本の産業経済の発展とともに伸長してきた日立鉱山や日立製作所の非鉄金属・電気機械工業の基幹産業が、本市に多くの工場を設立した。それに伴い労働人口は増加し、鉱工業都市として発展を続けた。現在でも市民の多くは製造業関係の仕事に携わっている。

ウ 第3次産業—商業

本市の商業地は、日立鉱山の発展とともに形成されてきた。昭和30年（1955）代に始まる高度経済成長期には、JR常磐線の日立駅を中心とする日立地区を市内の都心部、常陸多賀駅を中心とする多賀地区を副都心とする形で商業が発展した。小売業の商店数及び年間販売額は、平成9年（1997）以降減少傾向にある。大型店が増加し、中小小売店が減少したことから、一店舗あたりの従業者数及び売り場面積は増加している。



写真: 久慈川流域の水田地帯
(『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)



写真: 黒坂・高原地区のスギ・ヒノキの造林
(『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)



写真: 久慈漁港
(『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)

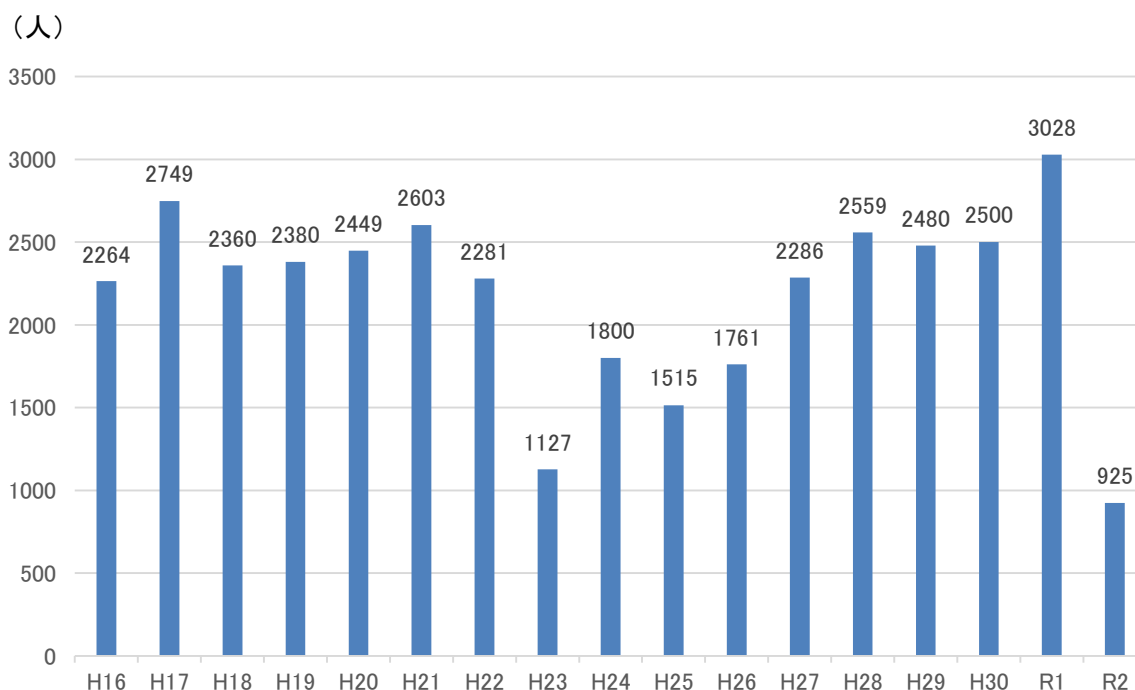


写真: 日立市の中心地と日立製作所日立工場
(『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)

(6) 観光

ア 近年の観光の特徴

現在の本市の観光入込客数（以下、延べ人数）は、平成 23 年（2011）に東日本大震災の影響で大きく落ち込んだが、震災以前の状況に回復しつつある。平成 30 年（2018）の観光入込客数は約 250 万人、前年比 100.8%であった。この観光入込客数は、茨城県内 43 市町村において第 8 位である。本市で開催される主な行事の入込客数と前年比をみると、ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」が公開される日立さくらまつりが約 38 万人で 163%、ひたち国際大道芸が約 13 万人で 137%、日立市産業祭が約 11 万人で 109%であった。観光客の増加には、従来の観光地点の入込客数が増加したことや、公設海水浴場の利用者数が増加したことが考えられる。本市には 6 箇所の海水浴場があり、平成 30 年（2018）の利用者数は県内第 3 位である。しかし、令和 2 年（2020）には新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止のため、多くのイベントが中止となり、観光客数は減少している。



図：日立市の観光入込客数（延べ人数）の推移（「茨城県観光客動態調査」を基に作成）

イ 主な文化活動

本市で年間で開催される文化活動には、主に次に示すものがある。

表：日立市で開催される主な文化活動（表中の実施月日は2019年の実績）

分類	文化活動名	月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
総合	かみね公園正月まつり(1/2～1/6)												
	Hitachi Starlight Illumination(11/23～1/19)												
	日立市民凧あげ大会(1/16)												
	日立さくらまつり(4/1～4/14)												
	奥日立きららの里「春まつり」(5/25～5/26)												
	海水浴場開設												
	日立港まつり(7/28)												
	ひたち河原 <small>かわらご</small> 子海上花火大会(8/3)												
	十王 <small>じゅうおう</small> まつり(8/4)												
	よかつぱまつり(9/7)												
	奥日立きららの里「秋まつり」(10/19～10/20)												
	百年塾フェスタ(10/20)												
	ひたち国際文化まつり(11/17)												
音楽	ひたち童謡のつどい(1/20)												
	ひたちジュニア弦楽合奏団スプリングコンサート(4/21)												
	市民吹奏楽団定期演奏会(5/26)												
	ゆめ夢ライブ(7/27)												
	市民吹奏楽団ポップスコンサート(12/8)												
	奏でガーデンコンサート(10/19)												
美術	フレンドシップ・キルト展(2/27～3/3)												
	ひたち子ども芸術祭(3/9～3/10)												
	ひたちサンドアートフェスティバル(7/14)												
	日立あんどんまつり(8/3～8/18)												
	日立市美術展覧会(9/7～9/15)												
科学産業	日立サイエンスショーフェスティバル(1/27・2/3)												
	日立市産業祭(11/9～11/10)												
	青少年のための科学の祭典(12/1)												
運動	日立さくらロードレース(4/7)												
	日立市パンポン大会(8/31)												
芸能	ひたち舞祭(4/6)												
	ひたち国際大道芸(5/11)												
	ひたち街角小劇場(7/14～7/15 他)												
	ひたち納涼寄席(8/27～8/28)												
	ひたち秋祭り～郷土芸能大祭(10/26～10/27)												

ウ 主な特産物

本市には多くの特産物があるが、特に優れたものが「ベストセクションひたち」として、日立市地域ブランド推進協議会により認定されている。「ベストセクションひたち」は、農林水産部門、工業品部門、加工食品、飲料部門および菓子類の5つの部門ごとに認定されており、地域産業の活性化に繋げるため、ホームページやパンフレットに掲載されるほか各種物産展、キャンペーンなどへの出展などで紹介されている。

表：ベストセクションひたち一覧

部門	商品		
工業技術	超小型ICタグ 高速排斥機	目視検査支援機 Neoview 生ごみ処理機／バイオトイレ	ロボット用モーター 新素材鳥居
農林水産部門	茂宮かぼちゃ 茂宮はくさい	しらす さくらダコ	あんこう 本じらうお
加工食品	久慈浜しらす ざる豆腐みどり 潮の香うどん 海洋ミネラル納豆 菊水ゴールド納豆 奇跡の納豆 さんまみりん干 天日干ひもの	手作りさしみこんにやく 玉姫醤油 古式醸造手造りみそ 金印長寿生みそ さんまソフトみりん干 ポポーアイスクリーム 生食用しらす 海の輝き	桜干 いわしごま漬 いかかば さくら花づけ さくら塩 さばみりん干 愛菜ピクルス
酒類・飲料	大観 富久心 艶やかひたち 焼酎共楽	二人舞台 日立市十王町のお酒 アイガモ米糍の甘酒 姫梅酒7フレーバーセット	常陸蔵 玉の雫 ポポーワイン
菓子類	大みか饅頭 日立発しあわせ通信 日立かすていら フィグケーキ アーモンドケーキ	NAGISA シュークリーム むらさきもアイスクリーム ひたちしらす胡麻チュイール 四季薔薇のロールケーキ	日立煎餅 みそプリン 潮桜せんべい 弥栄日和



写真：久慈浜しらす
（『ベストセクションひたち』より）



写真：ポポーワイン
（『ベストセクションひたち』より）

(7) 地名

ア 「日立」の地名由来

明治22年(1889)に町村制が敷かれ、宮田村と滑川村が合併して誕生した「日立村」の名称については、「水戸藩第2代藩主徳川光圀が本市域を訪れ、海から昇る朝日の美しさに『日の立ち昇るところ領内一』と称えた」という故事に由来する説がある。この説の初出は、『常陸多賀郡史』(茨城県多賀郡、大正12年(1923))の記述「藩主源光圀卿元禄八年九月十日神峰山奥殿に登拜の時、旭日の立ち昇る光景の偉大なるは、領内無二と仰せられたりと。村名これに出づ」である。

大正13年(1924)から町制を施行した「日立町」においても、「日立」の地名は受け継がれることとなった。

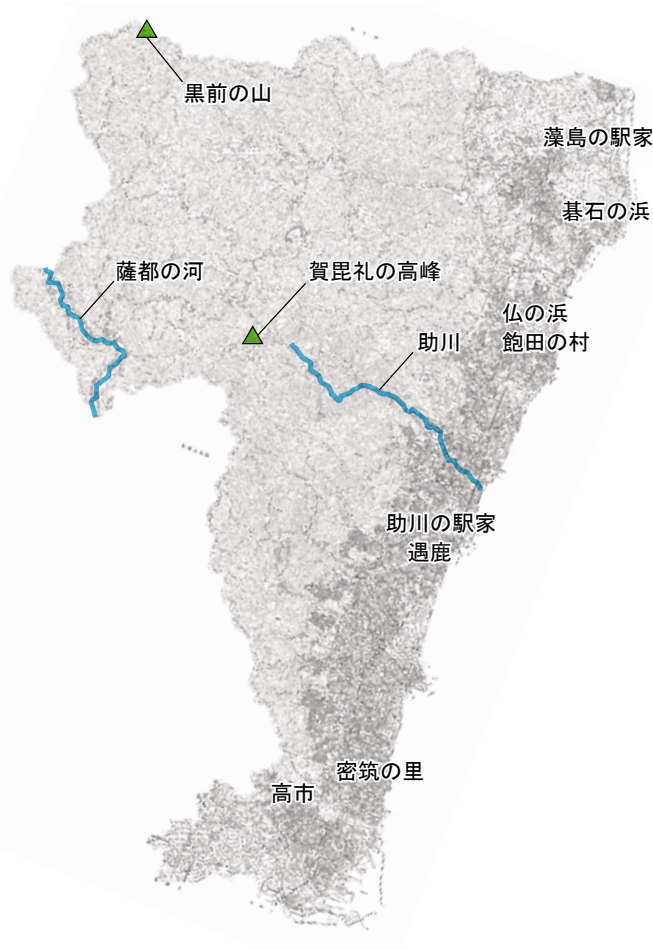
昭和14年(1939)に日立町と助川町が合併して本市が誕生した。市の名称については、日立鉱山と日立製作所によってその名を広く知られていることから、国および茨城県が「日立市」を推したことによって決定した。

イ 『常陸国風土記』に記載された地名と推定地

奈良時代に編纂された『常陸国風土記』には多くの地名が記されており、本市にはその推定地がある。主なものを以下に示す。

表：『常陸国風土記』に記載された地名と推定地

『常陸国風土記』に記載された地名	候補となる推定地
かびれ たかみね 賀毘礼の高峰	おいわさん 御岩山
さつ 薩都の河	里川
たけち 高市	久慈町・南高野町・ 石名坂町周辺
みつぎ 密筑の里	水木町
みつぎ おおい 密筑の里の大井	泉が森
すけかわ 助川	宮田川
すけかわ うまや 助川の駅家	幸町(日立駅)
あきた 飽田の村	相田町
あうか 遇鹿	相賀町・会瀬町
ほけ 仏の浜	どしかんのん 度志観音(田尻町) 東連津河口
めしま うまや 藻島の駅家	ちようじやまいせき 長者山遺跡
ごいし 基石の浜	伊師浜周辺
くろさき 黒前の山	たつわれさん 豎破山



図：『常陸国風土記』に記載された地名の推定地

3 歴史的背景

(1) 原始（旧石器時代～弥生時代）

- ・人々が生活した痕跡である遺跡が、市内各所に発見されている。
- ・海や山からの豊富な天産物の存在を裏付ける、土器や石器、骨角器等が発見されている。

3万年前～1万年前、那須岳・日光男体山・浅間山が噴火し、本市域には火山灰から成る関東ローム層が形成された。本市域では、この地層から10箇所以上の旧石器時代の遺跡が発見されている。発見された中で最も古い石器は、関東ローム層の最下層から出土した鹿野場遺跡の石器類である。また、関東ローム層の中層から出土した六ツヶ塚遺跡の炉跡は約2万5千年前のものであることが判明し、本市域ではその当時から人々が生活していたことが明らかになった。この時代は定住するための住居をもたず、岩陰やテントのようなものに住みながら大型の獣を狩猟していたと考えられる。

1万5千年前～1万3千年前に氷河期が終わると、農耕が伝わるまでの約1万年間、縄文時代が続く。本市域では、この時代の遺跡が150箇所以上発見されており、特に縄文時代後期の代表的な遺跡である久慈川河口の南高野貝塚からは、土器や石器、人骨、骨角器（釣針）が出土している。貝でできた装身具である貝輪や動物骨を加工して作成した釣針等が出土していることから、当時の人々の生活においても河川や海が果たす役割が大きかったと考えられる。

紀元前900年代には、大陸から九州北部に稲作が伝わり弥生時代が始まる。その後、数百年をかけて、列島東部へ広まっていったと考えられており、本市域では遅れて弥生時代が始まったようである。当地方で確認された弥生時代の遺跡は約40箇所であり、最初期の弥生土器が発見されたのは大沼遺跡である。本市域で特徴的な弥生時代の遺跡としては、十王町伊師本郷の標高40m前後の台地上に広がる十王台遺跡群を挙げることができる。ここで発見された土器は、関東地方における弥生時代後期の標識的な土器で、「十王台式土器」と名付けられており、那珂川・久慈川を中心に福島県南部域から千葉県北部域にかけて出土している。この土器の全形は優美な曲線で、土器表面の口縁部から頸部にかけては櫛歯状工具による波状文、胴部には縄文が描かれている。なお、この十王台式土器が出土する弥生時代後期の岩本前遺跡では籾の痕跡がある土器が出土したので、当地方ではすでに水稻農耕が実施されていたようであるが、現在に至るまで弥生時代の水田跡は発見されていない。



写真：南高野貝塚から出土した鹿角製釣針とオオツタノハ製貝輪等（『新郷土日立 歴史』より）



写真：十王台遺跡出土十王台式土器（県指定文化財）（『図説 十王町史』より）

(2) 古代（古墳時代～平安時代）

- ・畿内^{きない}の影響を受けた西の妻古墳の他、地域に特徴的なかんぶり穴横穴墓群などの異なる墓制が混在する。
- ・東日本唯一の風土記である『常陸国風土記』に記載された地名の推定地が各所に現存する。
- ・都から本市域を通り陸奥国へ至る古代官道と、古代官道に沿って設置された「藻島駅家」に推定される長者山遺跡が、市北部で発見されている。

3世紀後半になると畿内を中心に有力者の古墳が全国に造られ始める。古墳や集落は山間部を除く本市のほぼ全域で確認され、特に久慈川流域には濃密に分布している。現在も墳丘が残る舟戸山古墳^{ふなとやまこふん}（久慈町）や西の妻古墳^{にしつま}（石名坂町）からは、「水運の要を押さえていた有力者」の存在が浮かび上がってくる。

古墳時代の終末期、台地や丘陵の斜面に横穴を掘って墓室とする新しい墓制が登場した。横穴墓は河川や谷津沿いに群集し、その数は古墳より多く、副葬品の貧弱さや簡略な構造から、古墳の被葬者より低い階層の人々が被葬者と考えられてきた。ところが、赤羽横穴墓群^{あかばねおうけつぼぐん}（久慈町）の中には、金銅製の冠^{こんどうかんむり}のほか、武器・武具類、金銅製の馬具、ガラス製丸玉等の装身具といった優品が出土し、その墓室は奥行5m超、高さ3mもあり、従来の横穴墓のイメージを覆した。また、本市北部の十王川沿いには総数で100基を超える横穴墓が群集している。その内の、かんぶり穴横穴墓群（十王前横穴〔市〕）でみつかった彩色と線刻が施された装飾のある横穴墓は九州地方に多くみられるものであり、遠隔地との交流を推測しうるものである。

この時代を象徴した古墳は8世紀に入ると減少し、本市域を含む中央から離れた地方は中央集権的な律令体制の枠組みにはまっていくなことになる。市内の遺跡分布をみると、この体制下で形成された集落はほぼ市内全域に広がっている。この時期の具体的な様子は、遺跡のほか古代の文献に垣間見える。特に『常陸国風土記』の中には現在の本市の地名が多く記されている。

当時の本市域は、「助川^{すけかわ}（現在の宮田川）」を境に北が「多珂郡^{たかのこおり}」、南が「久慈郡^{くじのこおり}」にあたる。風土記では、助川北側が「道前」、陸奥国が「道後」とよばれており、助川北側が陸奥国へ向かう道の入口と認識されていたことが分かる。サケがのぼることに由来する助川の名は現在の助川町に、助川の前身として記された「遇鹿^{あうか}」は相賀町（または会瀬町）にのこる。助川には、おもに役人の公的な交通に利用される「助川駅家^{すけかわのうまや}」が置かれたと風土記にある。現在の地名から幸町・相賀町付近をその推定地としつつも詳細は不明であるが、その北隣りに設置された「藻島駅家^{めしまのうまや}」は、長者山遺跡^{ちやうじやま}（十王町伊師。長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡〔国〕）が有力な推定地とされている。そこでは古代官道の痕跡もみつかった。この道は、蝦夷征討のための軍用道路として整備され、都から太平洋沿岸を北上し陸奥国に至っていた。風土記記載の「黒前の山」に推定される十王町の堅破山は、古代から戦勝を祈願する信仰の地であり、山頂の太刀割石は、蝦夷征討の神として崇敬されていたとされる。平安時代初期には、蝦夷征討事業の収束にあわせるように、藻島駅家を含む太平洋沿岸の駅家が廃止され、東山道につながる新たな道が整備される等、交通網が再編された。

本市の南境となる久慈川は、当時の水運の要であり、舟戸山古墳^{ふなとやまこふん}や西の妻古墳^{にしつま}等の被葬者によって支配されていたと考えられる。風土記には、久慈川流域に位置して、織物や塩、魚介類等の

交易が行われた「高市」について書かれている。「高市」の東側に位置する「大井」は、現在の泉が森に推定される「密筑の里」内の泉であり、人々が酒と肴を持ち寄り遊楽にふけったとされる。また、密筑の里の海で採れるアワビには、不老長寿の薬を意味する「石決明」の漢字が当てられており、天皇への貢ぎ物として納められていたことが推測される。現存する他の風土記には、このような記述が見られないことから、本市域の海産物の特別性を示している。



写真: かんぶり穴横穴墓群(十王前横穴)
(『日立市民文化遺産ガイドブック』より)



写真: 東日本で唯一伝わる『常陸国風土記』
(『図説 日立市史』より)

(3) 中世 (平安時代末～安土桃山時代)

- ・ 佐竹氏の支配下で、大窪城や山尾城、吉田神社等の多くの城館・社寺が創建された。
- ・ 佐竹氏によって、赤沢銅山(後の日立鉱山)や大久保金山などで本市域の鉱山開発が始まる。

城館の建造と社寺の保護

中世の日立を治めたのは、源義光を祖とする佐竹氏である。佐竹氏は現在の常陸太田市に太田城を構え、本市域を含む奥七郡を支配した。

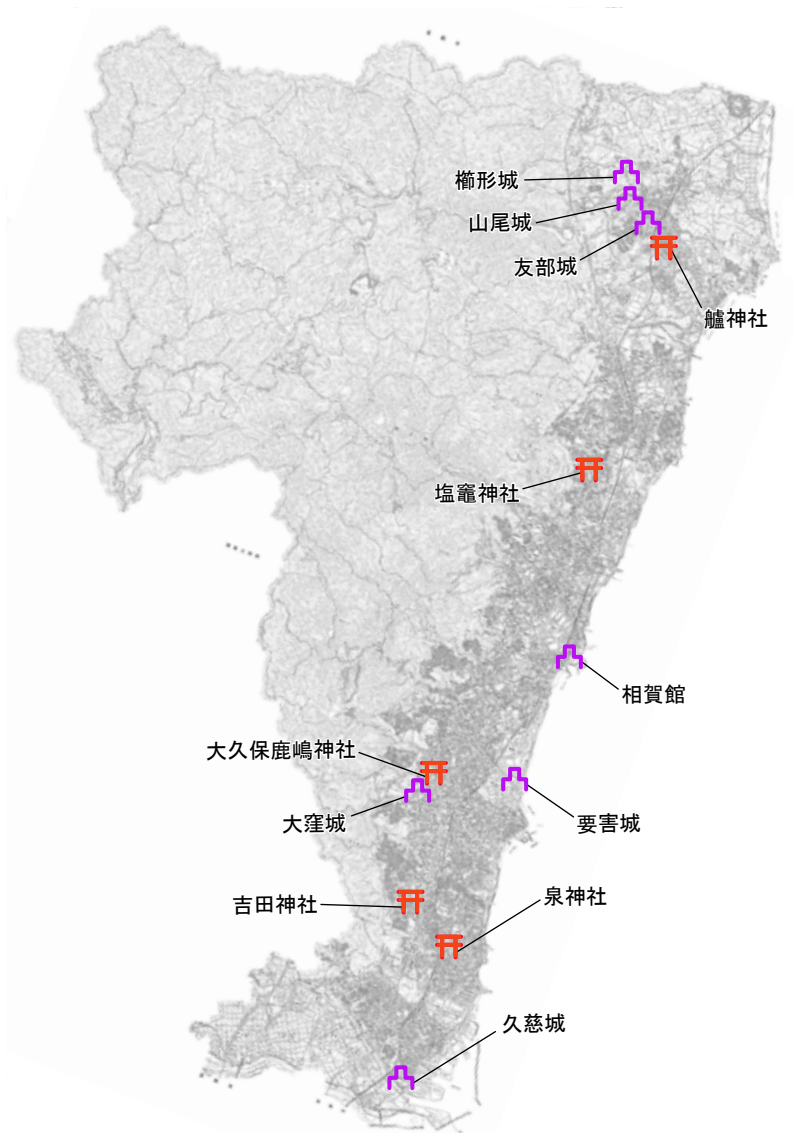
当時の本市域には、数多くの城館が造られていた。なかでも、久慈城、大窪城、要害城、相賀館が知られている。大窪城は、天神山東の台地先端に造られ、佐竹氏の重臣大窪氏が居城とした。要害城は、永禄5年(1562)に相馬中村(相馬市)の城主相馬盛胤と佐竹軍が孫沢原で戦い落城した後に創建されたといわれる。桜川河口北岸に築かれた平城であり、佐竹氏の家臣であった孫沢権大夫頼茂の居城と伝わる。また、十王町には佐竹氏の重臣として活躍した小野崎氏の居城である山尾城、友部城、櫛形城が築かれていた。山尾城跡は多賀山地の尾根の先端部、友部城は山尾城跡の南に位置した。

中世の領主は、神社や仏寺を保護し、造立や再建、修理を経済的に支配することで民衆を支配しようとした。本市の泉神社、吉田神社、鹿嶋神社、塩竈神社、鱸神社等に残る棟札からも、領主の支配や民衆の信仰をうかがうことができる。吉田神社(森山町)は、元禄8年(1695)に水戸藩第2代藩主徳川光圀の社寺改革で吉田神社に改められたが当初は八幡社であり、本市で最古の年紀である応永20年(1413)の棟札が残る。泉神社(水木町)は『延喜式』神名帳に掲載された天速玉姫命神社に比定される古代からの神社であり、棟札には16代当主義篤の外護によって社殿が造立(再建か)されたことが記されている。

佐竹氏の治世下において、人々は本市域で塩や鉄、魚、穀物を生産し、それらを太田城下へ運搬し、商いを行った。運搬には、本市域東部の海岸線から出発して多賀山地を抜ける東西の街道

が用いられ、商業活動の活性化とともに、人々の行動範囲は拡大した。

赤沢銅山は、伝承によれば佐竹氏の治世下で開発が始まったとされる。また、大久保金山からは大量の砂金等が産出されており、領国経営と軍役負担の有力な財源となっていた。



図：中世の城館・社寺の位置



写真：大窪城跡土塁(現暇修館)
(『日立市民文化遺産ガイドブック』より)



写真：応永 20 年(1413)の吉田神社棟札
(『新郷土日立 歴史』より)

(4) 近世（江戸時代～明治期初頭）

- 岩城相馬街道が整備され、助川宿をはじめとして宿場町が賑わった。
- 宮田村の赤沢銅山（後の日立鉱山）で銅の採掘が始まった。
- 徳川光圀の命令で社寺改革が行われ、日立風流物が現在の姿となるきっかけになった。
- 幕末には外国船が出没し、助川海防城が築かれた。

ア 水戸徳川家による統治

佐竹氏は慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いで態度を明確にしなかったため、慶長7年（1602）に出羽国（秋田、仙北）への国替えを言い渡された。一族や家臣は出羽国へ向かう者と常陸国で帰農する者に分かれ、重臣である山尾小野崎氏の多くは土着し、水戸藩制下で村役人を勤めるものもいた。

佐竹氏が去った後、徳川家康の第5子で下総国佐倉4万石の城主武田信吉が、水戸城主となった。信吉の死後には、家康第10子である徳川頼将が跡を継いだ。慶長14年（1609）に頼将が駿府に移ると、家康の第11子頼房が水戸に入った。ここに水戸徳川家が始まり、明治維新まで本市域は水戸徳川家の支配を受けることとなる。

徳川幕府は、幕藩体制を政治・軍事・経済の面から維持するため、江戸を中心とする五街道と、その補助の役目を担う脇往還の整備に着手した。当時の本市域には、脇往還である、水戸から奥州の岩城・岩沼までを結ぶ岩城相馬街道（岩城相馬道、岩城街道）と水戸から棚倉までを結ぶ棚倉街道が通っていた。本市域における岩城相馬街道の宿駅は、田中中村と大橋村、森山村と大沼村、下孫村、助川村、田尻村と小木津村、伊師町村（伊師村）におかれた。最も栄えたのは助川宿で、ここには大名が休泊する本陣、従者が休泊する脇本陣、一般の人々が宿泊する旅籠が軒を並べていた。本陣「長山家」には、徳川光圀も度々訪れていた記録が残る。街道沿いには、旅人のために松が植えられた。岩城相馬街道では田中内、森山、諏訪、助川、滑川、川尻、伊師に、棚倉街道では良子と東上淵に、一里塚が築かれた。

水戸藩は、藩政の確立のため家臣団の編成や郷足軽・郷侍の任用、検地など様々な施策をとった。寛永18年（1641）から実施された検地については、厳しい検地が村人の不利益になることを嘆いて役人に願書を出したが認められず処刑された金沢村庄屋の照山修理の話が伝わる。

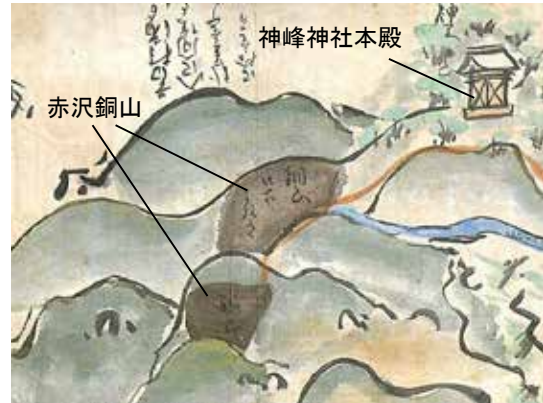
本市域では、中世から金山経営が行われていたが、寛永年間（1624～1645）から元禄年間（1688～1704）には金沢村で、元禄年間には助川村で良質な金が採掘された。金沢、大久保、諏訪、助川村では石灰岩が産出し、漆喰等の建築材の原料として用いられた。山部村や友部村では、石炭が採れることが知られていたが、燃料として利用されることは少なかった。宮田村の赤沢銅山では、寛永2年（1635）頃から断続的に銅の採掘がなされたが、鉱毒により開発は進まなかった。

近世には、鉱工業の他にも、農業を中心に林業、水産業、商業が発展した。本市域は水田に適する低地が少ないため、麦や小麦といった穀類の作付の他に、貨幣経済の影響を受けて、現金収入の得られる紅花、煙草、綿などの商品作物の作付が多かった。さらに、その立地条件を活かし、購入肥料ではなく海藻や刈敷といった海と山から採れる肥料が用いられていた。山は肥料だけでなく燃料や建築用材の生産源としても重要であり、光圀と水戸藩第9代藩主斉昭は、造林を積極的に進めた。また、貨幣経済が浸透するにつれ、海産物が集積する久慈、河原子、助川、川尻などが繁栄した。

産業の発達を背景に地主・商人層が台頭し、彼らが生活の向上と共に、学問、文学、芸能など文化面への関心を高めた結果、近世には、学問や文化が目覚ましく普及した。史学では岡部玄徳、朝日祐成、中山信名等が郷土史の研究に務めた。文学では、連山交易や大窪詩仏が詩人として名を馳せた。医学では、柴田方庵等が新知識の獲得に精進した。柴田方庵は、日本においては極めて早い段階で種痘に成功した人物で、種痘に深い関心を寄せていた斉昭もその教えを乞うたとされる。



写真：昭和 33 年（1958）頃の旧岩城相馬街道
（『新郷土日立 歴史』より）



写真：赤沢銅山と神峰神社本殿の位置
（江戸時代後期「宮田村絵図」の一部に文字等を記載）

イ 社寺改革

寛永 7 年（1630）、水戸藩は出羽三山の一つ湯殿山権現^{ゆどのさん かんじょう}を勧請し、入四間村に御岩山権現を祀った。御岩神社は、近世の本市域において最も多くの参詣客で賑わい、門前にあたる入四間には宿泊所や茶店が設けられ、集落が整備された。また、御岩神社への道案内として、黒田入り口道標や入四間道標などの道標が各所に建てられた。

寛文元年（1661）に水戸藩主となった徳川光圀は、本市域を何度も訪れており、田尻村海岸にあった栄蔵小屋に陸地から橋を架けたことなどが伝わる。光圀は神仏習合に否定的で、破却・追放・立退などの強い姿勢で社寺改革を行なった。その結果、本市域では 210 寺あった寺院は 87 寺に、105 社を超えた神社は 39 社ほどに減らされた。特に「八幡潰し、八幡改め」は八幡信仰と神仏習合との深い結びつき、ならびに佐竹氏による八幡信仰を理由に徹底的に行われた。

元禄 8 年（1695）、宮田村の神峰神社は、光圀の命によって助川村と相賀村（会瀬村）^{おうせ} 3 箇村の鎮守と改められた。それに伴い、神峰神社の祭礼は、神社から浜の宮へ渡御するものから、浜の宮、助川村を経て会瀬海岸へ渡御するものへと変化した。渡御の行程が長くなったことによって、祭礼における山車^{かまこ}がその列から離れ、工夫改良を加えられて風流化した。宮田村の 4 町から一台ずつ出されるようになった山車に操り人形^{きょうぼう}が加わるのは享保年間（1716～1735）のことであり、土着した旅芸人から人形の作り方を伝授されたという言い伝えがある。これが今日まで続く「日立風流物（国）」の起源といわれている。なお風流物は宮田村の他にも小木津村、河原子村にも存在した。

また、光圀は玉簾寺^{ぎよくれん じ}を創建して「木造観音菩薩坐像（県）」^{かんのんぼさつざぞう}を、日蓮宗宝塔寺に「木造釈迦如来・多宝如来並坐像（市）」^{たほうによらいへいざぞう}を寄進するなど本市域においては文化財の保護にも尽力した。諏訪神社の「木造万年大夫夫婦坐像（県）」^{まんねんだゆうふうふざぞう}は、光圀が参詣した際、古い像を永久保存するために新像 2 体を工人に命じて造らせ、古い像を新像の胎内に納め諏訪神社に奉納したものである。

ウ 幕末の動乱

文政 12 年 (1829)、徳川^{なりあき}斉昭が水戸藩第 9 代藩主となった。藤田^{とうこ}東湖や会沢^{せいしさい}正志齋ら改革派によって擁立された斉昭は、擁立に反対した保守門閥派を処分し、天保元年 (1830) に、農村対策、天保の検地、社寺整理などの藩政改革に着手した。天保 10 年 (1839) には、郷医の研修を主な目的として、大窪城跡の一部に水戸藩の郷校興芸館^{ごうこうこうげいかん}が創建された。弘化元年 (1844) には、興芸館は「暇修館 (市)」^{か しゅうかん}に改称され、教育の対象は郷士や村役人、好學の農民にまで広がった。暇修館は、地域の有志の政治運動の拠点となっており、天保 15 年 (1844) 以降、斉昭が幕府によって幾度となく藩政参与を停止されると、その度に郷校関係者が復権運動に立ち上がった。

文政年間 (1818~1830) 以降、沖合に異国船が現れるようになったため、海岸警備のための施設が造られ始め、天保 13 年 (1842) までに助川海防城 (助川村) や海防陣屋 (大沼・友部村)、遠見番所 (水木・折笠村) 等が完成した。嘉永 6 年 (1853) には台場 (久慈・河原子・折笠村) が築かれた。

元治元年 (1864)、藩内の尊王攘夷派の激派である天狗党は、尊王攘夷を幕府に実行させるには実力行使以外ないと考え、筑波山で挙兵した。一方、門閥派の市川三左衛門らは、尊王攘夷派の鎮派が主流を占める弘道館の諸生とともに藩政の実権を握った (諸生党)。助川海防城海防惣司の山野邊^{よしのぶ}義藝は、争乱の鎮圧に加わろうと水戸へ出陣したが、幕府・諸生党に攻撃され、天狗党とみなされてしまう。山野邊軍は、助川海防城へ引き返すも、幕府・二本松藩との激しい戦闘の結果、敗北し、助川海防城は焼失した。天狗党は、斉昭の七男であり禁裏守衛を務めていた一橋慶喜を頼り京へ向かったが、慶喜が自分達の討伐に向かっているという情報を聞き、敦賀で投降した。投降者は、幕府によって死刑・遠島・追放等の処分を受けた。

慶応 3 年 (1867)、慶喜の大政奉還によって維新政府が誕生した。慶応 4 年 (1868) から始まる戊辰戦争では形勢が逆転し、諸生党が生き残った天狗党に追われ敗走した。多くの死者・負傷者を出し争乱は終結したが、藩内が天狗党・諸生党に分かれ戦ったことは、水戸藩に多くの犠牲を生んで深い傷を残した。



写真: 日立風流物
(日立市 HP より)



写真: 助川海防城本丸跡入口
(『日立市民文化遺産ガイドブック』より)

(5) 近代（明治期～昭和期）

- ・久原房之助が赤沢銅山を買い取り開業した日立鉱山と、日立鉱山から独立・発展した日立製作所によって、本市は鉱工業都市として歩み始めた。
- ・戦時下の本市域は軍需工場地帯であったため、昭和20年（1945）に激しい攻撃を受けて焼失した。

ア 茨城県の誕生

明治4年（1871）、廃藩置県により水戸藩は水戸県となり、その後、県の統廃合がなされ水戸県は他の県とともに茨城県となった。明治6年（1873）までには、戸籍法、学制、土地自由売買制、徴兵令、地租改正条例と政治・経済・社会の基本的枠組みが整えられていった。

明治6年（1873）から明治7年（1874）にかけて、本市域では多くの村で、水漏舎（成沢村）などの私立の小学校が開校した。一方で、久慈小学校など村立の小学校も開校した。

明治7年（1874）、板垣退助らの民選議員設立建白書の提出をきっかけに自由民権運動が盛んになり、多賀郡では大津淳一郎を中心人物の1人として、政治結社「有隣社」が結成された。

明治30年（1897）には水戸・平（現いわき駅）間に日本鉄道磐城線（常磐線）が開通し、それまでに開通していた隅田川線、土浦線と繋がり、上野・平間が全線開通した。

イ 近代産業の曙

明治38年（1905）、久原房之助は赤沢銅山を買い取り日立鉱山と改称して、銅採掘及び製錬の経営を開始した。明治41年（1908）には宮田字杉室にあった曹洞宗天童山大雄院を移転し、その跡地に製錬所を建設した。赤沢銅山は近世から開発が試みられていたが、久原房之助は「日立に桃源郷を造る」という理想の下、豊富な資産と動力の機械化により、日立鉱山を日本有数の大鉱山へと発展させることに成功した。日立鉱山の発展による市の経済活性化と人口増加は、近世から受け継がれていた日立風流物の、大規模化や人形からくりの機構の複雑化にも繋がった。

明治39年（1906）、鉱山事業に必要な発電所建設の責任者として、小平浪平が日立村へ招かれた。小平浪平は日立鉱山で使用する電気機器の修理工場の工作課長にも任せられ、「5馬力誘導電動機（県）」を開発した。明治43年（1910）、小平浪平は久原房之助に資金の融通を願い出、日立村宮田字芝内に新工場を建設した。これが日立製作所（当時は芝内製作所）の創業である。日立製作所は、国内電力需要の増大と家庭の電化を受けて総合電機メーカーへと成長し、電気機械工業は現在の本市の中核工業となった。

日立鉱山の製錬所がある大雄院と採鉱所のある本山、日立製作所の芝内工場周辺では、大正中期までに社宅、供給所、病院、劇場「共楽館」など従業員のための様々な福利厚生施設が整備され、大規模な鉱山町を形成した。また、新町（現白銀町）・栄町と呼ばれた従業員のための商店や市の集積地は、近代日立における商業の中心となった。

一方で、銅製錬によって発生した排煙に含まれる亜硫酸ガスにより、周辺地域の農作物や山林が枯れるという被害が生じた。大正3年（1914）、久原房之助はこの煙害を解決するため、周囲の反対を押し切り、高さ155.7mの大煙突建設に踏み切った。翌年完成した大煙突は効果を発揮し、日立鉱山は煙害の減少と生産の拡大を同時に達成した。さらに神峰山測候所で気象観測を行うことによって煙の方向等を判断できるようになり、そのデータを基に溶鉱炉の操業を加減し、

排煙の量をコントロールする制限溶鉱が実施されるようになった。戦後、昭和 26 年（1951）に亜硫酸ガスを回収する排煙硫酸工場が完成したことによって制限溶鉱の必要性は低くなった。神峰山測候所は日立市役所に引き継がれ、昭和 27 年（1952）に日立市天気相談所となった。

明治 40 年（1907）、助川セメント製造所（のちの日立セメント）が設立された。昭和 12 年（1937）には、生産の増大を受けて助川の貯鉱場と 4 km 離れた鮎川村諏訪の大平田を結ぶ架空索道を建設し、石灰岩の採石を行った。昭和 27 年（1952）には日立セメントと改称された。

また、悪天候を回避し漁船の大型化に対応するため漁港の整備も進んだ。久慈の三代芳松は、大正 15 年（1926）に改良揚繰網漁を考案し、イワシの漁獲量増大に貢献した。

ウ 工業都市としての発展

昭和 12 年（1937）に勃発した日中戦争の影響下で、十王町域の石炭を採掘する楯形炭鉱が創業した。昭和 16 年（1941）の太平洋戦争開戦に前後して、山手・電線・海岸工場からなる日立工場、多賀町の多賀工場などの日立製作所の諸工場は軍需製品の生産に転換していった。日立鉱山においても軍需製品の製作に欠かせない銅の需要が高まり、戦時下の本市域は軍需工場地帯として著しく発展した。

昭和 20 年（1945）にはアメリカ軍による本土空襲は本格化し、軍需製品の生産を支えていた日立製作所及び下請工場の存在が、本市への攻撃理由になった。日立製作所の山手・電線・海岸・多賀工場、日立鉱山電錬工場が相次いで激しい爆撃に見舞われ、本市域も焼夷弾攻撃を受けて、市街地の 6 割以上が焼失した。



写真：明治 37 年（1904）の赤沢銅山
（『図説 日立市史』より）



写真：太平洋戦争で焼失した市街地
（『図説 日立市史』より）

(6) 現代（昭和～令和時代）

- ・戦後の本市は、国の施策に則った炭鉱開発と日立鉱山、日立製作所の再建により復興した。
- ・本市の発展の礎となった日立鉱山や炭鉱が閉山した。
- ・日立港（茨城港日立港区）の開港により、日立製作所などの製品や原材料の輸出入の一端を担う国際港が誕生した。

太平洋戦争終結後の昭和20年（1945）、日立製作所の社長であった小平浪平は、終戦の翌日に再建方針を示し、同時に日立工場の優先復旧を指示した。海岸工場の生産設備の8割は破壊されていたため、手持ちの資材と焼け残った設備を使い、電気コンロや脱穀機^{だっこく}、製粉機など市民生活に直結した製品を製造した。多賀工場では、占領軍向けのエレベーターの製造に着手した。空襲で被災した日立鉱山の電錬工場も再建され、昭和24年（1949）には戦前と同水準での生産が可能となった。下請工場も増加し、同年の本市域の中小企業数は約90社となり、その9割以上は日立製作所と日立鉱山に関わるものであった。

敗戦後、日本の産業復興の土台となるのは石炭と鉄鋼であるとして、政府はこれらを資源とする産業に労働力、資材、資金を投入した。楡形炭鉱と川尻炭鉱の出炭量は敗戦後に一時低下したが、昭和21年（1946）には、昭和19年（1944）の出炭量を超える生産をあげた。

戦争で焼け野原となった本市の市街地は、昭和21年（1946）には電気・水道が早くも戦災前の状態に復旧し、戦災復興都市計画が施行された。昭和26年（1951）には国道6号と日立駅を結ぶ平和通りが開通し、昭和27年（1952）に日立駅の改築が完了した。また、豊浦町と多賀町においても、昭和30年（1955）までに戦災復興都市計画事業が行われている。

昭和32年（1957）に建設が開始された日立港は、昭和34年（1959）に第一埠頭が完成し、日立製作所が受注した大型発電設備等の運搬が可能になった。以来、国際港としての発展を続けて茨城港日立港区となった。また、久慈漁港の建設や関連施設の整備が進む中で、昭和52年（1977）には久慈川河口が付替えられ、昭和56年（1981）の河口部分埋立てによって景観は一変した。

戦後、「黒いダイヤ」と脚光を浴びた石炭産業は、エネルギー革命により縮小されていく。かつて炭鉱によって活気に満ちていた十王町域では炭鉱の閉山が相次ぎ、昭和48年（1973）には、茨城県内最後の楡形炭鉱が閉山した。技術の革新によって生産性を高めてきた日立鉱山も、輸入銅との競争に抗しきれず、昭和56年（1981）に閉山した。最盛期に1万人以上が生活した採鉱所のある本山は、緑深い静かな地に戻っていった。

一方、昭和60年（1985）の円高不況により日立製作所も低迷していく時代を迎え、本市も影響を受けた。しかしながら、企業城下町体制の改善と住みやすいまちの形成を目的として、同年から日立駅前の再開発が始まった。現在でも、本市が茨城県北部の拠点的な都市として成長するための基点的役割の一端を、この日立駅が担っている。

平成23年（2011）3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震により、本市では過去最大の震度6強を記録した。人命こそ失われなかったものの、未曾有の巨大地震と津波により、建物の全半壊や一部損壊は1万8千棟以上を数え、最大で69箇所の避難所に1万3千人以上の市民が避難した。また、公共施設や道路、河川、港湾・漁港のほか、電気、ガス、水道などの生活インフラにも大きな被害が生じた。市では、東日本大震災からの早期の復旧を進めるとともに、震災を教訓とした災害に強く活力あるまちづくりを目指し、同年9月に「日立市震災

復興計画」を策定した。計画期間は平成 26 年（2014）に終了したが、現在も防災訓練等の取り組みが続けられている。

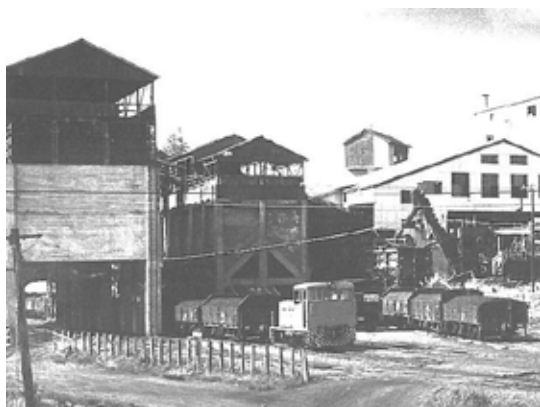


写真:昭和 43 年(1968)頃の楡形炭鉱選炭場全景
(『写真でたどる日立百年のあゆみ』より)



写真:久慈漁港における東日本大震災の津波被害
(「日立市総合計画 後期基本計画」より)

平成 21 年（2009）には、近世から継承される日立風流物が、京都祇園祭の山鉾行事とともにユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」における「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」へ記載された。平成 28 年（2016）には、日立風流物を含む 33 件が「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」の「山・鉾・屋台行事」の構成要素として記載された。日立風流物以外の風流物は途絶えてしまったが、小木津浜風流物は、保存会の努力で復活し現在も公開が続いている。

平成 29 年（2017）に策定された「日立市総合計画 後期基本計画」では、将来都市像である「生活未来都市ひたち～知恵と自然が響き合い、くらしを明日につなぐまち～」の実現に向け、「ひたちらしさ」を活かしたまちづくりを目指している。



写真:平和通り
(日立市 HP より)



写真:茨城港日立港区
(茨城県 HP より)

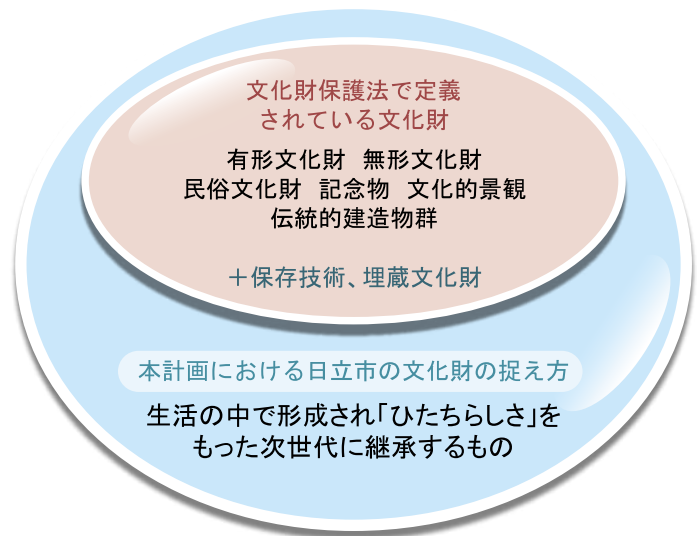
第2章 日立市の文化財の概要

1 文化財の把握

(1) 本計画における文化財の捉え方

文化財は、地域の歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産である。文化財保護法で定義されている文化財は、指定等の措置がとられているか否かに関わらず、歴史上、芸術上または学術上価値の高いものを指しており、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群の6類型に分類される。また、文化財保護法では、文化財の伝統的な保存技術や土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）も保護の対象としている。

第1章で整理したように、本市では、地域特有の自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景の関わりによって、市民の生活の中で多くの文化財が形成されてきた。これらの文化財は、法令による保護の有無に関わらず、市民にとって価値があり、本市の歴史文化を示す重要な所産である。本計画では、文化財保護法が定める分類や、指定・選定・登録にあたっての価値基準にとらわれず、「ひたちらしさ」をもった次世代に継承するものを、幅広く文化財として捉える。



(2) 本計画における文化財把握の考え方

図：本計画における文化財の捉え方イメージ

本市ではこれまで、歴史上、芸術上または学術上価値が高い文化財について、文化財保護法に基づく指定等により保護を図ってきた。さらに、地域の活性化や市民の愛郷心を高めると考えられる文化財について、本市独自の取組みとして平成26年度（2014）に『日立市民文化遺産ガイドブック』を編集・発行し、指定・選択・登録文化財以外の文化財の把握及び保存・活用を目指してきた。

今後は、これまで推進してきた地域の文化財の発掘・抽出に加え、文化財を多角的・総体的に捉え、相互の関連性を見いだすことによって、既往の類型にとられない実態の把握や価値の明確化を行っていく必要がある。さらに、文化財を単体や文化財群の一部としてのみ捉えるのではなく、周辺環境との結びつきの中で理解・把握することによって、市民と共に、周辺環境と一体となった保存・活用に積極的に取り組んでいくことが目指される。

『日立市民文化遺産ガイドブック』発行の取組とは

『日立市民文化遺産ガイドブック』は、指定文化財に限らず、市内に点在する様々な史跡・資料等を、地域の活性化と市民の愛郷心向上に資する共有財産として活用することを目指して編集・発行された。日立市民文化遺産は平成24年度（2012）・25年度（2013）に市民が主体となって開催された市民文化遺産活用会議において、各地域から推薦された自然・歴史・民俗・産業の各分野から選ばれている。

2 文化財の概要

(1) 指定等文化財

本市の指定等文化財は次に示す通りであり、大正11年(1922)以降、73件が指定等されている。水戸市の192件(令和3年9月時点)、隣接する常陸太田市の160件(令和3年9月時点)と比較すると、文化財の指定等の件数が少ないのが現状である。しかし、指定されている文化財の中には、国指定文化財である「日立風流物」や、日本唯一のウミウの捕獲地及びそこでの捕獲技術等、特筆すべき文化財もみられる。

また、鉱工業の町として発展した本市には多くの関連施設があり、これは本市の重要な歴史的・社会的資産である。しかし、鉱工業に関わる指定文化財は、旧共楽館(市指定)、5馬力誘導電動機(県指定)、旧久原本部(県指定)、下孫停車場記念碑(市指定)の4件の指定に限られている。これらの鉱工業に関わる施設は、本市の特徴を示す文化財として後世に継承していくことが望まれる。

ア 国指定文化財(4件)

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
日立風流物(5段屋形開閉式山車1基)	宮田町 神峰神社	昭和34年5月6日	重要有形民俗文化財	1
日立風流物	宮田町 神峰神社	昭和52年5月17日	重要無形民俗文化財	1
いぶき山イブキ樹叢	十王町	大正11年10月12日	天然記念物	2
長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡	十王町	平成30年10月15日	史跡	3

イ 県指定文化財(24件)

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
小野家住宅	諏訪町	昭和49年11月25日	建造物	5
絹本著色阿弥陀如来来迎図	日立市郷土博物館	昭和49年3月31日	絵画	6
木造釈迦如来三尊像	宮田町	昭和37年10月24日	彫刻	7
木造大日如来坐像	入四間町	昭和44年12月1日	彫刻	8
木造観音菩薩坐像	東河内町	昭和44年12月1日	彫刻	9
木造万年大夫夫婦坐像(胎内像を含む)	日立市郷土博物館	昭和49年3月31日	彫刻	10
木造薬師如来坐像	久慈町	昭和54年11月1日	彫刻	11
木造聖徳太子坐像	金沢町	昭和57年3月4日	彫刻	12
古鏡	弁天町	昭和32年1月25日	工芸品	13
蒔絵鏡箱	弁天町	昭和49年3月31日	工芸品	13
大般若波羅密多経	神峰町	昭和37年2月26日	書跡	14
訂正常陸国風土記版木 付箱板2枚	茨城県立歴史館	昭和60年3月25日	歴史資料	15
5馬力誘導電動機 附設計図1枚	幸町	平成14年1月25日	歴史資料	16
十王台遺跡出土十王台式土器	日立市郷土博物館 東京国立博物館	平成14年12月25日	考古資料	17
日立風流物人形頭	神峰町	昭和39年7月31日	有形民俗文化財	14
日立のささら			無形民俗文化財	
宮田ささら	宮田町 神峰神社	昭和38年8月23日		18
助川ささら	鹿島町 鹿嶋神社	昭和38年8月23日		19
会瀬ささら	会瀬町 鹿嶋神社	昭和38年8月23日		20
大久保ささら	桜川町 伏見稲荷	昭和45年9月28日		21
諏訪ささら	諏訪町 諏訪神社	昭和45年9月28日		22
水木ささら	水木町 泉神社	昭和45年9月28日		23
成沢ささら	中成沢町 鹿嶋神社	昭和46年7月19日		24
佛ヶ浜(度志観音を含む)	田尻町	昭和30年6月25日	史跡	25

助川海防城跡	助川町	昭和42年11月24日	史跡	26
泉が森	水木町 泉神社	昭和44年12月1日	史跡	27
旧久原本部	日鉱記念館	昭和45年9月28日	史跡	28
南高野貝塚	南高野町	昭和54年3月8日	史跡	29
海鵜渡来地	川尻町	昭和31年5月25日	天然記念物	30
御岩山の三本杉	入四間町 御岩神社	昭和43年9月26日	天然記念物	8
駒つなぎのイチョウ	大久保町 鹿嶋神社	昭和44年12月1日	天然記念物	31

ウ 市指定文化財（44件）

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
泉川道標	大みか町	昭和46年1月21日	建造物	32
入四間道標	東河内町	昭和55年4月24日	建造物	33
旧共楽館（日立武道館）	白銀町	平成21年9月30日	建造物	4
下孫停車場記念碑	多賀町	平成27年3月24日	建造物	34
絹本著色涅槃図	日立市郷土博物館	昭和55年4月24日	絵画	6
木造阿弥陀如来坐像	入四間町	昭和47年7月27日	彫刻	8
日光・月光菩薩立像	久慈町	昭和49年3月27日	彫刻	11
木造阿弥陀如来坐像	日立市郷土博物館	昭和53年12月21日	彫刻	6
木造釈迦如来・多宝如来並坐像	西成沢町	昭和54年2月22日	彫刻	35
火縄三眼鏡	日立市郷土博物館	昭和46年1月21日	工芸品	6
旧助川西上町舞屋台	鹿島町	昭和47年2月24日	工芸品	36
東叡山石燈籠	諏訪町	昭和48年8月23日	工芸品	37
太刀（銘・大江勝永）	千石町	昭和51年11月25日	工芸品	38
短刀（銘・驚鯢丸）	千石町	昭和62年10月22日	工芸品	38
藤田東湖揮毫諏訪神社大のぼり	日立市郷土博物館	昭和46年1月21日	書跡	6
藤田東湖揮毫南高野鹿島神社大幟	日立市郷土博物館	昭和61年3月27日	歴史資料	6
吉田神社棟札	日立市郷土博物館	平成7年3月27日	歴史資料	6
臚神社棟札	十王町	平成4年12月1日	歴史資料	39
友部村絵図	日立市郷土博物館	平成13年3月21日	歴史資料	6
諏訪遺跡出土縄文土器	日立市郷土博物館	平成6年5月23日	考古資料	6
愛宕原火葬墓出土骨蔵器	日立市郷土博物館	平成13年3月21日	考古資料	6
十王台南遺跡第1号住居跡出土遺物	日立市郷土博物館	平成13年3月21日	考古資料	6
明王山不動尊の絵馬	神峰町	昭和60年2月28日	有形民俗文化財	40
日立郷土芸能保存会北町支部所有の風流物人形頭	日立市郷土博物館	平成13年12月21日	有形民俗文化財	6
日立郷土芸能保存会西町支部所有の風流物人形頭	日立市郷土博物館	平成13年12月21日	有形民俗文化財	6
黒田入り口道標	十王町	平成7年3月10日	有形民俗文化財	41
大原道標	十王町	平成7年3月10日	有形民俗文化財	42
鵜捕りの技術	（十王町伊師・碁石浦）	平成4年12月1日	無形民俗文化財	30
鹿嶋神社流鏝馬	大久保町	平成31年1月24日	無形民俗文化財	31
助川海防城跡（県指定区域を除く）	助川町	昭和45年8月20日	史跡	26
大窪城跡及び暇修館跡	大久保町	昭和47年7月27日	史跡	43
相馬碑	多賀町	昭和51年11月25日	史跡	44
十王前横穴	川尻町	昭和56年2月19日	史跡	45
甕の原古墳群3号墳	大みか町	平成6年5月23日	史跡	46
甕の原古墳群4号墳	大みか町	平成6年5月23日	史跡	46
山野邊家墓所	高鈴町	平成14年8月22日	史跡	47
水漏舎小学校跡	中成沢町	平成27年3月24日	史跡	48
玉簾の滝	東河内町	昭和46年7月21日	名勝	49

小貝浜	川尻町	昭和 55 年 8 月 28 日	名勝	50
大甕神社境内樹叢	大みか町	昭和 46 年 4 月 22 日	天然記念物	51
澳津説神社のシイ	小木津町	昭和 48 年 8 月 23 日	天然記念物	52
本山の一本杉	宮田町	昭和 49 年 6 月 27 日	天然記念物	53
諏訪のヤマザクラ	諏訪町	昭和 49 年 6 月 27 日	天然記念物	54
愛宕神社境内「椎」	十王町	昭和 57 年 5 月 25 日	天然記念物	55

エ 国登録有形文化財（1件）

名称	所在地	登録年月日	種別	図中番号
旧共楽館(日立武道館)	白銀町	平成 11 年 7 月 8 日	-	4

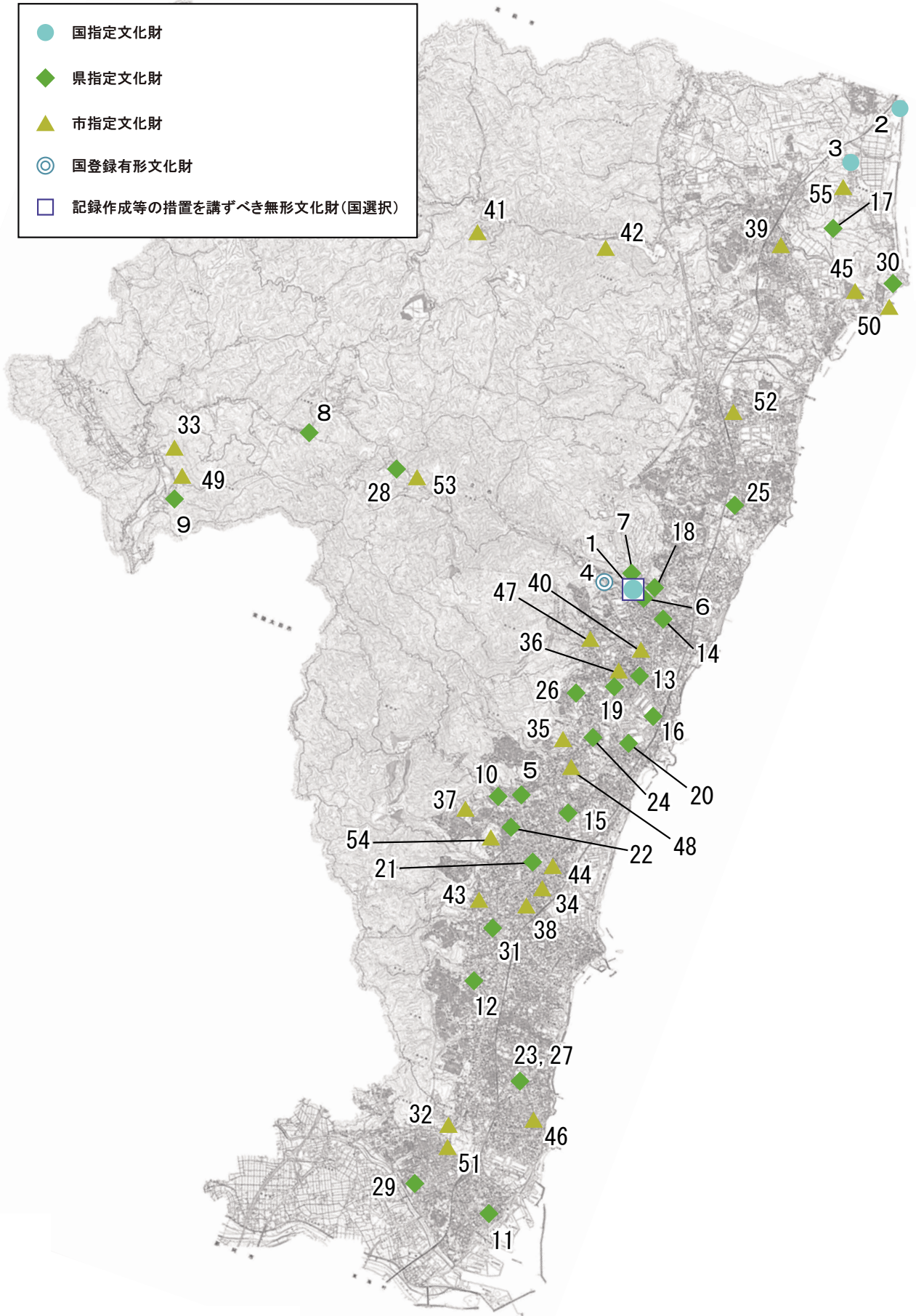
オ 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）（1件）

名称	所在地	選択年月日	種別	図中番号
日立風流物	宮田町 神峰神社	昭和 49 年 12 月 4 日	無形民俗文化財	1

（2）ユネスコ無形文化遺産

国指定文化財である「日立風流物」は、平成 28 年（2016）11 月 30 日（日本時間 12 月 1 日）、ユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」における「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に「山・鉾・屋台行事」として記載された。

- 国指定文化財
- ◆ 県指定文化財
- ▲ 市指定文化財
- ◎ 国登録有形文化財
- 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財(国選択)



図：日立市の指定等文化財の位置

(3) 未指定文化財

下記の取組みや調査等により、令和3年度現在、合計45件の未指定文化財が確認されている。

表：未指定文化財件数

種別		合計
有形文化財	建造物	9
	美術工芸品	3
民俗文化財		8
記念物	遺跡	11
	動物・植物・地質・鉱物	4
その他		10
合計		45

ア 日立市民文化遺産

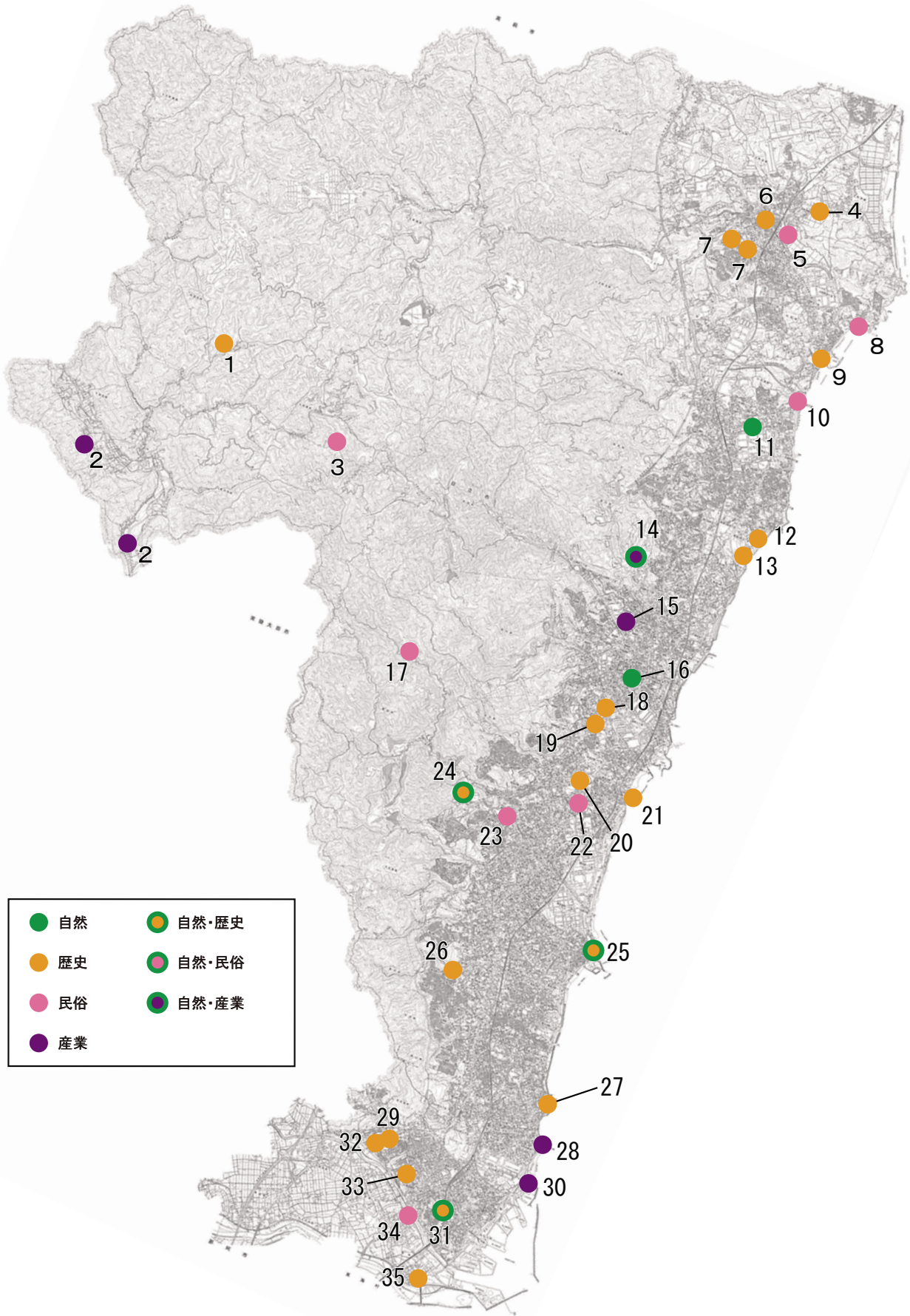
国、県、市の指定もしくは登録を受けていないが保存・活用を図っていくべき本市の文化財は以下のとおりである。これらは、平成24年度(2012)・25年度(2013)に日立市民文化遺産として『日立市民文化遺産ガイドブック』にまとめられた104件から、指定文化財と重複するもの、既に存在しないものを除いて示した。

表：日立市民文化遺産一覧(35件)

名称	所在地	種別	分野 ²	図中番号
撫子山の能因法師歌碑	中深荻町	建造物	歴史	1
中里発電所と里川発電所	東河内町、下深荻町	建造物	産業	2
御岩神社と回向祭	入四間町	民俗	民俗	3
伊師町一里塚跡	十王町伊師	史跡	歴史	4
十王町の徒歩鵜漁	十王町友部	民俗	民俗	5
友部海防陣屋跡	十王町友部	史跡	歴史	6
山尾城跡と友部城跡	十王町友部	史跡	歴史	7
金色姫伝説の伝わる蚕養神社	川尻町2丁目	民俗	民俗	8
大津淳一郎顕彰碑	川尻町1丁目	建造物	歴史	9
小木津浜風流物	小木津町	民俗	民俗	10
日立紅寒桜	日高町2丁目	天然記念物	自然	11
空窪廃寺の不動明王	田尻町7丁目	彫刻	歴史	12

²『日立市民文化遺産ガイドブック』において示された「民俗、歴史、自然、産業」の4分野を準用した。

太田尻海岸の西行法師歌碑	東滑川町5丁目	建造物	歴史	13
かみね公園と公園内の石碑群、動物園	宮田町5丁目	建造物	自然・産業	14
熊野神社の日立製作所創業石	白銀町1丁目	史跡	産業	15
平和通りのサクラ並木	神峰町、鹿島町、若葉町、 弁天町、平和町、幸町	天然記念物	自然	16
金山百観音	助川町	民俗	民俗	17
助川一里塚跡	鹿島町3丁目	史跡	歴史	18
山野邊氏家臣墓所	城南町1丁目	史跡	歴史	19
水漏舎跡一池の川弁天池公園	中成沢町2丁目	史跡	歴史	20
島木赤彦歌碑	東成沢町1丁目	建造物	歴史	21
小豆洗不動尊	東成沢町3丁目	民俗	民俗	22
常陸之國御諏訪太鼓	諏訪町3丁目	民俗	民俗	23
諏訪梅林と長塚節歌碑	諏訪町	天然記念物	歴史・自然	24
河原子海岸の烏帽子岩と藤田東湖詩碑	河原子町2丁目	天然記念物	自然・歴史	25
照山修理顕彰碑	金沢町2丁目	建造物	歴史	26
でんがくばら児童公園の 長塚節歌碑と水木遠見番所跡	水木町1丁目	史跡	歴史	27
日立灯台	大みか町4丁目	建造物	産業	28
石名坂の西行法師歌碑	石名坂町1丁目	建造物	歴史	29
三代芳松像	久慈町1丁目	彫刻	産業	30
赤羽緑地と赤羽横穴墓群	久慈町5丁目	史跡	自然・歴史	31
西の妻古墳群1号墳	石名坂町1丁目	史跡	歴史	32
西大塚古墳群1号墳石室	南高野町3丁目	史跡	歴史	33
八つ凧	茂宮町	民俗	民俗	34
留町の木造聖観音像	留町	彫刻	歴史	35



図：日立市民文化遺産の位置

イ 「ひたちらしさ」を象徴する近現代の文化財

前項までに示したように、本市では、文化財保護法や文化財保護条例によって多くの文化財の保護が図られている。一方で本市には、文化財としての保護が図られていないものの、「日立市文化振興指針」で定めた「ひたちらしさ」を象徴し、後世に受け継がれていくべきものも多く存在している。

それらを、シティプロモーションの観点でまとめられた『「ひたちらしさ」地域資源データベース』から、「日立市文化振興指針」の記述や文献を参考に抽出し、「『ひたちらしさ』を象徴する近現代の文化財」として取り扱う。



近現代の歴史を伝えるもの、本市の基幹産業である鉱工業に関連するもの、「世界一」や「日本一」という評価を受けているもの、本市民にとって誇りや愛着の対象であると考えられるものを、産業、インフラ、観光、美術・学術、音楽、運動の分類で以下に選出した。

なお、産業に分類される文化財には、日立鉱山や日立製作所から発展した関連施設が挙げられるが、本項では稼働終了した施設や、用途変更を経て使用され続けている施設のみ取り上げた。

表：「ひたちらしさ」を象徴する近現代の文化財一覧（10件）

分類	名称	概要	写真
産業	大煙突	煙害解決のために日立鉱山が建設した煙突である(大正4年(1915)完成)。全長155.7メートルは建設当時世界一の高さを誇った。平成5年(1993)に倒壊し、現在は、当時の三分の一が残った状態で稼働している。	 写真:昭和15年(1940)の日立鉱山大雄院製錬所と大煙突(『新郷土日立 歴史』より)
	日立市天気相談所	地方自治体の行政組織として直営では唯一の気象観測所である。日立鉱山が煙害対策のため運営していたものを市が引き継いだ。	 写真:日立市天気相談所(ひたち風 HP より)
	昇開式可動橋	市内の工場で作られた大型の発電機等を茨城港日立港区まで運ぶ大型トレーラーの通行を妨げないために、上下に動く国道245号線の歩道橋である。	 写真:昇開式可動橋(ひたち風 HP より)

インフラ	日立 LNG 基地	世界最大級の地上式LNGタンクが設置されている、茨城港日立港区内の東京ガス基地である。	 <p>写真: 日立 LNG 基地 (ひたち風 HP より)</p>
	JR日立駅駅舎	本市出身の世界的建築家、妹島和世氏のデザイン監修の駅舎である。鉄道の国際デザインコンペティション「ブルネル賞駅舎部門」の優秀賞を受賞するなど、世界の最も美しい駅舎の一つとして高く評価されている。	 <p>写真: JR 日立駅駅舎 (日立の観光案内 HP より)</p>
観光	茨城県立国民宿舎鵜の岬	太平洋を望むロケーションと丁寧な接客から、宿泊利用率が29年連続1位の国民宿舎である。	 <p>写真: 茨城県立国民宿舎鵜の岬 (ひたち風 HP より)</p>
美術・学術	日立市郷土博物館所蔵品	日立市郷土博物館は「市民の教養と憩いの場」として、郷土に関わる多くの考古・歴史・産業・民俗・美術資料を所蔵している。	 <p>写真: 日立市郷土博物館</p>
音楽	吉田メロディー	吉田正は昭和期を代表する本市出身の作曲家である。彼の作品は吉田メロディーと呼ばれており、市内の吉田正音楽記念館では様々な音楽イベントが市民に楽しまれている。	 <p>写真: 吉田正音楽記念館 (ひたち風 HP より)</p>

運動	ラジオ体操	<p>遠山喜一郎は昭和 26 年（1951）に放送が始まったラジオ体操の考案者である。明治 42 年に多賀郡坂上村（現在の水木町）に生まれ、ベルリンのオリンピックに体操の日本代表選手として出場した。</p>	 <p>写真:遠山喜一郎 (日立市 HP より)</p>
	パンポン	<p>創業時の日立製作所で生まれた、テニスと卓球の間のようなスポーツである。市内ではパンポンの大会や小学校での講習会が行われている。</p>	 <p>写真:パンポン (ひたち風 HP より)</p>

3 文化財の特徴

(1) 日立市の文化財の特徴

本市の指定等文化財は、年代的には原始・古代から近代までのものがあるが、中世以降のものが大半を占め、特に近世の割合が高い。中世の文化財には、平安時代末～安土桃山時代に本市域を支配した佐竹氏に関連する「相馬碑」や「鹿嶋神社流鏑馬」があり、近世の文化財には、江戸時代に本市域を支配した水戸徳川家の影響が確認できる「木造万年大夫夫婦坐像」や「助川海防城跡」がある。また、「長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡」や「泉が森」は、残存する風土記として全国的にも貴重な『常陸国風土記』が描く古代社会を映し出し、「旧共楽館」や「旧久原本部」、「5馬力誘導電動機」は鉱工業都市として発展してきた近代の本市の特徴をよく示す文化財である。

文化財の分類別では、おおむね有形文化財と記念物に二分されるが、数少ない民俗文化財には、重要有形民俗文化財と重要無形民俗文化財に指定される「日立風流物」がある。「日立風流物」や「日立のささら」は、本市の祭礼における代表的な奉納物である。

表：日立市の指定等文化財の分類及び件数

	有形文化財		無形文化財	民俗文化財	記念物			文化的景観	伝統的建造物群	合計
	建造物	美術工芸品等			遺跡	名勝地	動物・植物・地質・鉱物			
国指定	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4
県指定	1	13	0	2	5	0	3	0	0	24
市指定	4	18	0	7	8	2	5	0	0	44
計	5	31	0	11	14	2	9	0	0	72
国登録	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	6	31	0	11	14	2	9	0	0	73

※ 合計欄の件数は、同一対象物について2件以上の指定・登録されている重複を含む。

未指定文化財については、主に市民が参加する調査・研究会により、各分野においておおむね把握が進んでいる。中でも、石仏や道標を含む石造物の調査はよく進んでおり、近世以降の信仰や交通、使用石材の流通等が把握されつつある。石仏や道標が確認できる街道は、本市の地理的な特徴から、古代から現代にかけて形成されてきた。

また、未指定文化財には「平和通りのサクラ並木」や「久慈小学校のケヤキ」等、本市の特徴的な景観や自然物も含まれている。

(2) 類型ごとの特徴

日立市における文化財の類型別の特徴は次に示すとおりである。

ア 建造物

本市には6件(重複1件)の指定等文化財があり、建築物と住宅が各1件、他は道標等の石造物となっている。近現代における市域の発展とともに、建造物の更新や除却が進み、特に戦後の戦災復興や高度経済成長の流れの中で、現在に残る文化財としての価値を有するものが少なくなっている。その中であって、建築物の「旧共楽館」は、本市の産業発展の礎となった鉱山の発展とともに従業員に娯楽を提供する福利厚生施設として整備され、現在は武道館としてその外観を残し利用され続けている。未指定の文化財における建造物は、歌碑や顕彰碑などの石造物が多い。

イ 美術工芸品

(ア) 絵画

本市には2件の指定等文化財があり、県指定の「絹本著色阿弥陀如来来迎図」は鎌倉時代後期、市指定の「絹本著色涅槃図」は江戸時代の作と考えられる。前者は箱表の「瑠璃光院」の墨書銘から岩手県平泉に伝来したものともいわれ、また後者は失われた本市川尻町の寺院に伝わったものとされるなど、それぞれ来歴について不確かな点があるものの、いずれも仏教絵画として、各時代の特徴を表す優れた作例として評価されるものである。

(イ) 彫刻

彫刻は指定等文化財が10件あり、うち9件が仏像、1件が神像である。これらの制作時期は室町時代から江戸時代に亘り、特に江戸時代に制作されたものは、水戸藩及び水戸藩2代藩主徳川光圀との関わりを示すものが散見される。特に諏訪神社に伝わる「木造万年大夫夫婦坐像」は、神人藤原高利が室町時代に自ら夫婦坐像を造立したものを、元禄3年(1690)に徳川光圀が新たな夫婦像を造らせてその胎内に収めたものである。神社を勧請した人物の神像は珍しく、中世の歴史資料としても貴重なものである。

(ウ) 工芸品

指定等文化財は7件あり、具体的には室町時代の作とされる「古鏡」「蒔絵鏡箱」、江戸時代の「火縄三眼鏡」「太刀」「短刀」「東叡山石燈籠」、そして近代の「旧助川西上町舞屋台」である。「火縄三眼鏡」は天保10年(1839)に水戸藩の鉄砲師が制作し、代々猟師だった入四間の住吉家に水戸藩から下付されたものである。「太刀」「短刀」はいずれも、助川海防城海防惣司・山野邊義見の家臣が制作したものである。これらは江戸時代後期の水戸藩の本市との関わりを物語る工芸品である。

(エ) 歴史資料

指定、未指定を含め、本市には中世以前の歴史資料が少なく、わずかに棟札などの寺社建築に付随するものがある。近世、近現代では、村方文書や役場文書、民間企業に関わる文書類が多い。明治期の貴重な資料として、県指定文化財の「5馬力誘導電動機 附設計図1枚」があり、未指定ではあるが「5馬力誘導電動機(日立市郷土博物館展示)」とともに、工業都市として発展した本市ならではの歴史資料である。

(オ) 考古資料

縄文時代から古墳時代までの出土品4件が指定されており、特に県指定文化財の「十王台遺跡出土十王台式土器」は、弥生時代後期の土器で、北関東の弥生時代の学術的指標となる本市の地名を冠する貴重な土器である。考古資料の大部分は、発掘調査に伴い出土した土器や石器などで、調査分析中のため未指定である。

ウ 民俗文化財

(ア) 有形民俗文化財

国指定1件を含む7件の有形民俗文化財は、うち4件が本市を代表する文化財である「日立風流物」に関するもので、5段屋形開閉式の山車と、屋形で演じられる人形芝居の操り人形の頭などである。他の3件は、道標や絵馬など、近世・近代の人の動きや暮らしを知る貴重な歴史文化財である。

(イ) 無形民俗文化財

4件の無形民俗文化財のうち2件は、国指定の有形民俗文化財である「日立風流物」の山車の組立、人形の製作と操作と、祭礼のとして「日立風流物」と同時に奉納される獅子舞の「日立のささら」である。このほか、「鹿嶋神社流鏝馬」があり、祭礼としての行事が多くを占めている。また、本市が国内唯一の鵜の捕獲地となっていることに関連して、その「鵜捕りの技術」があり、本市ならではの貴重な文化財である。未指定の無形民俗文化財については、地域の祭事や伝承に関わるものが多く、「金色姫伝説の伝わる養蚕神社」などは、全国的にみても貴重なものである。

エ 記念物

(ア) 遺跡

指定を受けている14件（重複1件）の遺跡は、縄文時代から近代まで幅広く構成されている。特に、全国的にも貴重な『常陸国風土記』に関係する、長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡、佛ヶ浜、泉が森、十王前横穴は、風土記の描かれた奈良時代の地名をたどることができる。

(イ) 名勝地

名勝地は市指定の2件が所在する。玉簾の滝は山間部、小貝浜は海沿いにあたり、本市の山と海が接する自然環境を反映している。玉簾の滝は、水戸藩主や文人墨客が来遊する歴史上の名勝地であるとともに、地質学上でも重要な日本最古のカンブリア紀層が露出し、多面的な文化財的価値を包含している。小貝浜には、当該地に接して全国でも珍しい養蚕を祀る神社が鎮座し、海沿いを北に進めば県指定天然記念物「海鵜渡来地」に続く全国唯一のウミウの捕獲場がある。いずれも単なる名勝地にとどまらず、文化財的分野を横断して本市の歴史的背景を知ることができるものである。

(ウ) 動物・植物・地質・鉱物

本市の天然記念物は9件あるが、そのうち8件が樹木、またはその集合からなる樹叢である。本市を含む茨城県北域は暖温帯林の北限域にあたり、自然分布の北限域にある国指定のいぶき山イブキ樹叢はその典型である。植生の稀少性と、イブキとしては大木の叢生であるため、大正11年(1922)に指定を受けた本市域における文化財保護の先駆けと言える。その他は社寺敷地内にあるものが多く、鎮守の森として地域の保護を受けてきた結果の顕れである。なお、海鵜渡来地は高さ30mの海食崖で、その景観とともに、ウミウの捕獲場としても貴重である。指定地内の海食洞は「八幡太郎の馬の足跡」とも言われ、地域伝承とのつながりも垣間見える。

(3) 特筆すべき文化財

ア 主な建造物

(ア) 旧共楽館(日立武道館)

大正6年(1917)に竣工した共楽館は、日立鉱山の従業員とその家族のための福利厚生施設である。西洋の建築技術を取り入れつつ日本の伝統的な千鳥破風・唐破風屋根などの建築意匠を配した、和洋折衷の大型木造建築物として、鉱山従業員によって設計された。2階には栈敷席が設けられ、およそ1000人を収容可能で、歌舞伎の上演を想定して建設されたため、館内には回り舞台と格納型の花道があった。

周辺住民にも開放され、映画会や歌舞伎、歌謡ショーなどが開催されるなど、地域の文化振興に寄与した。現在は日立武道館として柔剣道練習に利用されている。建設当時の外観を尊重した改修を行い、日立鉱山発展を示す歴史的・社会的資産として貴重な施設である。

(イ) 小野家住宅

小野家住宅は、18世紀前期(江戸時代中期)に建てられたと推定され、県内の代表的な曲屋まがりやのひとつである。桁行9間、梁間3間半の主屋に、3間×2間半の曲り部分が付く。平面構成は、右手の床上部と左手の土間部から成る。床上部は、土間側から、12畳敷の「ひろま」、6畳敷の「なかま」とその北側の4畳半板敷の「へや」、そして一番上手には8畳敷の「ざせき」が並んでいる。「ざせき」には、床の間が設けられ、床柱・落とし掛・長押には、丸太材の皮部分を残した、いわゆる「面皮材」を用いた数寄屋風の意匠が見られる。

イ 主な年中行事

本市で年間に開催される主な年中行事には、以下のものがある。

鳥追いまつり・鳥追い行事やどんど焼き(焚きあげ祭)、まゆ玉飾りは、一年の無病息災や五穀豊穡を祈って行われる地域の伝統行事である。御岩神社の回向祭は、宗教宗派を問わず死者の冥福を祈り執り行う、神仏混淆の仏事である。

神峰神社大祭礼は7年に一度の祭礼であり、宮田町の東・北・本・西町から全4台の日立風流物が一斉公開される。また、宮田ささら・助川ささら・会瀬ささらが渡御行列の露払いを務める。同様に、一年に一度の助川鹿嶋神社、泉神社、諏訪神社の例祭及び例大祭では、助川ささら、水木ささら、諏訪ささらがそれぞれ奉納される。鹿島神宮御船祭は12年に一度行われ、最近では平成26年(2014)に開催された。開催時には、鹿島神宮(鹿嶋市)の御分霊を勧請した会瀬鹿島神社から、会瀬ささらが奉納される。

金砂神社大祭礼は72年に一度行われ、最近では平成15年(2003)に開催された。西金砂神社

と東金砂神社（常陸太田市）の神輿が本市の水木浜へ渡御し、その途中で田楽舞や神事が執り行われる。行程が一週間に亘るため、神輿の御休場が設けられており、本市の石名坂にもその一つがある。

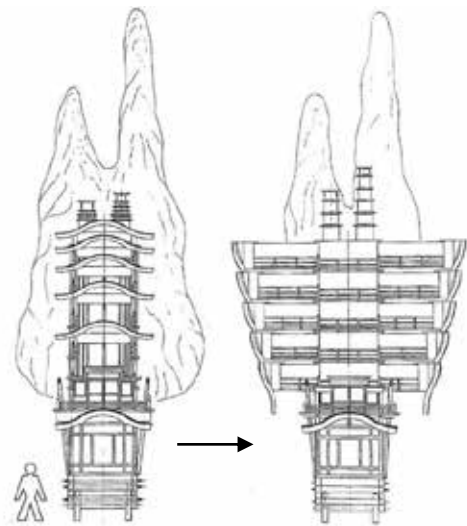
表：日立市で開催される主な年中行事

行事名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
鳥追いまつり・鳥追い行事〈毎年〉		■											
どんど焼き(焚きあげ祭)〈毎年〉		■											
まゆ玉飾り〈毎年〉		■											
助川鹿嶋神社例祭〈毎年〉											■		
御岩神社の回向祭〈毎年〉					■						■		
泉神社例大祭〈毎年〉						■							
諏訪神社例大祭〈毎年〉											■		
神峰神社大祭礼〈7年に一度〉						■							
鹿島神宮御船祭〈12年に一度〉										■			
金砂神社大祭礼〈72年に一度〉				■									

以下に、本市の年中行事のうち文化財指定を受けている「日立風流物」「日立のささら」「鹿嶋神社流鏝馬」について記述する。

(ア) 日立風流物

日立風流物は、以前は宮田風流物と呼ばれ、宮田地区の鎮守である神峰神社の大祭礼に氏子たちが奉納公開してきた山車である。現在は、専用の収蔵庫内に保管されており、神峰神社大祭礼において4町の日立風流物4台が一斉公開されるのに加え、平和通りで毎年開催される日立さくらまつりにおいても4町の廻り番で一台が公開されている。五段屋形開閉式山車で、その規模は高さ約15m、間口下方で約3m、上部山の部分で約5.5mあり、それが開いた時幅約8m、重さは約5tある。山車の上は5層で、各層ごとに唐破風造りの屋形があり、このうち3層から5層までは、カグラサン（手動式エレベーター）でせり上がりのあと屋形が割れる仕組みになっている。割れる部分を「開き」といい、ここが人形芝居の舞台となる。屋形の後側を「裏山」といい、藤蔓と山木綿約100反を使って山の形に仕上げる。ここでも山を背にした人形芝居が行われる。日立風流物は規模の雄大さ、山車と人形芝居との組み合わせ、綱の操作による山車の変化及び人形の動き等に、他に類をみない特異性がある。



図：日立風流物
（『ガイドブック 日立風流物』より）

(イ) 日立のささら

ささらは、地域の神社祭礼の際に渡御行列に供奉し、露払いの役目をつとめ、五穀豊穰や疫

病退散、家内安全を祈念して神社に奉納される獅子舞である。本市内には宮田・助川・会瀬・成沢・諏訪・大久保・水木にささらが伝わっている。ささらとは本来、竹をすり合わせる「すりざさら」という楽器のことであるが、本市の獅子舞ではすでに使われていない。ささらの構成は、獅子3匹（大獅子・中獅子・雌獅子）と、その獅子の周囲を跳びはねる「しゃぐま（赤熊）」である。ささらの舞いは「すりこみ」と「前庭」、「後庭」があるが、略して前庭だけの「半庭」をすることもある。

(ウ) 鹿嶋神社流鏝馬

鹿嶋神社流鏝馬は、馬1頭、騎手・引手各1人が神社参道を歩みながら3箇所の的に矢を射て、これを3回繰り返す。現在、毎年10月29日に秋季例大祭で実施している。

この祭事は、『常陸多賀郡史』において、佐竹氏第18代当主佐竹義重が関わり、天正12年（1584）9月に始まったと伝えられている。水戸藩政下の寛文3年（1663）の「鎮守開基帳」には、鹿嶋明神の除地（年貢免除地）として屋敷（境内）のほか、高6斗6升7合分の「やぶさめ免」が記されている。「やぶさめ免」は流鏝馬を行うのに必要な経費をまかなうために無税扱いする田畑のことで、慶長7年（1602）8月の幕府代官頭彦坂小刑部元正の検地によって認められたものである。つまり慶長7年段階で流鏝馬が行われていたことは明らかで、流鏝馬が始められたのは、これよりさかのぼることは確かである。また、これよりのちの明和2年（1765）に流鏝馬が行われていたことが岡部玄徳の「常陸国多珂郡大窪大宮鹿嶋大神宮縁起」でわかるので、江戸時代を通じて行われていたことがうかがえる。



写真: 宮田ささら
（『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より）



写真: 鹿嶋神社流鏝馬

ウ 主な史跡

(ア) 長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡

日立市北部の洪積台地東端、標高 20～25m に立地する奈良時代から平安時代にかけての古代の道（官道）と官衙関連施設（役所）の跡である。長者山遺跡と藻島駅路跡、伊師東 B 遺跡の 3 遺跡で構成されるが、それぞれが関連しあう一体の遺跡であることがわかったため、一つの史跡として指定された。遺跡東側の低地には「目島」の地名が残り、この周辺は『常陸国風土記』の「藻島駅家」の有力な推定地とされている。

平成 17 年度（2005）からはじまった十王町史編さん事業による学術調査と、その後の保存目的の調査によって、幅約 6 m（一部は最大 18m と推定）の古代官道の痕跡が見つかり、この古代官道に隣接して、溝で区画された 8 世紀から 10 世紀の 20 棟以上の建物跡が発見された。8 世紀中葉から 9 世紀中葉までの掘立柱建物は「藻島駅家」、9 世紀中葉から 10 世紀の礎石建物は常陸国多珂郡の正倉別院の可能性がある。

(イ) 助川海防城跡

助川海防城跡は、水戸藩第 9 代藩主徳川斉昭の海防政策により、天保 7 年（1836）に家老の山野邊義観を海防惣司に任命し築かせた平山城の跡である。諸外国が江戸幕府に開国を迫る中、異国船に備え海防を目的とした城で、他には類例がみられない。「助川村絵図」によれば、山野邊氏や家臣の住宅のほか、諸器具製作所、馬場や矢場などの教練所、学校である養正館などがあったとされるが、元治元年（1864）、第 3 代海防惣司山野邊義藝の時に天狗・諸生の乱によって焼失し、現在は礎石や、義観が自ら刻んだ「鳩石」のみが残る。

築城当時は「助川館」「山野邊館」「助川堡」「助川陣屋」などと呼ばれていたが、戦後に海防のための城郭という点を重視すべきという意見が興り、昭和 42 年（1967）に「助川海防城跡」として県史跡に指定されてからは、助川海防城という名称が用いられている。現在は助川城跡公園として整備され、市民の憩いの場となっている。

4 既存の文化財調査の概要

(1) 周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）

本市の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）は、旧石器時代から近世（江戸時代）までのものが発見されており、市全体で約 350 箇所が登録されている。登録は、地形の起伏や遺物が採集されるなどして古くから知られている場所もあったが、文化財保護を目的に大規模かつ体系的に遺跡の把握から登録までを実施したのは、昭和 30 年代後半からのことである。この成果は、旧本市及び旧十王町の文化財行政担当課が中心となって、約 10～20 年毎に実施した調査によっている。

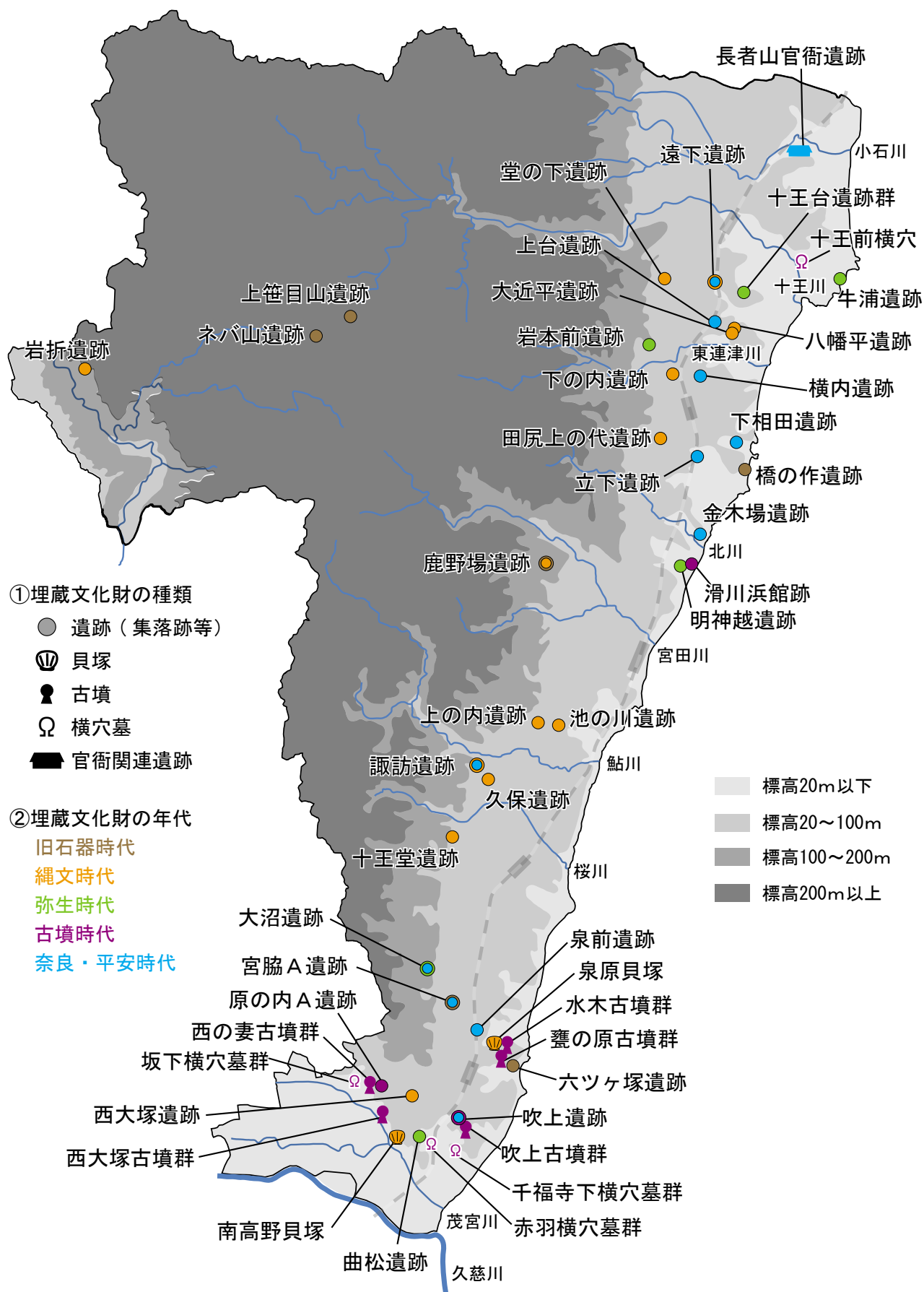
本市の遺跡数は時期区分毎にみると、以下のとおりである。ただし、同一位置の遺跡で、複数の時期区分にまたがるものもある。

表：日立市の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）数

時期区分	遺跡数	時期区分	遺跡数
旧石器時代	14 箇所（2%）	奈良時代	126 箇所（20%）
縄文時代	147 箇所（23%）	平安時代	129 箇所（20%）
弥生時代	45 箇所（7%）	中世	30 箇所（5%）
古墳時代	116 箇所（18%）	近世	27 箇所（5%）

この時期区分毎の遺跡件数は、一見して、時期区分毎の集落数または人口を反映しているようにも見えるが、各時期区分において、必ずしも均質な条件下で発見されているとは限らない。例えば、旧石器時代の遺跡は、上笹目遺跡やネバ山遺跡、鹿野場遺跡のように、山間部や丘陵地にも残されている場合が他の時期区分の遺跡より多いと考えられるが、山間部や丘陵地は険しい地形であり、踏査が困難であるし、何よりも耕作などにより地中の状況を確認できる機会が少ない。したがって、山間部や丘陵地には未発見の旧石器時代の遺跡が存在する可能性がある。また、中世以降は、それ以前に比べて建物基礎への礎石の利用が普及したため、礎石建ちの建物はその礎石が失われれば、建物があつた痕跡は見いだしがたい。したがって、本来、建物があつた場所だとしても、わずかな痕跡が失われれば、遺跡として認定することができないため、中世及び近世の遺跡数が少ないのも必ずしも実態を反映しているとは言えない。

なお、本市に特徴的な遺跡としては、長者山遺跡で発見された道（古代官道）がある。一般的に、道はどの時代においても人間にとって身近で重要なものであるが、現在の舗装道路の下位に存在したり、その痕跡がわずかであったりして、遺跡として認定し難い。古代から近世の古代官道または街道は、本市を南北に縦断しているが、遺跡として登録されているのは、長者山遺跡の範囲内にとどまる。



図：日立市の埋蔵文化財の位置

(2) 建造物調査履歴

本市に関わる建造物調査報告書及び掲載されている文化財は、以下のとおりである。

表：建造物調査報告書一覧

資料名	発行者	発行年	掲載されている本市の文化財		
			名称	所在地	建造年代
茨城県の民家 (茨城県民家緊急調査報告書)	茨城県教育委員会	昭和51年 (1976)	椎名家住宅	日立市東河内町	19世紀前期
			横山家住宅	日立市茂宮町	19世紀前期
			大内家住宅	日立市留町	19世紀前期
			宇佐美家住宅	日立市小木津町	19世紀中期
			赤津家住宅	日立市茂宮町	19世紀後期
茨城県の近世社寺建築	茨城県教育委員会	昭和57年 (1982)	鹿島神社撰社八幡神社本殿	日立市大久保町	室町時代後期
茨城県の近代化遺産 茨城県近代化遺産 (建造物等)総合調査報告書	茨城県教育委員会	平成19年 (2007)	日立鉱山第一堅坑	日立市宮田町	堅坑:明治39年(1906)、櫓:昭和4年(1929)
			旧日立鉱山コンプレッサー室	日立市宮田町	昭和19年(1944)
			旧日立鉱山大煙突・第三煙突・煙道	日立市宮田町	大正4年(1915)
			旧日立鉱山電錬工場電解室	日立市白銀町	明治44～大正5年(1911～1916)
			旧日立鉱山第二変電所	日立市宮田町	大正5年(1916)
			旧久原本部と山神社	日立市宮田町	明治38年(1905)
			東暁館世外庵	日立市旭町	明治33年(1900)
			旧日立鉱山大角矢社宅跡	日立市宮田町	明治～昭和期
			旧日立鉱山水道	日立市	大正・昭和戦前期
			旧共楽館	日立市白銀町	大正6年(1917)
			斯道館	日立市白銀町	昭和9年(1934)
			旧日立鉱山煙害対策植樹	日立市全域	明治42年(1909)
			楓橋	日立市宮田町	昭和5年(1930)
			旧日立鉱山電気鉄道跡	日立市宮田町	明治43年(1910)
			日立セメント太平田鉱山索道	日立市助川町	昭和12年(1937)
			日立製作所日立工場本館	日立市幸町	昭和11年(1936)
			大甕俱樂部、大甕陶苑	日立市大みか町	昭和11～12年(1936～1937)
			大甕ゴルフ俱樂部	日立市大みか町	昭和11年(1936)
			日立製作所会瀬住宅	日立市会瀬町	昭和11年(1936)以降
			熊野神社	日立市宮田町	大正7年(1918)
			里川系近代化土木遺産群	常陸太田市～日立市	明治41(1908)～昭和12年(1937)
			中里発電所	日立市東河内町	明治41年(1908)
			里川発電所	日立市下深萩町	大正12年(1923)
十王川水系発電所	日立市十王町	大正10年(1921)			
川尻川発電所	日立市十王町	大正10年(1921)			
茨城電力高原発電所取水堰	日立市十王町	大正11年(1922)			
旧早川医院	日立市久慈町	大正9年(1920)			

茨城県の近代化遺産 茨城県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書	茨城県教育委員会	平成19年(2007)	日立駅海岸口駅舎	日立市	昭和19年(1944)
			折笠トンネル	日立市	下り線:明治30年(1897)、上り線:大正5年(1916)
			宮田川水抜きアーチ橋	日立市	明治30年(1897)
			旧日立電鉄線久慈-南高野間トンネル	日立市久慈町	昭和2年(1927)
			旧日立電鉄大橋高架橋	日立市大和田町	昭和2年(1927)
			1トン爆弾弾痕	日立市幸町	昭和20年(1945)
			岩田邸	日立市大みか町	大正14年(1925)
茨城県近代和風建築総合調査報告書	茨城県教育委員会	平成29年(2017)	旧共楽館(日立武道館)	日立市白銀町	大正6年(1917)
			内山家住宅	日立市水木町	明治2年(1869)か

(3) その他市史・文化財調査報告書等記録

本市に関わる市史・文化財調査報告書は、以下のとおりである。

表：市史・報告書等記録一覧

資料名	発行・著者・編集者	発行年
日立風流物記録 歴史と記録	日立郷土芸能保存会	昭和51年(1976)
図説 日立市史 市制50周年記念	日立市史編さん委員会	平成元年(1989)
日立のいまむかし	ふるさとひたち刊行会	平成5年(1993)
新修 日立市史 上巻・下巻	日立市史編さん委員会	平成6年(1994) 平成8年(1996)
図説 十王町史	十王町史編纂委員会	平成16年(2004)
ガイドブック 日立の文化財めぐり	日立市郷土博物館	平成20年(2008)
新郷土日立 地理 <改訂二版>	日立市教育委員会	平成31年(2019)
新郷土日立 歴史	日立市教育委員会	平成19年(2007)
ガイドブック 助川海防城と陣屋・番所・台場	助川海防城跡保全会	平成19年(2007)
十王町史 地誌編	十王町史編さん調査会	平成20年(2008)
十王町史 通史編	十王町史編さん調査会	平成23年(2011)
写真でたどる日立百年のあゆみ 日立鉱山創業105年 日立製作所創業100年 写真集	日立市郷土博物館	平成23年(2011)
常陸国風土記にみる日立	日立市郷土博物館	平成25年(2013)
平成26年度日立市民文化遺産ガイドブック	日立市教育委員会	平成26年(2014)
茨城県歴史の道調査事業報告書近世編Ⅲ	茨城県教育委員会	平成27年(2015)
「阿武隈山地南部、ジルコン U-Pb 年代値に基づく日立変成岩類層序の再定義と日本海形成前の東北日本列島基盤の復元」	田切美智雄、堀江憲路、足立達朗	平成28年(2016)

(4) 今後必要な調査

これまでに実施された調査などを整理し、未調査の項目や現状調査が必要な項目について以下に示した。

表：今後必要な調査一覧

種別	今後必要な調査
建造物	・近代産業の発展など地域の歴史を伝える鉱工業関連施設の調査
美術工芸品	・日立市郷土博物館収蔵資料目録に未掲載の新出の古文書、絵図、歴史器物、絵画等の調査
無形文化財	・地域に伝わる伝承技術の調査
民俗文化財	・身近な伝承や信仰に関する調査 ・市内各地域の伝統行事の調査 ・人物伝等の調査
遺跡	・中近世の佐竹氏及び水戸徳川家にまつわる城館・社寺に関する調査
名勝地	・新たな名勝の候補地選考
動物・植物・地質鉱物	・景観を構成する重要な樹木等の調査
文化的景観	・近代鉱工業・農業・漁業景観などの調査
伝統的建造物群	・地域性を有する建造物群の調査
その他	・地域の小字名等の古地名の調査及び記録 ・戦災被害に関わる調査および記録

5 文化財に関する普及・啓発活動

(1) 日立市郷土博物館の取組

日立市郷土博物館では、文化財を永く後世に伝えるため、本市内に所在する文化財を保護し、啓発及び活用を促すための活動を行っている。主な活動内容は、次に示す通りである。

ア 調査・収集・整理保存活動

博物館活動の基礎となる資料充実のため、歴史・美術・考古・民俗・産業・自然の各分野で日常的な調査、研究活動を行っている。また、市民から歴史資料、美術資料、考古資料、民俗資料、行政資料等を受贈している。さらに、当館は本市の公文書館としての役割も担っており、市民ボランティアと協働して、歴史的資料を整理保存している。

イ 展示活動

豊かな自然の中で展開されてきた日立の歴史、文化、産業、暮らしと祭りに関する資料を常設展示している。また、年に数回、本市にまつわる特別展示を行っており、長者山遺跡や日立風流物など特筆すべき本市の文化財について扱っている。近年開催された主な特別展示は、以下の通りである。

表：近年の展覧会一覧

分類	名称
収蔵品展	市民が守る日立の自然
	現代の美術家たちを中心に 斉藤勇太郎展
	長者山遺跡の時代 日立風流物展 五島耕畝と荒木一門
ギャラリー展	常陸名所図屏風に見る日立地方
	長者山遺跡応援企画・おもしろ常陸国風土記展

さらに、日立市郷土博物館では日立市かみね動物園が隣接する立地を活かし、平成27年(2015)から協同企画「ズーハク」を開催しており、動物の埴輪を作るワークショップや、縄文時代の人と動物の関わりを知る体験型ガイドツアー等を行っている。

ウ 教育活動

教育活動に関係するイベント開催や出版物発行、学習支援等を行っている。近年の活動内容は以下の通りである。また、これらの活動以外にも他団体が主催する事業を支援している。

表：近年の教育活動一覧

分類	名称	日程
イベント開催	ふるさと教室 地学	毎月1回
	ふるさと教室	毎月1回
	古文書学習会	毎月1回
	八つ風つくり講習会	毎年12月第1土曜日
	日立市民風あげ大会	毎年1月第2土曜日
	豊かな体験支援事業「夏休みこども教室」	夏休み中土・日曜日随時
出版物発行	『紀要』発行	年1回
	広報紙『市民と博物館』発行	年4回
学習支援	「日立ふるさと文化少年団」の活動支援	毎月1回
	小学生の団体見学への対応	随時
	出前講座	随時

エ 指定等文化財及び埋蔵文化財に関する活動

日立市文化財保護審議会の開催、日立郷土芸能保存会や日立市文化財愛護協会等の活動支援、埋蔵文化財発掘調査の実施及び指導・監督、環境整備等を行っている。

日立郷土芸能保存会は、日立風流物の公開や修繕を行う団体である。日立市郷土博物館は、日立風流物の価値を再認識した上での郷土への愛着涵養と後継者育成のために、日立郷土芸能保存会と協働で、日立風流物に関わる研修会などを開催している。日立市文化財愛護協会は、市内の文化財の保護に努めるとともに、市民の文化財愛護精神や郷土愛を高めることを目的に、佛ヶ浜など市内14箇所の文化財を拠点として愛護活動を行う団体である。

(2) 日立市の取組

日立市の生活環境部コミュニティ推進課と教育委員会生涯学習課によって、それぞれ日立市コミュニティ推進会とひたち生き生き百年塾の取組みが実施されている。

日立市コミュニティ推進会は、行政と協働した地域課題の解決と住みよいまちづくりを目指して、市内23学区に組織された団体である。そこで行われる活動には、「日立の魅力再発見ウォーク事業」や、地域の誇りとなるものを集めた「ふるさとマップ」の作成等が含まれており、市民による地域の文化財の発見が推進されている。

ひたち生き生き百年塾は、市民の生涯学習を支援する団体である。そこで行われる活動には、「日立のまち案内人」による市内文化財の案内や、古文書読解や歴史研究等といった専門性や経験を持つ「市民教授」による「生き生き講座」の開催等が含まれており、市民自身がボランティアとして教え合い学び合う活動が推進されている。

(3) 市民団体の取組

本市の文化財の普及・啓発に関わる市民団体は、以下の通りである。保存会では、文化財の保存・継承を図っている。日立市文化少年団では、子供たちが関心ある様々な事柄について体験できる活動を展開しており、本項では特に文化財に関係するものを挙げた。調査・研究会は、日立市郷土博物館の編集協力を得て、調査・研究結果を取りまとめ刊行している。

表：市民団体の取組一覧

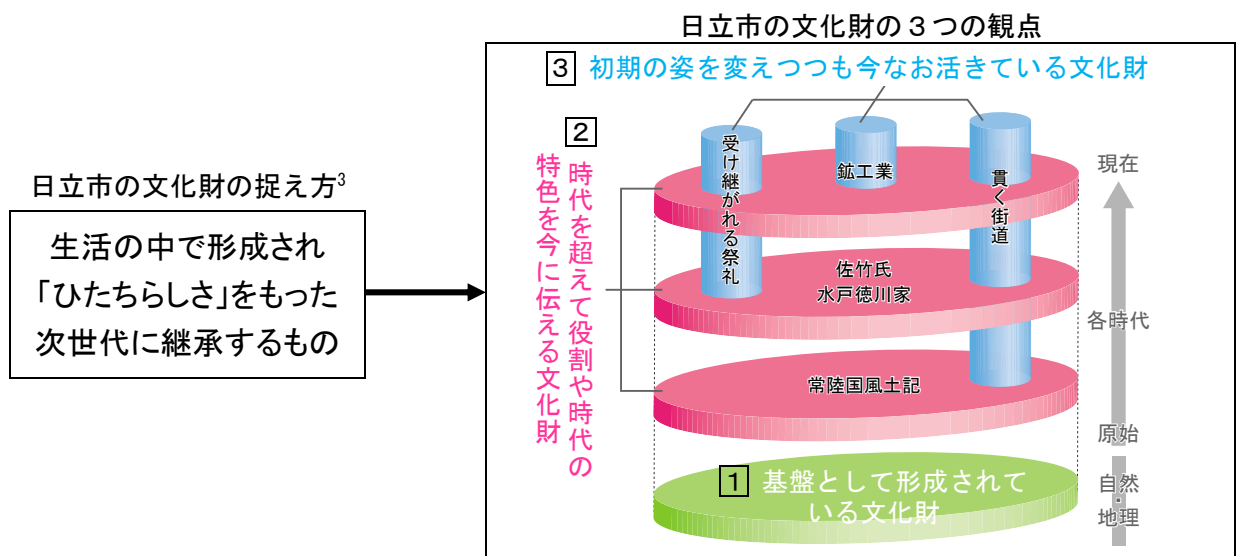
	団体名	取組内容
保存会	宮田佐々羅保存会	神峰神社へ奉納するささらの継承
	助川鹿嶋神社助川佐々羅保存会	
	会瀬佐佐羅保存会	
	諏訪神社諏訪散々楽保存会	諏訪神社へ奉納するささらの継承
	大久保鹿嶋神社上孫散々楽保存会	大久保鹿嶋神社へ奉納するささらの継承
	水木ささら保存会	泉神社へ奉納するささらの継承
	成沢郷土芸能保存会	成沢鹿島神社へ奉納するささらの継承
	日立郷土芸能保存会	日立風流物の公開や修繕
	小木津浜郷土芸能保存会	小木津浜の風流物の公開や修繕
	助川海防城跡保全会	助川海防城跡の保存と整備、研修会開催等
毘沙門組太子像保存会	覚念寺太子堂の木造聖徳太子坐像の管理	
保存会	久慈薬師堂保存会	久慈町の薬師堂の管理
	留町聖観音堂護持会	留町の木造聖観音堂と内部の像の管理
	常陸之國御諏訪太鼓保存会	信州諏訪地方ゆかりの諏訪太鼓の継承
	八つ凧保存会	八つ凧の製作講座や大会の主催
	十王町徒歩鵜漁伝統文化保存会	十王川で行われてきた徒歩鵜漁技術の継承
日立市文化協会 日立市文化少年団	日立ふるさと文化少年団	日立市の歴史や文化の体験
	助川海防城を調べる会	助川海防城の歴史調査
	水木ささら保存会	泉神社へのささらの奉納
	常陸之國御諏訪太鼓保存会少年団	信州諏訪地方ゆかりの諏訪太鼓の演奏
調査・研究会	郷土史を学ぶ会	『日立市絵馬調査報告書 ひたちの絵馬』刊行等
	共楽館史料調査会	『史料集共楽館―地域とともに歩んだ50年―』刊行等
	鉾山の歴史を記録する市民の会	『鉾山と市民―聞き語り日立鉾山の歴史―』刊行等
	古文書学習会	『柴田方庵日録』、『道中記にみる江戸時代の日立地方 岩城、棚倉街道を旅する』刊行等
	山椒の会	『日立の民間信仰』刊行等
	新聞史料をつくる会	『日立市関係新聞記事表題索引目録』刊行等
	助川海防城跡保全会	『ガイドブック 助川海防城と陣屋・番所・台場』刊行等
	ひたち巨樹の会	『茨城の巨樹 日立市郷土博物館写真パネル目録』刊行等
	日立市の戦災と生活を記録する市民の会	『日立戦災史』刊行等
	ひたち碑の会	『日立の碑』刊行等
日立の現代史の会	『日立製作所と地域社会』刊行等	

第3章 日立市の歴史文化の特徴の考え方

1 歴史文化の特徴を整理するための観点

第1章・第2章で整理したように、本市では、地形、水系、生態系等の自然的・地理的環境が基盤となり、原始時代から現在までを歴史的背景として、現在の社会的状況が形成されてきた。これらの自然的・地理的環境、歴史的背景、社会的状況の関わりによって「市民の生活の中で形成されてきた、『ひたちらしさ』をもった次世代に継承するもの」が、本市の文化財である。

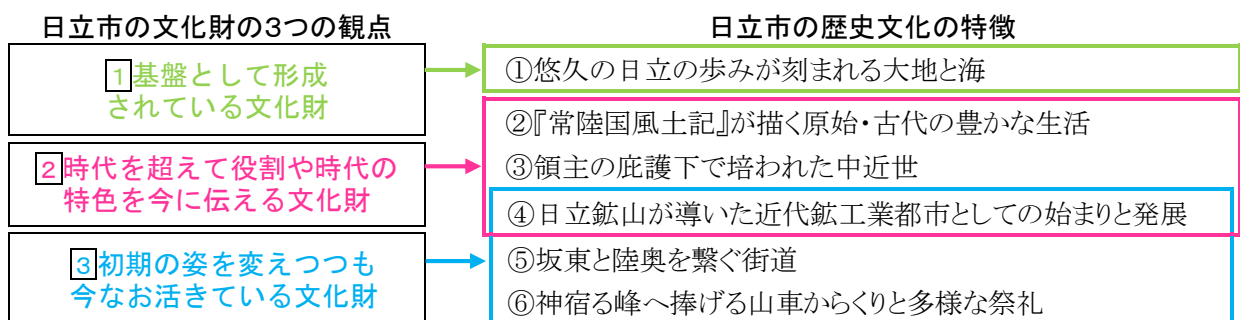
このような文化財の捉え方を基に、歴史文化の特徴を明確にするため、本市の文化財を3つの観点によって再整理した。3つの観点とは、自然的・地理的な「**1**基盤として形成されている文化財」の上に、原始時代から現在までの各時代のまとまりにおいて「**2**時代を超えて役割や時代の特色を今に伝える文化財」が発生し、一方で、各時代を超えて「**3**初期の姿を変えつつも今なお活きている文化財」も現在に表出する、というものである。本市の歴史文化の特徴は、このような観点から整理した。



図：日立市の歴史文化の特徴を整理するための文化財の3つの観点

2 歴史文化の特徴の考え方

文化財の3つの観点から整理される本市の歴史文化の特徴は、以下の①～⑥である。「**1**基盤として形成されている文化財」から①、「**2**時代を超えて役割や時代の特色を今に伝える文化財」から②③④、「**3**初期の姿を変えつつも今なお活きている文化財」から④⑤⑥を導き出すことができる。



³ 第2章「1 文化財の把握方針」「(1) 本計画における文化財の捉え方」に示した。

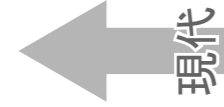
3 歴史文化の特徴を示す文化財とその集積地

各歴史文化の特徴を示す具体的な文化財は、以下のとおりである。また、それらの文化財の分布状況から抽出される集積地を、集積地内に位置する代表的な文化財名を用いて示した。歴史文化の特徴「③領主の庇護下で培われた中近世」は、中近世が時代ごとの特徴によって3つの時代に分かれることから3つの細目を設けた。

表：日立市の歴史文化の特徴及び特徴を示す文化財等

日立市の歴史文化の特徴	日立市の歴史文化の特徴を示す文化財	日立市の歴史文化の特徴を示す文化財の集積地
①悠久の日立の歩みが刻まれる大地と海	いぶき山イブキ樹叢、 <u>本山の一本杉</u> 、 <u>海鷲渡来地</u> 、 <u>カンブリア紀層</u> 、御岩山、黄銅鉱 等	—
②『常陸国風土記』が描く原始・古代の豊かな生活	泉が森、『常陸国風土記』、『常陸国風土記』記載の地名「高市」や「飽田の村」、 <u>南高野貝塚</u> 、 <u>赤羽横穴墓群</u> 等	泉が森周辺の集積地
③領主の庇護下で培われた中近世	③-1 中世の奥七郡から翻った佐竹扇	大窪城跡及び暇修館跡、相馬碑、要害城跡、泉神社 等
	③-2 近世日立を巡った水戸黄門の足跡	木造万年大夫夫婦坐像（諏訪神社管理）、 <u>小野家住宅</u> 、助川宿跡 等
	③-3 幕末の海防施設が語る動乱	助川海防城跡、 <u>山野邊家墓所</u> 、 <u>藤田東湖揮毫諏訪神社大のぼり</u> 等
④日立鉱山が導いた近代鉱工業都市としての始まりと発展	旧久原本部、 <u>旧共楽館</u> 、 <u>5馬力誘導電動機</u> 、大煙突、サクラ、日立市天気相談所 等	旧久原本部周辺の集積地
⑤坂東と陸奥を繋ぐ街道	長者山遺跡、古代官道跡、 <u>豎破山の太刀割石</u> 、旧岩城相馬街道（国道6号）、旧棚倉街道（国道349号）、地名「前塚」（助川一里塚跡） 等	長者山遺跡周辺の集積地
⑥神宿る峰へ捧げる山車からくりと多様な祭礼	日立風流物、神峰神社、 <u>日立のささら</u> 、 <u>鹿嶋神社流鏝馬</u> 、御岩神社回向祭、鳥追いまつり、日立さくらまつり 等	風流物周辺の集積地

⁴ 下線は指定等文化財である。



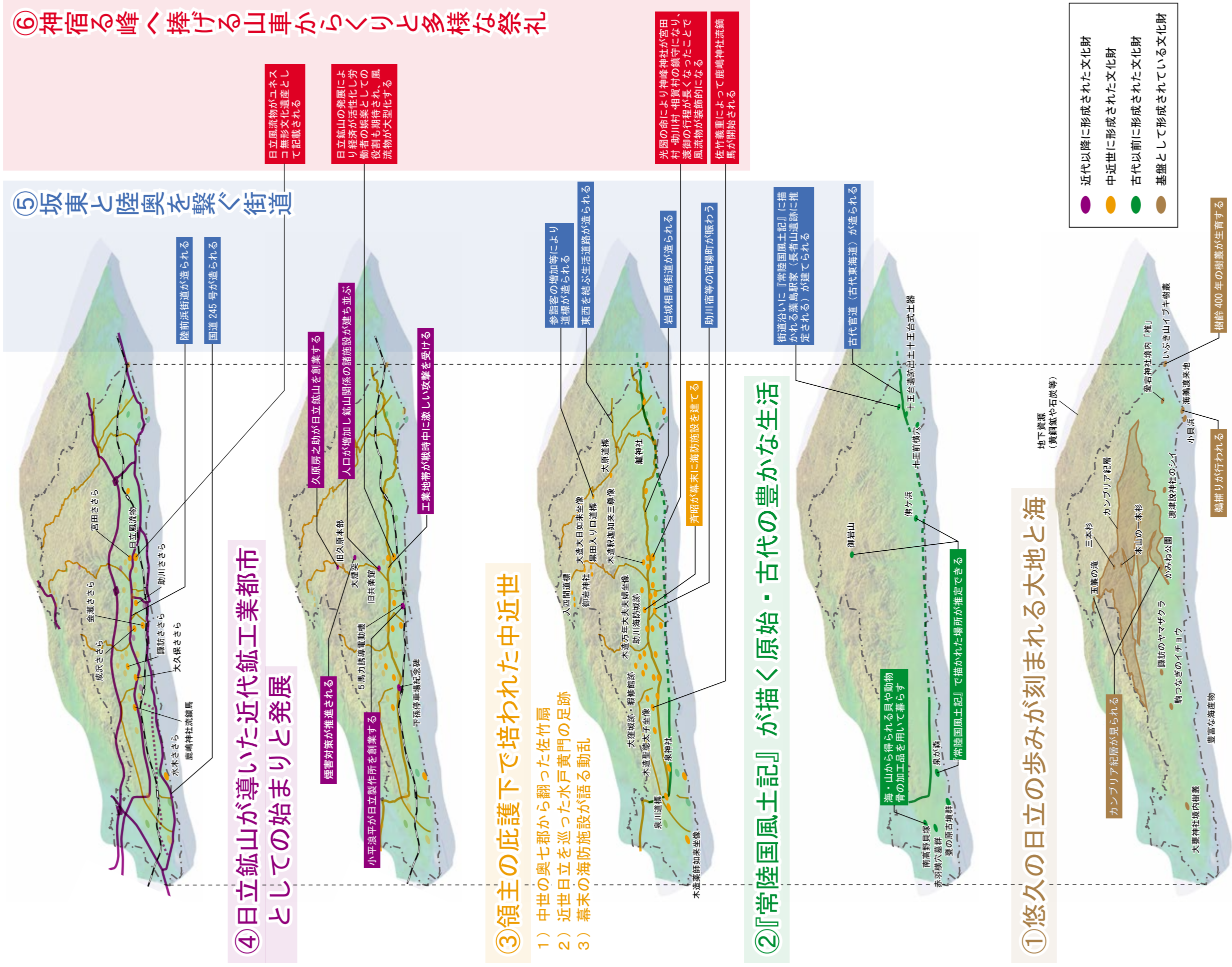
現代

近代

中近世

古代

自然
地理



⑥ 神宿る峰へ捧げる山車からくりと多様な祭礼

日立風流物がユネスコ無形文化遺産として記載される

日立鉾山の発展により経済が活性化し労働者の娯楽としての役割も期待され、風流物が大型化する

光圀の命により神峰神社が宮田村・御川村・相賀村の鎮守になり、渡御の行程が長くなったことで風流物が装飾的になる
佐竹義重によって鹿嶋神社流鏝馬が開始される

⑤ 坂東と陸奥を繋ぐ街道

陸前浜街道が造られる
国道245号が造られる

久原房之助が日立鉾山を創業する
人口が増加し鉾山関係の諸施設が建ち並ぶ
工業地帯が戦時中に激しい攻撃を受ける

③ 領主の庇護下で培われた中近世

- 1) 中世の奥七郡から翻った佐竹扇
- 2) 近世日立を巡った水戸黄門の足跡
- 3) 幕末の海防施設が語る動乱

② 『常陸国風土記』が描く原始・古代の豊かな生活

街道沿いに『常陸国風土記』に描かれる葉鳥駅家(長者山遺跡に推定される)が建てられる

古代官道(古代東海道)が造られる

海・山から得られる貝や動物骨の加工品を用いて暮らす
常陸国風土記で描かれた場所が推定できる

① 悠久の日立の歩みが刻まれる大地と海

- 近代以降に形成された文化財
- 中近世に形成された文化財
- 古代以前に形成された文化財
- 基盤として形成されている文化財

図：日立市の歴史文化の特徴イメージ

4 歴史文化の特徴

(1) 悠久の日立の歩みが刻まれる大地と海

本市は東側が太平洋に、西側が多賀山地に面しており、海と山の両方の特徴を有する地域である。南北方向に連なる海岸線に面した太平洋から享受される豊富な魚介類は、古来、日立の人々の生活を支えてきた。約5億年前に形成されたカンブリア紀の地層上に立地する多賀山地からは、豊富な地下資源が産出することで鉱工業都市日立の発展の要となった。本市は海と山を中心に、全国唯一の鵜捕りの対象となるウミウの渡来や様々な場所で見られる巨木や樹叢が生育する豊かな生態系が市内で展開しており、この自然的・地理的環境が本市の歴史文化全体の基盤となっている。

歴史文化の特徴(1)を示す文化財は以下のとおりである。



写真:本市北西端の豎破山から臨む多賀山地
(『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)



写真:本市の海岸線と海岸段丘
(『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)

ア 文化財一覧

分類		文化財
自然物	地形・地質	御岩山、カンブリア紀層、多賀山地、地下資源(黄銅鉱・石炭・石灰岩)等
	樹木	<社寺に生育する樹木> <u>愛宕神社境内「椎」⁵</u> 、御岩山の三本杉、大甕神社境内樹叢、 <u>澳津説神社のシイ</u> 、 <u>駒つなぎのイチヨウ</u> 等 <歴史や伝承に関わる樹木> 本山の一本杉、サクラ、助川小学校四代桜、諏訪梅林等 <貴重種等の樹木> <u>いぶき山イブキ樹叢</u> 、 <u>諏訪のヤマザクラ</u> 、大平鎮守のスギ、久慈小学校のケヤキ、ヒカリモ、日立紅寒桜、藤坂のサルスベリ、古田のヤマナシ等
	滝	<u>玉簾の滝</u> 等
	石	大甕神社宿魂石、烏帽子岩、豎破山の太刀割石等
	浜	<u>海鵜渡来地</u> 、 <u>小貝浜</u> 、伊師浜等
	海産物	アンコウ、シラス、イワシ、サバ、サンマ、タコ等
	建造物	海関係
大地関係		日鉱記念館等
公園、道		かみね公園・平和通り、赤羽緑地等
伝統技術		<u>鵜捕りの技術</u> 等

⁵ 下線は指定等文化財である。

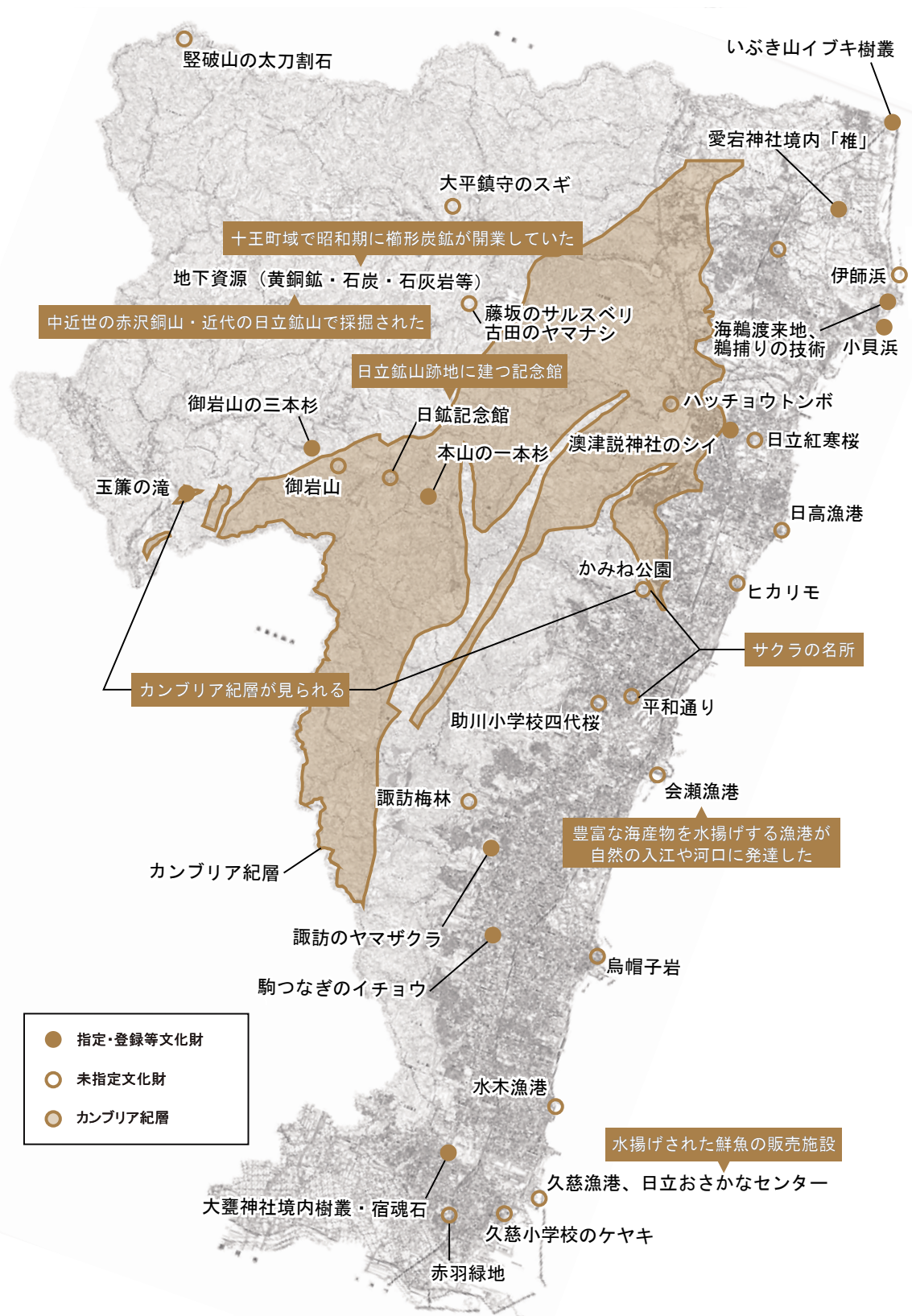
イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
御岩山	御岩山は多賀山地内の一山であり、古代の『常陸国風土記』に記載されている「賀毘礼の高峰」に推定されている。近世に水戸徳川家によって御岩神社が創建された信仰の地である。	
カンブリア紀層 (写真:『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)	多賀山地の地層で最も古いものは約5億年前のカンブリア紀に遡り、これは国内でも最古の貴重な地質である。カンブリア紀層は、山間部の御岩神社や玉簾寺だけでなく、市内のかみね公園展望台付近などで確認することができる。	
日立鉱山の黄銅鉱	カンブリア紀層の中にある鉱床の一つに、層上含銅硫化鉄鉱床がある。鉱床からは黄銅鉱という鉱石が採掘されるが、赤沢銅山時代から開発が進まなかった。日立鉱山は、機械化によって大規模な採掘に成功し、これが現代の工業都市日立の誕生に繋がった。	
大甕神社境内樹叢 澳津説神社のシイ (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)	澳津説神社は近世に徳川光圀の命で一村の総鎮守となった神社であり、境内のスダジイは推定樹齢300年以上の老巨木である。スダジイは本市の指定保存樹木の中で圧倒的に多い樹木であり、大甕神社の樹叢もスダジイを主とする自然林である。	
いぶき山イブキ樹叢 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)	本市北境の花貫川河口にあるいぶき山という小高い丘に、推定樹齢約400年のイブキが自生している。イブキは温暖で夏季に降水量が多く潮風の当たる場所に生育し、このイブキ樹叢は自然分布の北限に近い。伐採や盗採で減少し、現在は8本しか残っていない。	
本山の一本杉 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)	古くから本山に林立していた杉の大樹は、中近世の赤沢銅山時代から次々と枯れたり伐採されて減っていった。この一本杉はその中で唯一現代に残ったものであり、日立鉱山創業以降も開発の神木として大切に保護されてきた。	

名称	概要	写真
<p>サクラ (写真:ひたち風 HP より)</p>	<p>サクラは本市の「市の花」であり、その始まりは日立鉱山が煙害対策で植林したオオシマザクラに遡る。現在、かみね公園と平和通りのサクラは「日本さくら名所 100 選」に選ばれており、日立さくらまつりは日立風流物も公開される観光イベントとして賑わいを見せている。</p>	
<p>玉簾の滝 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>県北の名瀑として名を馳せている高さ18m、幅8m の優美な滝であり、玉簾寺の境内に位置する。滝つぼ付近に露出している岩石は角閃石片麻岩といい、カンブリア紀のものである。「玉簾の滝」の名称は、徳川光圀が命名した。</p>	
<p>豎破山の太刀割石 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>十王町の豎破山山頂には、古代に八幡太郎義家が切ったとされる真っ二つに割れた卵型の巨石があり、太刀割石と呼ばれている。豎破山は蝦夷征討の行路に戦勝を祈願する信仰の地であり、太刀割石も、蝦夷征討の神として崇敬されていたとされる。</p>	
<p>海鵜渡来地 鵜捕りの技術 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>小貝浜から伊師浜にかけての海岸には、春と秋にウミウが渡来し、全国唯一の鵜捕りが行われている。</p>	
<p>海産物(アンコウ、シラス、イワシ、サバ、サンマ、タコ等)</p>	<p>本市では、東部の太平洋を舞台に沿岸漁業が発達し、現代でも魚介類が豊富に水揚げされている。タコは「さくらダコ」として市のさかなになるほど象徴的な海産物であり、シラスやイワシ等も、加工食品等として本市の特産物「ベストセレクションひたち」に選ばれている。</p>	
<p>漁港 日立おさかなセンター (写真:『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)</p>	<p>本市では、豊富な海産物を水揚げする漁港が、入江や河口に発達した。現在、付近に久慈漁港が位置する久慈川河口では、古代から人々が海の恩恵を受けながら暮らしていたが、現在でも日立おさかなセンターがあるように、海の恵みを受ける日立の漁業の中心地である。</p>	

ウ 文化財の分布状況

歴史文化の特徴（1）を示す文化財は、本市の文化財を形成してきた基盤にあたる自然物や、それら自然物の豊かさが象徴されている建造物や及び伝統技術等である。市内全域に分布しているため、文化財の集積地は抽出しない。



図：歴史文化の特徴（1）「悠久の日立の歩みが刻まれる大地と海」を示す文化財の分布状況

(2) 『常陸国風土記』が描く原始・古代の豊かな生活

原始・古代には、人々は海や山から得られる天産物の恩恵を受け、久慈川・十王川流域を中心に集落を形成して豊かに暮らしていた。

風土記は奈良時代初期に全国60余国で作成された文献であるが、現存するのは5風土記に限られる。『常陸国風土記』はこのうちの1つであり、東日本では唯一のものである。

『常陸国風土記』には、「賀毘礼の高峰」や「仏の浜」、「大井」、「飽田村」等につまわる伝承が記載されており、これらの地名の多くについて現在地が推定可能であるため、現代においても古代の有様を感じることができる。また、『常陸国風土記』には、海と山の幸に恵まれた当時の人々の暮らしが描かれており、それが実際にあったと想像できる遺跡が久慈川や十王川を中心に発見され、食物を入れていたと考えられる土器や、周辺に生息していた動物骨を利用した釣針、貝でできた装身具等が遺物として発掘されている。

歴史文化の特徴(2)を示す文化財は以下のとおりである。



写真：『常陸国風土記』記載の「賀毘礼の高峰」に推定される御岩山(『図説 日立市史』より)



写真：『常陸国風土記』記載の「密筑の里の大井」に推定される泉が森(『図説 日立市史』より)

ア 文化財一覧

分類	文化財
建造物	大甕神社
遺跡	<u>かんぶり穴横穴墓群(十王前横穴)</u> 、 <u>長者山遺跡</u> 、 <u>甕の原古墳群3号墳・4号墳</u> 、 <u>南高野貝塚</u> 、 <u>赤羽横穴墓群</u> 、 <u>十王台遺跡</u> 、 <u>西の妻古墳</u> 、 <u>舟戸山古墳</u> 等
遺物	<u>十王台遺跡出土十王台式土器</u> 、 <u>愛宕原火葬墓出土骨蔵器</u> 、 <u>十王台南遺跡第1号住居跡出土遺物</u> 、 <u>諏訪遺跡出土縄文土器⁶</u> 等
文献	『常陸国風土記』 等
版木	<u>訂正常陸国風土記版木</u> 付箱板2枚 等
『常陸国風土記』記載の地名推定地	<u>泉が森</u> (「密筑の里の大井」推定地)、 <u>長者山遺跡</u> (「藻島の駅家」推定地)、 <u>度志観音</u> (「仏の浜」推定地)、 <u>御岩山</u> (「賀毘礼の高峰」推定地)、「 <u>遇鹿</u> 」推定地、「 <u>飽田の村</u> 」推定地、「 <u>高市</u> 」推定地 等

⁶ 下線は指定等文化財であるが、日立市郷土博物館収蔵であるため、所在地を図中に示していないものである。

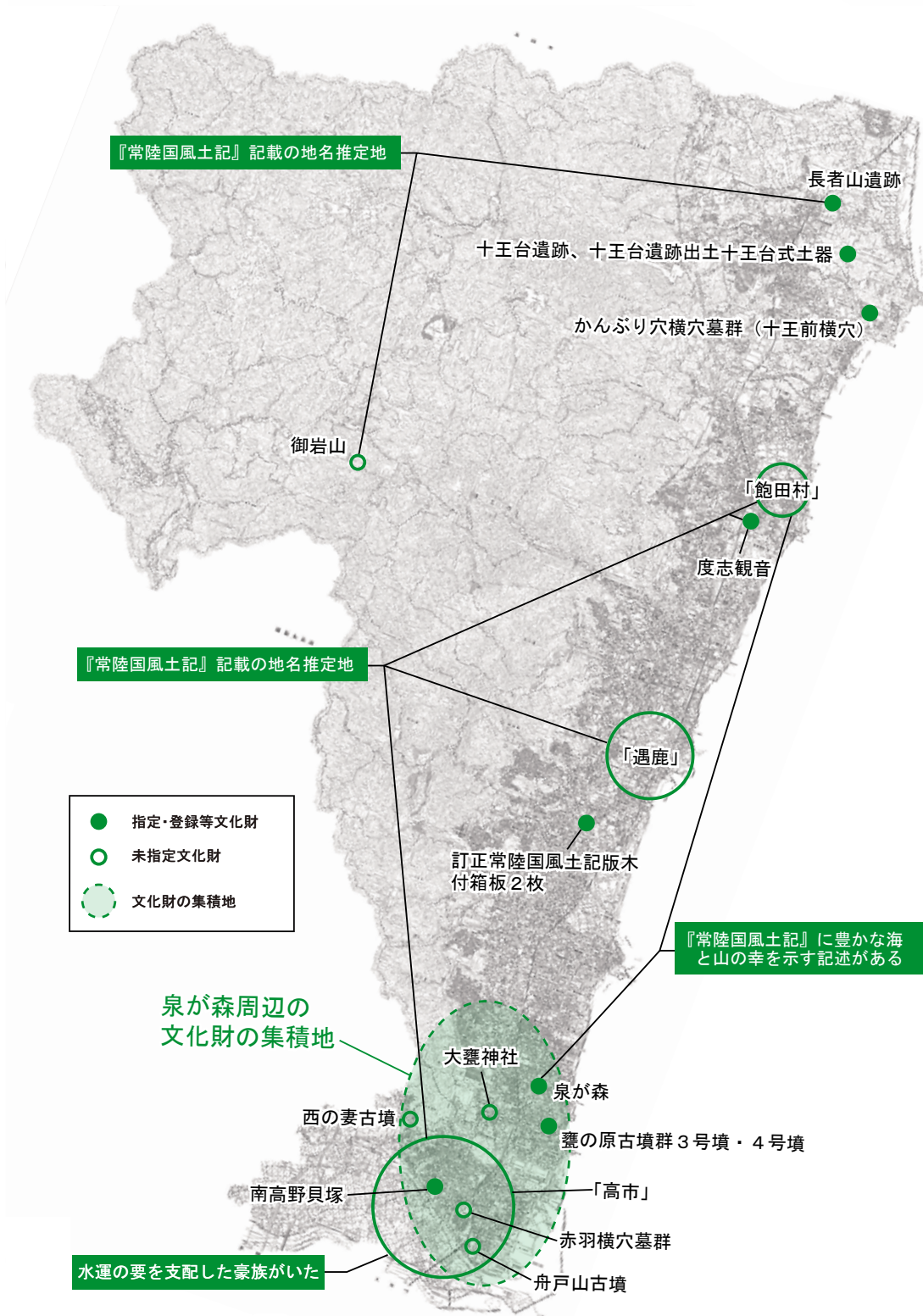
イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
<p>かんぶり穴横穴墓群 (十王前横穴) (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>十王川沿いで発見された110基以上の横穴墓のうちの一つである。九州地方に多くみられる彩色と線刻が施された装飾のある横穴墓であり、遠隔地との交流を推測しうるものである。</p>	
<p>南高野貝塚 (写真:『新郷土日立 歴史』より)</p>	<p>久慈川の支流茂宮川に面した台地上に立地する。貝でできた装身具である貝輪や動物骨を加工して作成した釣針等が出土していることから、当時の人々の生活においても河川や海が果たす役割が大きかったことが分かる。</p>	
<p>赤羽横穴墓群 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>従来、横穴墓の被葬者は古墳の被葬者より低い階層の人々であると考えられてきた。しかし、赤羽横穴墓群からは金銅製の冠などの優品が出土し、久慈川河口や高市を支配した豪族が埋葬されたと推定されている。</p>	
<p>西の妻古墳 舟戸山古墳 (写真:西の妻古墳群1号墳『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>古墳や集落は山間部を除く本市のほぼ全域で確認されるが、特に久慈川流域には濃密に分布している。現在でも墳丘が残る舟戸山古墳や西の妻古墳には、水運の要を押さえていた有力者の存在が浮かび上がってくる。</p>	
<p>十王台遺跡出土十王台式土器 (写真:『図説 十王町史』より)</p>	<p>十王台遺跡群は、十王町伊師本郷の標高 40m前後の台地上に広がる。ここで発見された土器は、関東地方における弥生時代後期の標識的な土器で、「十王台式土器」と名付けられており、那珂川・久慈川を中心に福島県南部域から千葉県北部域にかけて出土している。</p>	
<p>『常陸国風土記』 (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>現存する5風土記のうち東日本に唯一残る『常陸国風土記』には、古代本市域の地名や産物、伝承等が記載されている。地名には現在地を推定できるものも多く、当時の日立の様相を推し量ることのできる貴重な文献である。</p>	

名称	概要	写真
<p>泉が森(『常陸国風土記』記載の「密筑の里の大井」推定地) (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>『常陸国風土記』には「密筑の里に清らかな泉があり大井と呼ばれている」という旨の記述があり、大井周辺が理想郷のように豊かな土地で、人々が飲んで遊び楽しむ様子が示されている。この「密筑の里の大井」は現在の泉が森に当たると推定されている。</p>	
<p>長者山遺跡(『常陸国風土記』記載の「藻島の駅家」推定地) (写真:日立の観光案内 HP より)</p>	<p>『常陸国風土記』に記述がある「藻島の駅家」は、和銅期～養老期(708～724)に反乱を起こした陸奥国の蝦夷征討のために設置された駅家であり、現在の長者山遺跡に当たると推定されている。</p>	
<p>御岩山(『常陸国風土記』記載の「賀毘礼の高峰」推定地) (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>『常陸国風土記』に記載されている「賀毘礼の高峰」は、多賀山地内の一山である御岩山に推定されている。近世に水戸徳川家によって御岩神社が創建された信仰の地である。</p>	
<p>『常陸国風土記』記載の「遇鹿」推定地 (写真:『新郷土日立 地理 <改訂二版>』より)</p>	<p>『常陸国風土記』には現在の相賀町・会瀬町の古地名に推定されている「遇鹿」について、倭武天皇と橘皇后が道をやって来て出会った場所であると記載されており、日立の特徴である「道」も関係している。</p>	
<p>『常陸国風土記』記載の「飽田の村」推定地 (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>『常陸国風土記』には現在の相田町の古地名に推定されている「飽田の村」について、倭武天皇夫婦が海と山に分かれ、どちらが多くを幸を獲れるか競いあい、結果橘皇后が海の幸を「飽きるほど食べた」という伝承が記載されている。</p>	
<p>『常陸国風土記』記載の「高市」推定地 (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>『常陸国風土記』に記述がある「高市」は、高い所に位置した市のことであり、現在の久慈町・南高野町・石名坂町周辺に当たると推定されている。赤羽横穴墓群に埋葬されていた豪族が支配した水運の要であり、人々の交易の場となった。</p>	

ウ 文化財の分布状況と集積地

歴史文化の特徴（２）を示す文化財は、市内南北の久慈川及び十王川河口周辺の平野部を中心に分布している。特に、久慈川河口には、『常陸国風土記』に記載のある「密筑の里の大井」推定地の泉が森及び「高市」推定地や、赤羽横穴墓群等の豪族の古墳が集積しており、泉が森周辺の文化財の集積地を抽出することができる。



図：歴史文化の特徴（２）『常陸国風土記』が描く原始・古代の豊かな生活」を示す文化財の分布状況と泉が森周辺の集積地

(3) 領主の庇護下で培われた中近世

中世の佐竹氏、近世の水戸徳川家の支配によって、本市域では、貨幣経済の浸透や東西の街道の形成とともに、農業を中心に林業、水産業、商業が発展し、赤沢銅山や大久保金山では鉱山開発が始まった。また、領主によって神社や仏像が保護され、参詣客が増加し人々の往来が活発になった。原始・古代から暮らしの質は大きく変化し、幕末には海外にまで人々の意識は広がった。



写真：佐竹義篤によって造立(再建)されたことが棟札に記されている泉神社
 (『図説 日立市史』より)

(3) - 1 中世の奥七郡から翻った佐竹扇

中世の日立を治めたのは、源義光を祖とする佐竹氏である。佐竹氏は現在の常陸太田市に本拠太田城を構え、本市域があった佐都東郡・多珂郡を含む奥七郡を支配した。家紋には、「五本骨扇に月丸」という黒い扇に日の丸を施したデザインが使用されていた。

本市域には、大窪城や要害城など、佐竹氏の家臣達が築いた居城の城館跡や、佐竹氏が社寺を保護し、造立や再建を経済的に支援することで民衆を支配しようとした痕跡である棟札が残っている。特に、佐竹氏は大久保鹿嶋神社への崇敬が篤く、現在に伝わる当神社の流鏝馬は佐竹氏が奉納したことが始まりといわれている。その他、平安時代から中世にかけて作成された仏像や絵画等の貴重な文化財が本市内に伝わる。



写真：木造万年大夫夫婦坐像
 手前が胎内像、奥が徳川光圀が作らせた新像
 (『図説 日立市史』より)

歴史文化の特徴 (3) - 1 を示す文化財は以下のとおりである。

ア 文化財一覧

分類		文化財
建造物	神社(棟札)	臚神社(棟札)、吉田神社(棟札)、泉神社(棟札)、大久保鹿嶋神社(棟札)、塩竈神社(棟札) 等
石造物	碑	相馬碑 等
仏像		木造阿弥陀如来坐像、木造釈迦如来三尊像、木造聖徳太子坐像、木造大日如来坐像 等
絵画		絹本著色阿弥陀如来来迎図 等
経典		大般若波羅密多經 等
鏡		古鏡、蒔絵鏡箱 等
城館跡		大窪城跡、相賀館跡、櫛形城跡、久慈城跡、友部城跡、山尾城跡、要害城跡 等
祭礼		鹿嶋神社流鏝馬 等

イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
<p>泉神社 (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>泉神社(水木町)は『延喜式』神名帳に掲載された天速玉姫神社に比定される古代からの神社である。棟札には佐竹義篤の外護によって神殿造立(再建か)されたことが記されている。</p>	
<p>相馬碑 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>相馬碑は、永禄5年(1562)に相馬中村(相馬市)の城主相馬盛胤が佐竹氏の領地であった本市域に侵入し孫沢原で戦った際、戦死した多くの将士の供養碑である。中世末期の建立と推定される。</p>	
<p>大窪城跡(暇修館跡) (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>大窪城は治承元年(1177)に平氏が久保の愛宕山に築いた城で、応永期(1394～1428)に佐竹氏の重臣大窪氏が居城とし、現在地である天神山へ移した。大窪城跡の一部には、天保10年(1839)に水戸藩の郷校興芸館が建てられ、後に暇修館に改称された。</p>	
<p>要害城跡 (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>要害城は、永禄5年(1562)の孫沢原での戦いで以前の城が落ちた後に創建された、佐竹氏家臣の孫沢権大夫頼茂の居城と伝わる。近代には、要害城跡地に日立製作所の福利厚生施設である要害クラブが建てられ、現在も利用されている。</p>	
<p>鹿嶋神社流鏝馬</p>	<p>毎年10月29日に秋季例大祭で行われる大久保鹿嶋神社の行事で、馬1頭、騎手・引手各1人が神社参道を歩みながら3箇所的に矢を射ることを3回繰り返す。佐竹義重が関わり、天正12年(1584)に始まったと伝えられている。</p>	

ウ 文化財の分布状況と集積地

歴史文化の特徴(3)－1を示す文化財は、市内全域に分布している。特に、市内中心部には、城館跡のうち唯一の指定文化財である大窪城跡や、佐竹氏の崇敬が篤く流鏑馬神事が現在まで伝わっている大久保鹿嶋神社、佐竹氏と相馬氏との領地争いの痕跡である相馬碑等が集積しており、大窪城跡周辺の文化財の集積地を抽出することができる。



図：歴史文化の特徴(3)－1「中世の奥七郡から翻った佐竹扇」を示す文化財の分布状況と大窪城跡周辺の集積地

(3) - 2 近世日立を巡った水戸黄門の足跡

近世になると国替えによって佐竹氏が去り、代わって水戸徳川家が本市域を治めるようになった。徳川幕府によって脇往還である岩城相馬街道や棚倉街道が本市域に整備され、御岩神社をはじめとする社寺への参詣客等のために宿駅や道標が設けられた。助川宿は本市域で最も栄えた宿駅であり、本陣「長山家」には水戸藩第2代藩主徳川光圀も度々訪れていた記録が残る。

光圀は、近世の日立に多大な影響を与えた人物である。明治22年(1889)に誕生した本市域の旧村名「日立村」の地名は、光圀が海から昇る朝日の美しさを「日の立ち昇るところ領内一」と称えたという故事に由来するという説がある。また、玉簾寺境内にある「玉簾の滝」の名称も、滝の様相が軒下に吊るす簾に似ているところから、光圀が命名したといわれる。光圀は仏像の保護や社寺改革に取り組み、日立風流物はこの時光圀が神峰神社を宮田村1箇村から助川村と相賀村を含めた3箇村の総鎮守と改めたことにより発展した。その他、近世に作成された絵画や燈籠等の貴重な文化財が本市内に伝わる。

歴史文化の特徴(3) - 2を示す文化財は以下のとおりである。

ア 文化財一覧

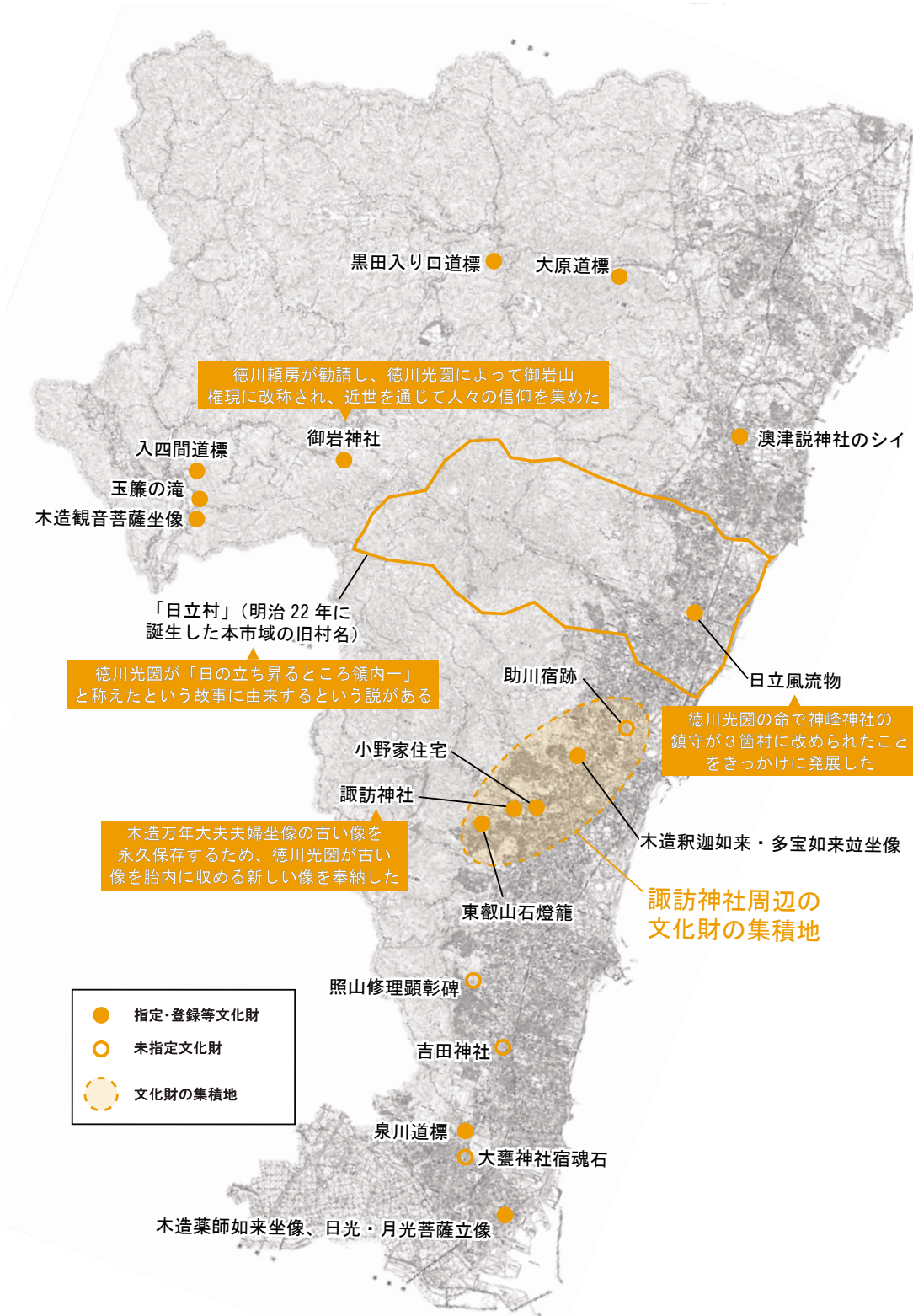
分類		文化財
建造物	神社	御岩神社、諏訪神社、吉田神社 等
	住宅	小野家住宅 等
石造物	道標	泉川道標、入四間道標、大原道標、黒田入り口道標 等
	燈籠	東叡山石燈籠 等
	碑	照山修理頭彰碑 等
仏像	日光・月光菩薩立像、木造観音菩薩坐像、木造釈迦如来・多宝如来並坐像、木造薬師如来坐像、木造阿弥陀如来坐像、木造万年大夫夫婦坐像 等	
絵画	絹本着色涅槃図...等	
祭礼の出し物	日立風流物 等	
自然物	澳津説神社のシイ、玉簾の滝、大甕神社宿魂石 等	
宿駅跡	助川宿跡 等	
地名	「玉簾の滝」、「日立村」 等	

イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
<p>御岩神社 (写真:観光いばらき HP より)</p>	<p>御岩神社は、寛永7年(1630)に初代藩主徳川頼房によって湯殿山権現を御岩山に勧請したのがはじまりとされる。徳川光圀により御岩山権現に改称され、江戸時代を通じて人々の信仰を集めた。明治期に神仏分離令により権現名が廃止となり、御岩神社となった。</p>	
<p>木造観音菩薩坐像 (写真:『日立市の文化財』より)</p>	<p>徳川光圀は仏像の保護に尽力した。木造観音菩薩坐像は玉簾寺観音堂の本尊である。像内に墨書銘札が納入されており、貞享3年(1686)、光圀が所持していた仏像に装飾荘厳して玉簾寺に移したことが記されている。</p>	
<p>日立風流物 (写真:日立市 HP より)</p>	<p>元禄8年(1695)、徳川光圀の命によって宮田村の神峰神社が助川村と相賀村(元禄11年に会瀬村となる)3箇村の鎮守と改められた際、渡御の行程が長くなったことによって、祭礼の山車が工夫改良を加えられ風流化した。これが今日まで続く日立風流物の起源といわれている。</p>	
<p>澳津説神社のシイ (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>澳津説神社は天文13年(1544)に開山し万治元年(1658)に現在地に遷宮されたと伝えられる神社である。徳川光圀の命によって一村の総鎮守となり、境内のスダジイも現在まで神木として長く保護されることになった。</p>	
<p>玉簾の滝 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>玉簾寺境内にある玉簾の滝は、その優美な姿から水戸藩主や文人墨客が来遊し、詩歌などを作ってきた。「玉簾の滝」の名称は、徳川光圀が天和3年(1683)に訪れた際、滝の様相が軒下に吊るす簾に似ているところから命名したものである。</p>	
<p>助川宿跡 (写真:『ふるさと日立検定 公式テキストブック中級編』より)</p>	<p>近世の陸上輸送の基本は伝馬制度であり、宿駅は人足や馬を常備した重要な施設だった。本市域でもいくつかの村に置かれ、助川宿はその中で最も栄えた宿駅である。本陣「長山家」には徳川光圀も度々訪れていた記録が残るが、昭和20年(1945)の空襲で焼失した。</p>	

ウ 文化財の分布状況と集積地

歴史文化の特徴（3）－2を示す文化財は、市内全域に分布している。特に、市内中心部には、徳川光圀の文化財保護の史実を伝える諏訪神社の木造万年大夫夫婦坐像や、民家建築のうち唯一の指定文化財である小野家住宅、最も賑わった宿駅であり光圀も本陣に度々訪れていたとされる助川宿跡等が集積しており、諏訪神社周辺の文化財の集積地を抽出することができる。



図：歴史文化の特徴（3）－2「近世日立を巡った水戸黄門の足跡」を示す文化財の分布状況と諏訪神社周辺の集積地

(3) - 3 幕末の海防施設が語る動乱

水戸藩第9代藩主徳川斉昭は、幕末の動乱期に水戸藩の藩政を握った人物である。中世に築かれた大窪城跡に郷校興芸館（後の暇修館）を建てるとともに、藩政改革に着手した。また、東部に長い海岸線を有する本市域において、幕末に頻繁に出没するようになった異国船を警戒し、助川海防城（助川村）や海防陣屋（大沼・友部村）等の海防施設を設置した。しかし、尊王攘夷運動の高まりとともに水戸藩は同じ藩内で天狗党と諸生党という派閥に分かれて争い、助川海防城は天狗諸生の最後の戦いの場となって焼け落ちた。天狗諸生の争いの痕跡は、小野家住宅のダイコク柱にも残っている。また、助川海防城の初代海防惣司を務めた、斉昭の家老山野邊義観にまつわる太刀や短刀、山野邊家墓所といった文化財も往時を偲ばせる。さらに、明王山不動尊に奉納された絵馬には、助川海防城跡の落城間近の文久4年（1864）のものがあり、動乱の最中における民衆の祈りが込められている。その他、江戸時代後期の貴重な文化財として、旧助川西上町舞屋台等が本市内に伝わる。

歴史文化の特徴（3）-3を示す文化財は以下のとおりである。

ア 文化財一覧

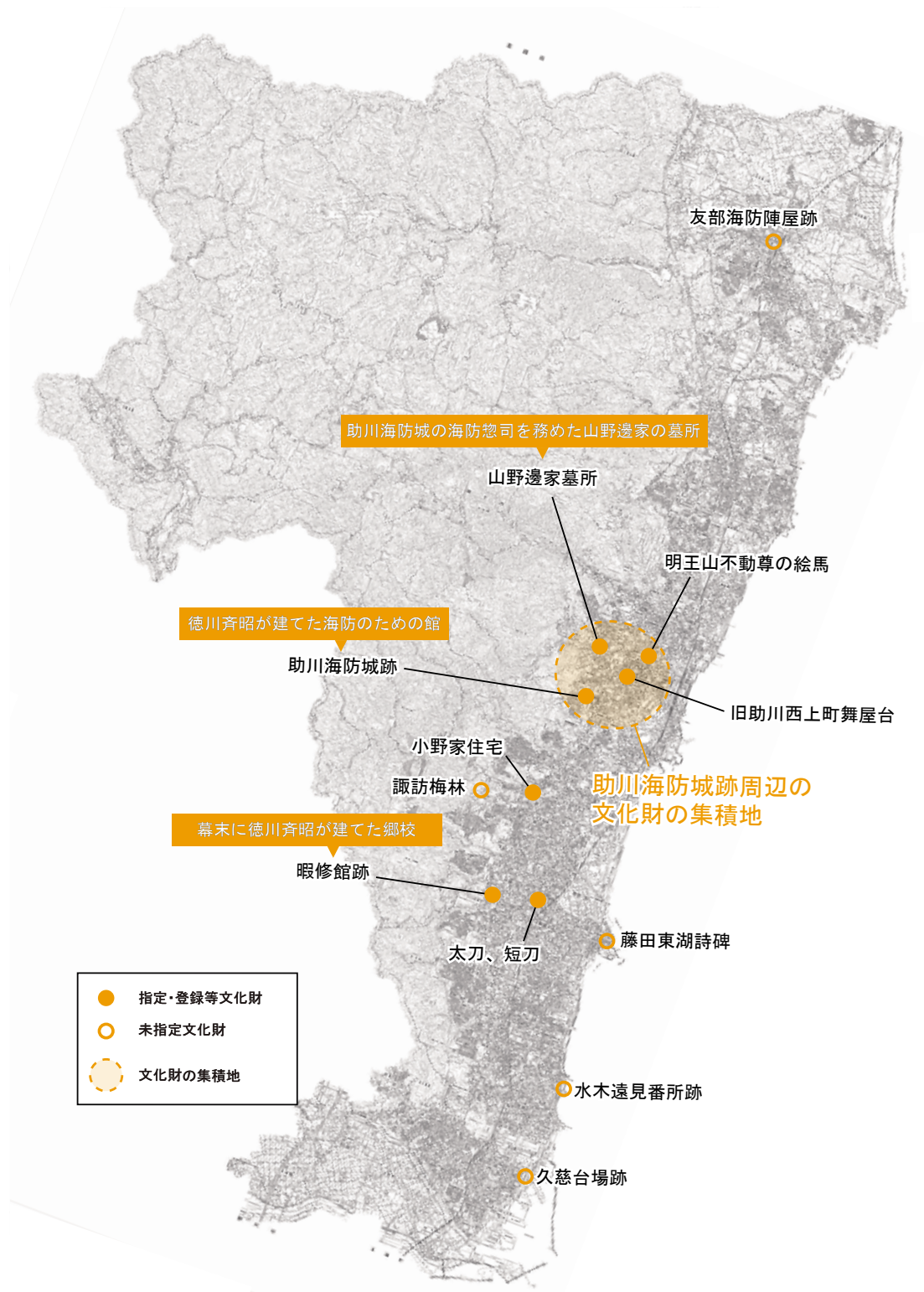
分類		文化財
建造物	海防施設	助川海防城跡、久慈台場跡、友部海防陣屋跡、水木遠見番所跡 等
	郷校	暇修館跡 等
	住宅	小野家住宅 等
石造物		山野邊家墓所、藤田東湖詩碑 等
刀、銃		太刀、短刀、火縄三眼銃 等
絵画		友部村絵図
絵馬		明王山不動尊の絵馬 等
幟		藤田東湖揮毫諏訪神社大のぼり、藤田東湖揮毫南高野鹿島神社大幟 等
祭屋台		旧助川西上町舞屋台 等
自然物		諏訪梅林

イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
<p>助川海防城跡 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>東部に長い海岸線を有する水戸藩では、徳川頼房の時代から異国船に注意が払われてきた。助川海防城は、徳川斉昭が家老山野邊義観を海防惣司に任命して建てた海防のための館である。元治元年(1864)に天狗諸生の争いの場となり焼け落ちた。</p>	
<p>暇修館跡(大窪城跡) (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>大窪城は治承元年(1177)に平氏が大久保の愛宕山に築いた城で、応永期(1394～1428)に佐竹氏の重臣大窪氏が居城とし、現在地である天神山へ移した。大窪城跡の一部には、天保10年(1839)に水戸藩の郷校興芸館が建てられ、後に暇修館に改称された。</p>	
<p>小野家住宅 (写真:『日立市の文化財』より)</p>	<p>茨城県の北部一帯から太平洋沿岸にかけては、曲り屋形式の民家が見られる。小野家住宅は、代表的な曲り屋形式の民家であり、18世紀前期建立と推定される。ダイコク柱の深い刃傷は、幕末動乱期における天狗諸生の争いの痕跡である。</p>	
<p>山野邊家墓所 (写真:『日立市の文化財』より)</p>	<p>山野邊家は出羽一国の山形城主最上義光の四男を祖とする。8代山野邊義観の時に徳川斉昭の命により助川館に移住し、その後3代にわたって助川海防惣司を務めた。幕末に天狗諸生の争いで天狗党に与した10代義藝は幕府軍に降伏し、家名断絶を命じられた。</p>	
<p>太刀 短刀 (写真:短刀『日立市の文化財』より)</p>	<p>短刀は、助川海防城海防惣司の山野邊義観と親交のあった幕末の一流刀匠大慶直胤が作製したものである。また、太刀は義観の家臣大江勝永が大慶直胤の指導を受け作製したものである。</p>	
<p>藤田東湖揮毫諏訪神社大のぼり 藤田東湖揮毫南高野鹿島神社大幟 (写真:藤田東湖揮毫南高野鹿島神社大幟『日立市の文化財』より)</p>	<p>藤田東湖は、幕末水戸学の学者であり、徳川斉昭の信任を得て天保の藩政改革等に尽力した人物である。これらの幟は、藤田東湖が揮毫してそれぞれ諏訪神社・鹿島神社へ奉納したものである。</p>	
<p>旧助川西上町舞屋台 (写真:『日立市の文化財』より)</p>	<p>旧西川西上町舞屋台は、江戸時代後期から、助川鹿嶋神社や神峰神社の祭礼において、助川村の4町から一台ずつ奉納された祭屋台のうちの一台中である。往時は華やかに祭を彩ったが、太平洋戦争の折に西上町の屋台を除く3台は焼失した。</p>	

ウ 文化財の分布状況と集積地

歴史文化の特徴（3）－3を示す文化財は、市内全域に分布している。特に、市内中心部には、徳川斉昭の海防政策を象徴し、水戸藩で起こった天狗諸生の争いの痕跡も示す助川海防城跡、助川海防城の海防惣司を務めた山野邊家の墓所、幕末における民衆の祈りが込められた明王山不動尊の絵馬、助川海防城跡周辺の文化財の集積地を抽出することができる。



図：歴史文化の特徴（3）－3「幕末の海防施設が語る動乱」を示す文化財の分布状況と助川海防城跡周辺の集積地

(4) 日立鉱山が導いた近代鉱工業都市としての始まりと発展

近代には久原房之助・小平浪平により日立鉱山・日立製作所が創業し、現代に通じる鉱工業都市日立が幕を開けた。

地下資源に恵まれた多賀山地では、近世から赤沢銅山の採掘が行われていたが、麓の村への悪水流出による農業被害等が障害となり、開発は進んでいなかった。明治 38 年

(1905) に赤沢銅山を買い取った久原房之助は、日立鉱山と名前を変え、巨額の資金を投入し、それまで鉱山開発で使用されたことのない電気を動力として開発を推進した。開発の弊害として、銅製錬によって発生した排煙に含まれる亜硫酸ガスにより、周辺地域の農作物や山林が枯れるといった事態が起こったが、久原房之助は当時世界一の高さとなった大煙突の建設や、亜硫酸ガスに耐性のあるオオシマザクラの植栽等によって山林の回復に成功した。また、日立鉱山の重要施設である発電所の責任者だった小平浪平は、5馬力誘導電動機の開発をきっかけに、新工場として日立製作所を設立した。

昭和 16 年 (1941) に開戦した太平洋戦争下においては、本市は、その高い技術力で軍需工場地帯として発展していたことから、戦争末期にアメリカ軍の爆撃を受け、市街地のほとんどが焼失した。終戦後は日立製作所社長の小平浪平の指揮の下、工場復旧を手始めに本市は再建を果たした。

日立鉱山及び日立製作所は操業を続け、現在の J X 金属及び日立製作所として、世界に向けて展開する本市の工業を担っている。近世までの課題を克服した久原房之助の鉱山開発は、現代に繋がる新しい近代の日立を生み出した。

歴史文化の特徴 (4) を示す文化財は以下のとおりである。

ア 文化財一覧

分類	文化財
建造物	御岩神社、旧共楽館(日立武道館)、旧久原本部、日立オリジンパーク(近代に開業した日立製作所の記念館)、里川発電所、昇開式可動橋、大煙突、日鉱記念館(近代に開業した日立鉱山跡地に建つ記念館)、中里発電所、日立市天気相談所、JR日立駅駅舎 等
石造物	下孫停車場記念碑、日立製作所創業石、三代芳松像 等
工業製品	5馬力誘導電動機 附設計図1枚 等
戦災跡	1トン爆弾弾痕 等
自然物	サクラ、玉簾の滝 等



写真: 明治 42 年 (1909) 頃の日立製作所創業小屋(『図説 日立市史』より)



写真: 煙害対策として植樹された日立鉱山跡のオオシマザクラ(ひたち風 HP より)

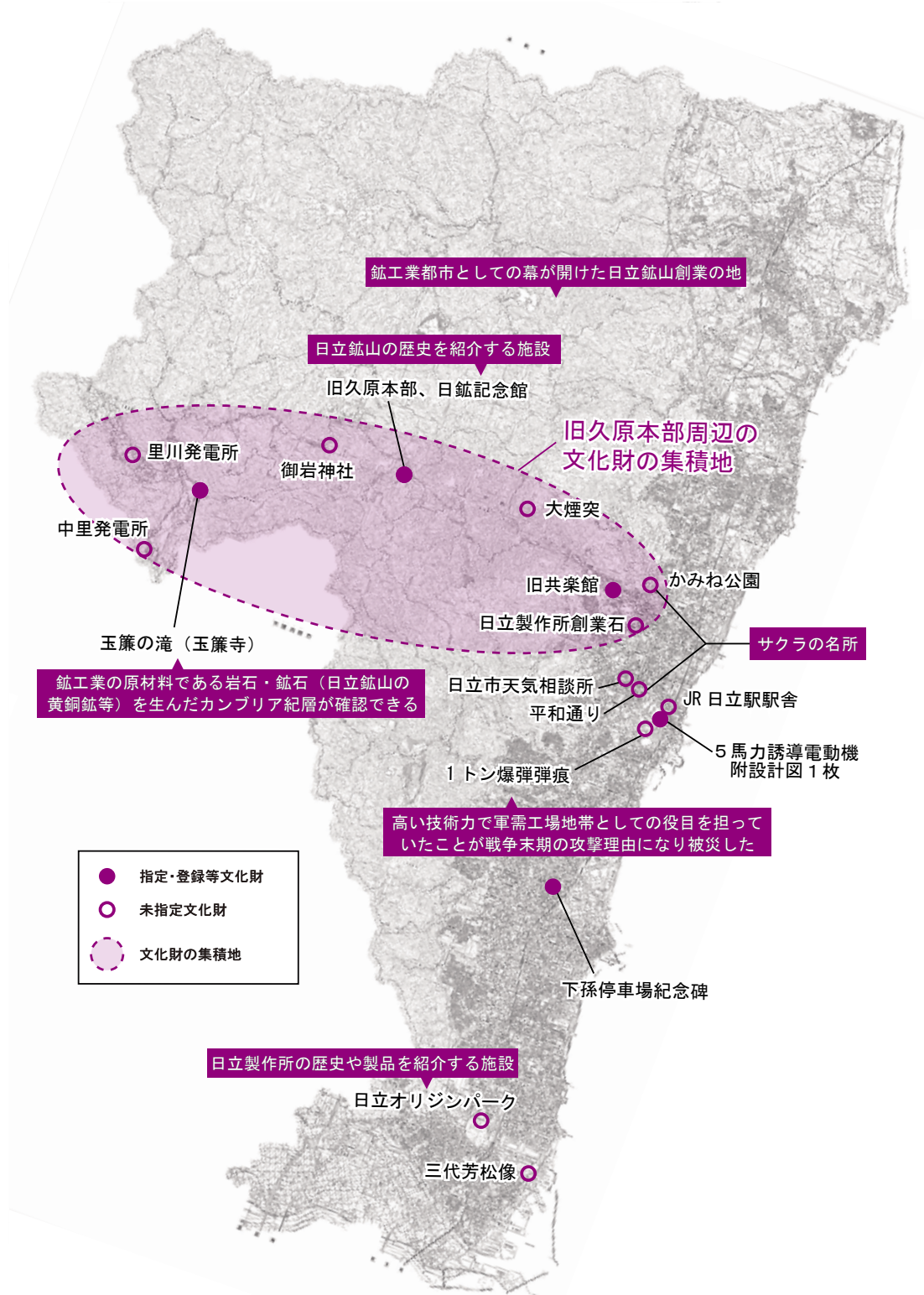
イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
<p>旧共楽館(日立武道館) (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>日立鉱山と日立製作所は、工場周辺に従業員のための住宅や病院、郵便局等を設置した。共楽館は日立鉱山が設置した劇場であり、従業員のみならず一般村民も利用できる娯楽施設として賑わった。現在は日立武道館として利用されている。</p>	
<p>旧久原本部 (写真:『図説 日立市史』より)</p>	<p>旧久原本部は、日立鉱山中枢部の一角に位置する。明治 38 年(1905)に久原房之助が旧赤沢銅山を買収し日立鉱山と改称して開業した際に、本部とした小家屋である。久原房之助はここで幹部らとともに、鉱山開発に力を尽くした。</p>	
<p>昇開式可動橋 (写真:ひたち風 HP より)</p>	<p>国道 245 号は海岸沿いの工場施設や茨城港日立港区を繋ぎ、市内で作られた工業製品の運搬に利用されている。昇開式可動橋は、大型機械の運搬の際にその通行が妨げられないよう設置されたもので、本市ならではの仕掛けが施されている。</p>	
<p>大煙突 (写真:『新郷土日立 歴史』より)</p>	<p>日立鉱山では、銅製錬によって発生した亜硫酸ガスにより、農作物や山林が枯れる煙害が周辺村民の生活を脅かしていた。久原房之助は巨額の資金を投じて当時世界一の高さの大煙突を建設し、鉱山開発と自然環境保護の両立に成功した。</p>	
<p>中里発電所 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>中里地区の里川から水を取り入れ電力をつくる、水路式発電所である。明治 41 年(1908)に完成し、当時事業拡大のため多くの電力を必要としていた日立鉱山の施設として使用された。現在は東京発電の所有管理となっており、稼働中の水力発電所では県内最古のものである。</p>	
<p>日立市天気相談所 (写真:ひたち風 HP より)</p>	<p>日立鉱山の煙害対策の一つに神峰山測候所での気象観測がある。気象観測で煙の方向を判断し溶鉱炉の操業を加減する「制限溶鉱」によって、排煙の量をコントロールした。神峰山測候所は後に日立市天気相談所となった。</p>	

名称	概要	写真
<p>JR日立駅駅舎 (写真: 日立の観光案内 HP より)</p>	<p>日立製作所等の諸工場は、製品輸送に便利な日立駅を中心に建設されていった。現在の日立駅は平成 23 年(2011)に本市出身の建築家妹島和世氏がデザイン監修した建築で、太平洋を臨む立地を活かしており、世界でも美しい駅舎の一つとしての評価を受けている。</p>	
<p>三代芳松像 (写真: 『新郷土日立 歴史』より)</p>	<p>本市では、鉱工業だけでなく漁業も盛んに行われている。近代には、技術開発や漁港の整備が実施された。久慈の三代芳松は、大正 15 年(1926)に改良揚繰網漁を考案し、イワシの漁獲量増大に貢献した。</p>	
<p>5馬力誘導電動機 附設計図1枚 (写真: 『図説 日立市史』より)</p>	<p>5馬力誘導電動機(5馬力モーター)は、日立鉱山の発電所で技師をしていた小平浪平が開発した電動機である。この電動機開発をきっかけとした、久原房之助の資金援助を受けての新工場設立が、小平浪平による日立製作所の創業となった。</p>	
<p>1トン爆弾弾痕 (写真: 『図説 日立市史』より)</p>	<p>昭和 16 年(1941)に開戦した太平洋戦争で軍需工場地帯として著しく発展した本市は、戦争末期に激しい爆撃に見舞われ市街地が焼失した。市内には、1 トン爆弾弾痕や、宮田町の仲町小学校近くにある焼け残った消防団小屋の柱など、戦災跡が各所に残る。</p>	
<p>サクラ (写真: ひたち風 HP より)</p>	<p>大正4年(1915)頃から、日立鉱山は煙害によって荒廃した山林を回復するため、本山通りや山麓の周辺村落にオオシマザクラやソメイヨシノを植林した。これが本市のサクラの始まりであり、現在でも毎年春には、かみね公園や平和通りの桜並木が賑わいを見せている。</p>	
<p>玉簾の滝 (写真: 『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>県北の名瀑として名を馳せている高さ18m、幅8m の優美な滝であり、玉簾寺の境内に位置する。滝つぼ付近では、鉱工業発展の礎となった岩石・鉱石を産出したカンブリア紀層を、露出した状態で確認することができる。</p>	

ウ 文化財の分布状況と集積地

歴史文化の特徴（４）を示す文化財は、市内平野部から本山通り沿いに分布している。特に、本山通り（現県道 36 号）沿いには、旧久原本部や大煙突、旧共楽館（日立武道館）といった日立鉱山の関連施設や、煙害対策として植樹されたサクラが現在も毎春咲き誇るかみね公園等が集積しており、旧久原本部周辺の文化財の集積地を抽出することができる。



図：歴史文化の特徴（４）「日立鉱山が導いた近代鉱工業都市としての始まりと発展」を示す文化財の分布状況と旧久原本部周辺の集積地

(5) 坂東と陸奥を繋ぐ街道

東が太平洋、西が多賀山地に挟まれる台地を中心に市域が形成される本市は、その地理的な条件から市内を縦断し関東平野と東北地方を繋ぐ街道が整備されてきた。

古代の『常陸国風土記』には、「久慈の境の助川（現宮田川）をもって道前とし、陸奥国の石城郡苦麻の村（現福島県大熊町）をもって道後とした」という記述があり、「道前」とされた宮田川北側が陸奥国への入口と認識されていたことが分かる。奈良時代初期には、反乱を起こした陸奥国の蝦夷征討のため軍用道路として官道が整備され、道前には公的施設として藻島駅家が設置された。長者山遺跡は、この「藻島駅家」に推定される遺跡である。

中世になると、本市域東部の海岸線から出発して多賀山地を抜け、佐竹氏の本拠があった現在の常陸太田市へ向かう東西の生活道路が形成された。人々は本市域の豊かな自然環境の中で作られた塩や鉄を太田城の城下町へ運び、産業が発達した。この東西の道は、現在県道 37 号や山側道路（県道 61 号）に継承されている。

近世には、徳川幕府によって江戸を中心とする五街道が整備され、五街道を補助する脇往還として本市域には岩城相馬街道と棚倉街道が通った。これらの街道が、現在の国道 6 号と国道 349 号に継承されている。街道沿いには、旅人のために松が植えられ、一里塚や道標が築かれ、助川宿をはじめとする宿駅が栄えた。貨幣経済の発展に伴い、人々の社寺参詣や物資の流通はますます盛んになった。

現代の道路は、本市の電気機械工場で作られた製品や原材料を運搬する流通網としての重要な役割を担っている。このように、本市の街道は、時代によって異なる性格を有しながら、古代から現代まで受け継がれてきた。

歴史文化の特徴⑤を示す文化財は以下のとおりである。

ア 文化財一覧

分類		文化財
遺跡		長者山遺跡 等
建造物		鱸神社、澳津説神社 等
石造物	道標	泉川道標、入四間道標、大原道標、黒田入り口道標 等
	仏像	金山百観音 等
道		古代官道跡、国道 6 号(近世の旧岩城相馬街道、明治期の旧陸前浜街道)、国道 245 号、国道 349 号(旧棚倉街道)、県道 36 号・37 号・60 号・61 号、等
自然物		豎破山の太刀割石 等
宿駅跡		助川宿跡 等
塚跡		伊師町一里塚跡 等
地名(塚跡)		「前塚」(助川一里塚跡) 等









写真:長者山遺跡(日立の観光案内 HP より)



写真:現代の国道6号

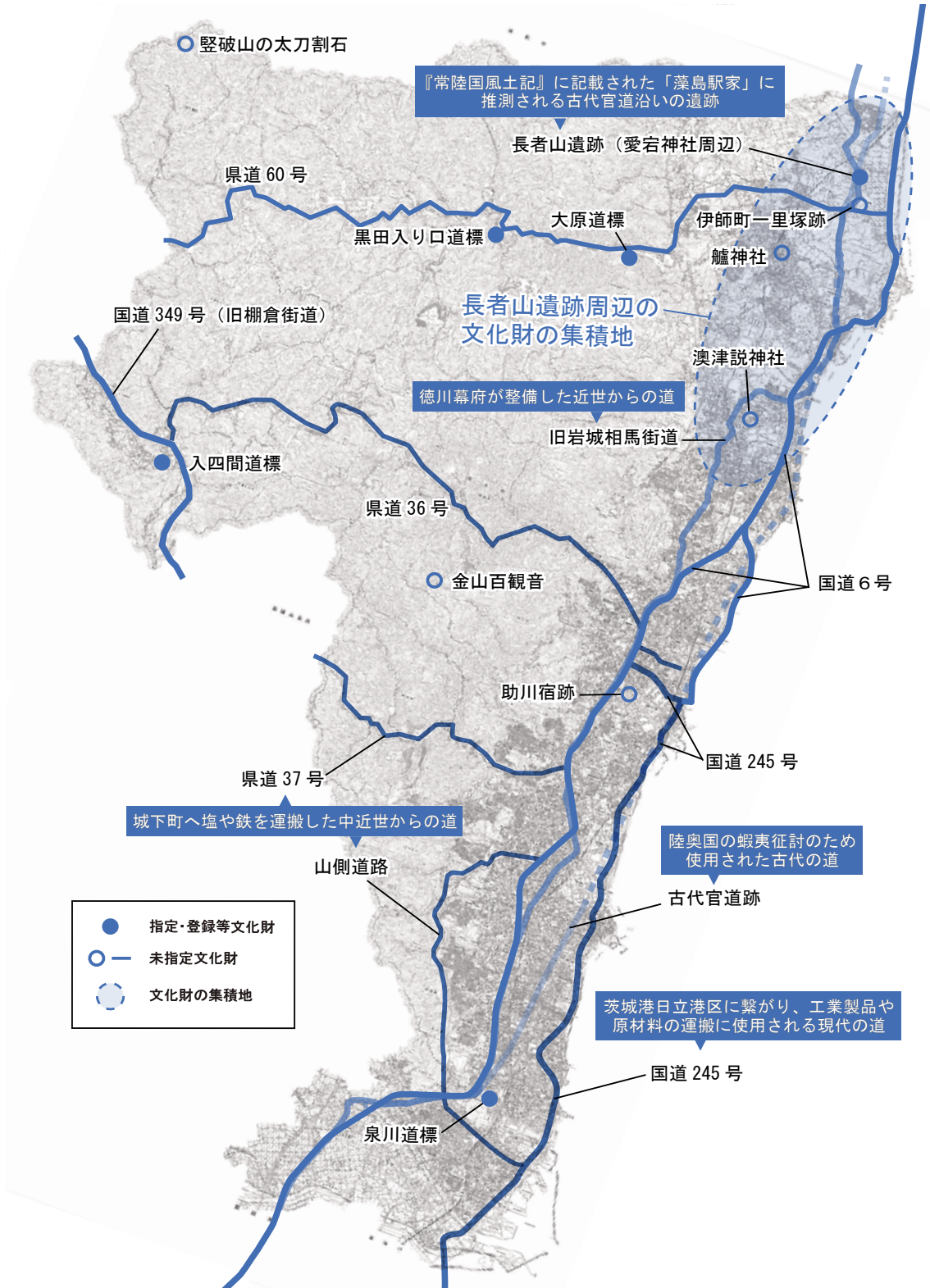
イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
<p>長者山遺跡 (写真: 日立の観光案内 HP より)</p>	<p>長者山遺跡は、愛宕神社周辺で発掘された「藻島駅家」に推定される遺跡である。藻島駅家は和銅期～養老期(708～724)に反乱を起こした陸奥国の蝦夷征討のために古代官道沿いに設置された駅家の一つであり、『常陸国風土記』にも記述がある。</p>	
<p>泉川道標 (写真: 『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>泉川道標は明和8年(1771)に建てられたもので、当時常陸式内社 28 社めぐりの一つとして増加した泉神社への参詣客のため、大甕神社前を通る旧国道から泉神社へ至る分かれ道に設置された。</p>	
<p>入四間道標 (写真: 『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>入四間道標は安永4年(1775)に建てられた。古来霊山として信仰の厚かった御岩山や近世に水戸徳川家によって勧請された湯殿山権現(現御岩神社)への参詣客のため、棚倉街道(現国道349号)から入四間方面へ至る分かれ道に設置された。</p>	
<p>金山百観音 (写真: 『日立市の文化財』より)</p>	<p>高鈴ハイキングコースの傍らに祀られている、安永3年(1774)銘の石仏 60 数基である。参詣すれば西国 33 所・坂東 33 所・秩父 34 所を巡礼したのと同じ功德が得られるとされた。日立市域をはじめとして、周辺市域の人々によって奉納された。</p>	
<p>古代官道跡 (写真: 『長者山遺跡がつなぐ古代の道と常陸国風土記の世界』より)</p>	<p>都から太平洋沿岸を北上し陸奥国に至る道である。陸奥国の蝦夷を征討するため軍需物資の輸送や征討軍の移動に使用された軍用道路の性格を有しており、蝦夷征討事業の収束に合わせて、古代官道沿いに設置された駅家が平安時代初期に廃止された。</p>	
<p>国道6号(旧岩城相馬街道)</p>	<p>江戸時代に徳川幕府によって整備された脇往還の一つであり、水戸から奥州の岩城・岩沼(現宮城県)までを結んだ。街道沿いには、田中内、森山、諏訪、助川、滑川、川尻、伊師に一里塚が築かれた。</p>	

名称	概要	写真
<p>県道 37 号 山側道路</p>	<p>県道 37 号や山側道路等は、中近世に産業の発達に伴い形成された東西方向の道が現在に継承されている。本市域で採れる材料を基に作られた塩や鉄が、佐竹氏や水戸徳川家の本拠である城下町まで運搬された。</p>	
<p>国道 245 号</p>	<p>近代以降、本市には日立製作所をはじめとする電気機械系企業の関連工場が多く建設された。市内道路は、製品や原材料の運搬に利用される重要な流通網であるが、特に国際港である茨城港日立港区に繋がる国道 245 号は肝となる物流を担っている。</p>	
<p>国道 349 号(旧棚倉街道)</p>	<p>江戸時代に徳川幕府によって整備された脇往還の一つであり、水戸から東河内を経て棚倉(現福島県)までを結んだ。街道沿いには、東上淵に一里塚が築かれた。</p>	
<p>豎破山の太刀割石 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>十王町の豎破山は、蝦夷征討の行路に黒坂命や坂上田村麻呂も戦勝を祈願したと伝わる信仰の地であり、『常陸国風土記』にも記述のある山である。頂上には、八幡太郎義家が切ったとされる真っ二つに割れた太刀割石があり、蝦夷征討の神として崇敬されていたと言われる。</p>	
<p>助川宿跡 (写真:『ふるさと日立検定 公式テキストブック中級編』より)</p>	<p>近世の陸上輸送の基本は伝馬制度であり、宿駅は人足や馬を常備した重要な施設だった。本市域でもいくつかの村に置かれ、助川宿はその中で最も栄えた宿駅である。本陣「長山家」には徳川光圀も度々訪れていた記録が残るが、昭和 20 年(1945)の空襲で焼失した。</p>	
<p>地名「前塚」 (助川一里塚跡) (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>助川一里塚跡は、助川宿の南(現助川小学校正門付近)にあったと伝わるが、明治 32 年(1899)頃の道路拡張工事により撤去され現存しない。ただし、助川小学校北側付近の小字名「前塚」は、この土地が一里塚の前に位置していたことを示している。</p>	

ウ 文化財の分布状況と集積地

歴史文化の特徴（5）を示す文化財は、市内全域に分布している。特に、市内北部には、古代の街道の役割を示すとして平成 30 年（2018）に国指定文化財になった「長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡（国）」や、近世に建てられた伊師町一里塚等が集積しており、長者山遺跡周辺の文化財の集積地を抽出することができる。



図：歴史文化の特徴（5）「坂東と陸奥を繋ぐ街道」を示す文化財の分布状況と長者山遺跡周辺の集積地

(6) 神宿る峰へ捧げる山車からくりと多様な祭礼

西部を山地が迫る本市には、古来山への信仰が根付いている。室町時代に神峰山に祀られた神峰神社は、7年に一度の大祭礼において宮田町の東・北・本・西町から一台ずつ日立風流物を引き出し、市内を渡御して人々の安寧を祈念する。日立風流物の起源は、元禄8年(1695)、徳川光圀の命によって神峰神社が3箇村の総鎮守と改められた際、渡御の行程が長くなったことによって、祭礼の山車が工夫改良を加えられたことに遡る。そして、近代以降の日立鉾山の発展に伴う経済成長や人口増加によって、日立風流物の規模も現在の形にまで拡大してきた。近年では、かみね公園・平和通りで開催される日立さくらまつりでも毎年一台が公開され、観光客から喜ばれている。また、渡御行列の先導は、ささらという獅子舞によってなされる。

このような各神社で行われる伝統的な行事の他にも、十王町等では地域の伝承行事として鳥追いまつり・鳥追い行事やどんど焼き、まゆ玉飾りが行われており、これらの中には近年復活したものもある。また、十王まつりでは、十王中学校の生徒による十王鶉鳥舞が披露されている。これは、地域の歴史を伝えていくために創作された踊りであり、日本唯一のウミウ捕獲地という「ひたらしさ」に由来する新たな芸能となっている。

祭礼や行事は、過去の伝統を受け継ぎながら新しい息吹を得て、次の世代へと伝えられている。歴史文化の特徴(6)を示す文化財は以下のとおりである。

ア 文化財一覧

分類		文化財
建造物	神社	会瀬鹿島神社、泉神社、大久保鹿嶋神社、神峰神社、助川鹿嶋神社、諏訪神社、成沢鹿島神社 等
公園、道		かみね公園、平和通り 等
祭礼の出し物	風流物	日立風流物、小木津浜風流物、河原子風流物 等
	風流物の部品	日立風流物人形頭、日立郷土芸能保存会北町支部所有の風流物人形頭、日立郷土芸能保存会西町支部所有の風流物人形頭 等
	ささら	日立のささら(会瀬ささら・大久保ささら・助川ささら・諏訪ささら・成沢ささら・水木ささら・宮田ささら) 等
	祭屋台	旧助川西上町舞屋台 等
自然物		石名坂のエノキ 等
祭礼		鹿嶋神社流鏝馬、泉神社例大祭、御岩神社回向祭、大久保鹿嶋神社出社祭礼、神峰神社大祭礼、十王鶉鳥舞、助川鹿嶋神社例祭、諏訪神社例大祭、鳥追いまつり・鳥追い行事、どんど焼き、成沢鹿島神社出社祭礼、日立さくらまつり、まゆ玉飾り 等



写真:神峰神社



写真:日立市郷土博物館の日立風流物展示

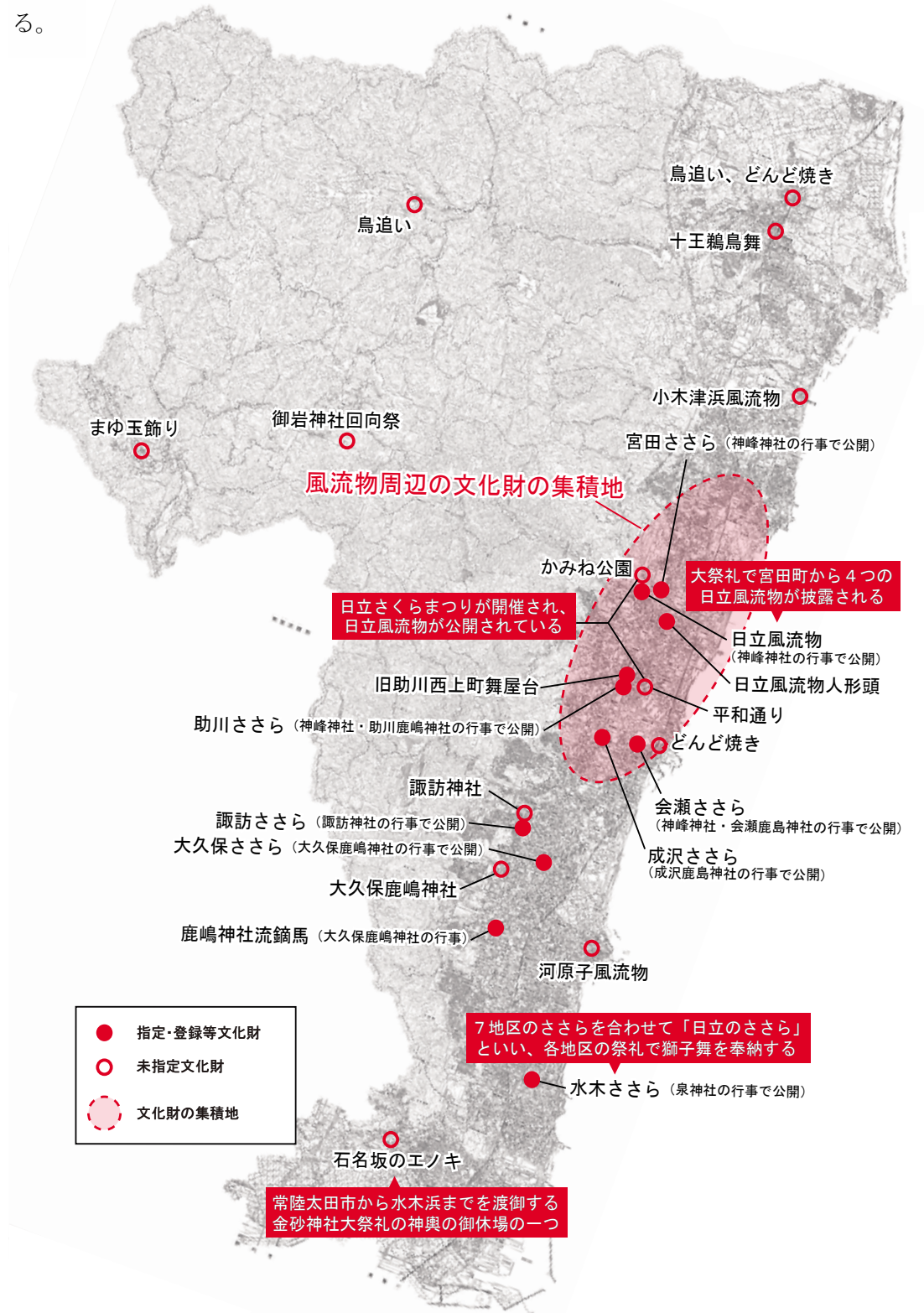
イ 主な文化財の概要

名称	概要	写真
<p>日立風流物 (写真:日立市 HP より)</p>	<p>日立風流物は、ユネスコ無形文化遺産に登録されたからくり行事である。本来は神峰神社大祭礼において披露されていたが、現在は昭和 38 年(1963)から開始された日立さくらまつりでも公開され、本市に賑わいを生んでいる。</p>	
<p>小木津浜風流物 河原子風流物 (写真:河原子風流物『ふるさと日立検定 公式テキストブック中級編』より)</p>	<p>現存する日立風流物以外にも、風流物は存在した。小木津浜風流物の起源は安政元年(1854)ともいわれ、戦後途絶えていたが平成になって復活し、地域の祭りで公開されている。河原子風流物は昭和 37 年(1962)が最後になり、現在は人形の首がいくつか残る。</p>	
<p>日立のささら (写真:宮田ささら『新郷土日立地理 <改訂二版>』より)</p>	<p>日立のささらは宮田・助川・会瀬・成沢・諏訪・大久保・水木の7地区のものがある。それぞれ、地域の神社において祭礼の際に神輿の先導を務め、獅子舞を奉納する。明確な起源は分かっていないが、近世初期には成立していたとされる。</p>	
<p>石名坂のエノキ (写真:『ふるさと日立検定 公式テキストブック中級編』より)</p>	<p>金砂神社大祭礼では、常陸太田市の西金砂神社と東金砂神社の神輿が 72 年に一度日立市石名坂を経て水木浜へ渡御する。第1回は仁寿元年(851)に行われた。行程は一週間に亘るため、神輿の御休場が設けられており、石名坂のエノキもその一箇所である。</p>	
<p>鹿嶋神社流鏝馬</p>	<p>毎年 10 月 29 日に秋季例大祭で行われる鹿嶋神社の行事で、馬1頭、騎手・引手各1人が神社参道を歩みながら3箇所の的に矢を射ることを3回繰り返す。佐竹義重が関わり、天正 12 年(1584)に始まったと伝えられている。</p>	
<p>御岩神社回向祭 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>御岩神社で毎年4月と 10 月の第3土・日曜日に開催される祭りであり、死者のために仏事を営み冥福を祈る。御岩神社は、元は湯殿山権現(御岩山権現)といったが、明治期に神仏分離令により権現名が廃止となったため、現在でも神仏混淆の姿が残っている。</p>	

名称	概要	写真
<p>神峰神社大祭礼 (写真:『ふるさと日立検定 公式テキストブック中級編』より)</p>	<p>本来は不景気になると世直し祭りとして不定期に行われていたが、平成3年(1991)から7年に一度5月3～5日に行われることに決まった。宮田・助川・会瀬ささらが渡御を先導し、旧宮田村4町から1台ずつ計4台の日立風流物が披露される。</p>	
<p>十王鶉鳥舞 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>十王鶉鳥舞は、鶉捕りが行われている十王町において、町の風土や歴史を伝えていくため、十王中学校の教員と生徒が創り上げた創作芸能であり、平成17年(2005)から始まった。成果は、毎年8月上旬に行われる十王まつり等で披露されている。</p>	
<p>鳥追いまつり 鳥追い行事 (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>小正月(1月15日)の行事であり、起源は不明だが伝承行事として十王町の伊師や高原等で行われている。1月14日の晩と15日の朝に子供たちが鳥追い棒を打ち鳴らし農作物を荒らす害鳥を追い払うというものである。</p>	
<p>どんど焼き(焚きあげ祭) (写真:『日立市民文化遺産ガイドブック』より)</p>	<p>小正月(1月15日)の行事であり、起源は不明だが伝承行事として十王町の伊師等で行われている。正月飾りや使えなくなった文房具等を積んで火をつけ、物への感謝の気持ちや一年の健康を祈念するというものである。</p>	
<p>日立さくらまつり (写真:観光いばらきHPより)</p>	<p>日立のさくらは日立鉾山による植林が始まりであり、昭和中期には平和通りとかみね公園にソメイヨシノ等が植えられた。平和通りとかみね公園で開始された日立さくらまつりでは、毎年一台の日立風流物が公開され、日立風流物の伝統を受け継ぐ行事となっている。</p>	
<p>まゆ玉飾り (写真:『ふるさと日立検定 公式テキストブック中級編』より)</p>	<p>小正月(1月15日)の行事であり、起源は不明だが伝承行事として中里地区・十王地区等で行われている。五穀豊穡を願って餅をミズキやナラの枝に繭状につけ、かまどなどに飾りつけるというものである。</p>	

ウ 文化財の分布状況と集積地

歴史文化の特徴（6）を示す文化財は、市内全域に分布している。特に、市内中心部には、大祭礼においてユネスコ無形文化遺産である日立風流物が公開される神峰神社や、日立さくらまつりにおいて日立風流物が公開される平和通り及びかみね公園等が集積しており、祭りの開催時には市内の雰囲気を華やかに一変させる風流物周辺の文化財の集積地を抽出することができる。



図：歴史文化の特徴（6）「神宿る峰へ捧げる山車からくりと多様な祭礼」を示す文化財の分布状況と風流物周辺の集積地

第4章 文化財の保存・活用に関する方針

1 文化財の保存・活用に関する現状と課題

(1) 保存に関する現状と課題

ア 保存に関する現状

(ア) 調査・研究

本市には、原始・古代から近代にかけて形成された文化財が多数存在しており、日立市郷土博物館では、郷土の歴史や文化に対する理解を深めるため、歴史・美術・考古・民俗・産業・自然の各分野で日常的な文化財の調査・研究活動を実施している。研究成果は、年1回発行される『紀要』に掲載される。また、主に市民が参加する調査・研究会によって、石仏や道標を含む石造物をはじめとした各分野において、未指定文化財の把握が進んでいる。

(イ) 指定・登録

本市には、各地域に歴史的価値を有する建造物や年中行事、遺跡、地質・鉱物、樹木・景観等の文化財が存在し、そのうち指定等の措置が取られている文化財は73件である。この件数は、同県他市の水戸市、常陸太田市がそれぞれ192件（令和3年9月時点）、160件（令和3年9月時点）であるのに対して少ない。

(ウ) 適切な管理

文化財の管理は、日立市、日立市教育委員会（日立市郷土博物館）、社寺、保存会、企業、所有者個人で各々行っている。本市を代表する文化財の一つである日立風流物は日立市が管理しており、専用の収蔵庫内で保管されている。

(エ) 防災・防犯

「日立市地域防災計画」（2015、日立市防災会議）には、本市における文化財の災害予防対策の概要が記載されている。また、本市において被害発生はないものの、他自治体での文化財の盗難や棄損が報じられている。

(オ) 市民参加による文化財保存

本市では、日立市郷土博物館を拠点とした文化財を扱う保存会や、日立市文化少年団等の活動が活発である。保存会は複数存在し、その活動内容もささらの継承や風流物の修繕・公開、地域の堂宇や仏像の管理、その他の文化財の研修会や講座の開催等、多岐にわたる。日立市文化少年団は子供たちの関心に基づいた様々な体験を支援しており、その中でも「日立ふるさと文化少年団」や「助川海防城を調べる会」等の団体は、子供たちによる文化財の調査や継承を目的として活動している。また、日立市コミュニティ推進協議会によって、平成11年（1999）から、市民が地域の歴史や自然に触れることのできる「日立の魅力再発見ウォーク事業」等の活動が行われている。

イ 保存に関する課題

(ア) 調査・研究活動の不足

官民連携して文化財の調査・研究が進められているものの、中近世の佐竹氏及び水戸徳川家にまつわる城館・社寺、近代産業の関連施設、地域の小字名、身近な伝承や信仰に関する調査・研究等が未だ不足している。

(イ) 未指定文化財の保存

文化財は指定等によって可能な限り文化財保護法に基づく適切な管理下に置くことが望ましい。しかし、本市の文化財指定等件数は周辺の他市と比較して少なく、市内各地域から推薦され市民が選んだ「日立市民文化遺産」や、日本最古のカンブリア紀層等の特徴的な地質・鉱物、「平和通りのサクラ並木」等の特徴的な景観は、本市特有の継承していくべき文化財でありながら未指定であり、保存のための措置が取られていない。

(ウ) 管理のための施設の老朽化及び確保

日立風流物収蔵庫等の施設の老朽化や、文化財を保存・管理するための施設自体の維持や確保が課題である。

(エ) 防災・防犯対策の遅れ

文化財の防災については、防火訓練等の定期的な実施は行われている。しかし、昨今増えつつある集中豪雨等の風水害についても配慮した防災対策が必要である。また、被災時に文化財の損傷や滅失を未然に防ぐための、具体的な対策や体制が明確でない。

防犯対策については、文化財の盗難等を未然に防ぐため、市民団体や関係機関と連携した防犯対策が必要である。

(オ) 保存・継承に携わる人材の不足

文化財を扱う保存会や日立市文化少年団では、新たな指導者の育成や会員募集のための支援や研修が十分でないことから将来的な存続が危惧される。特に日立風流物や日立のささらは、地域コミュニティの縮小といった社会環境の変化や、少子高齢化、人口減少などの影響を受け、地域内での行事の継承が困難な状態にある。

(2) 活用に関する現状と課題

ア 活用に関する現状

(ア) イベントの開催

ここでのイベントは、市民による音楽や美術に関する文化活動や、文化財に関する年中行事、文化財について学ぶことのできるワークショップ等の取組みを指す。音楽や美術に関する市民の自主的な文化活動は、年間を通じて活発に実施されている。ユネスコ無形文化遺産である日立風流物が公開される日立さくらまつりや神峰神社大祭礼等の行事は、毎年多くの観光客が集まり、本市を代表するイベントとなっている。

(イ) 普及啓発施設

文化財の普及啓発に関する施設には、文化財について学ぶことのできる施設、説明板・案内板、文化財訪問の際に利用する周辺の駐車場やトイレ、給水施設等が含まれる。文化財に特化して学ぶことのできる市内唯一の施設として日立市郷土博物館があり、その他に本市の歴史等について学ぶことができる施設には、日鉱記念館や日立オリジンパーク等がある。

(ウ) 情報発信

本市の歴史や文化財に関する情報は、本市ホームページ「ひたち風」や日立市郷土博物館ホームページ、市史・文化財調査報告書等によって提供されている。本市にカンブリア紀層や長者山遺跡等の古代以前の歴史が存在することも文化財に関する重要な情報であるが、本市の一般的なイメージとしては近代以降の産業発展の印象が強い。

イ 活用に関する課題

(ア) ニーズに合ったイベントの不足

市民が、文化財や本市の歴史に特化して、楽しみながら学んだり人に伝えたりすることのできるイベントが不足している。特に、次世代を担う子供や若年層を対象としたイベントが必要である。また、イベント間の連携が少なく、面としての地域活性化に繋がっていない。

ワークショップ等による市民自らが文化財について考え、保存・継承への意識を高めるような取組みが実施されていない。

(イ) 文化財を学べる施設の機能不足・未整備

文化財について学ぶことのできる中心的施設として日立市郷土博物館が存在するが、その役割が十分に理解されていない。また、日立市郷土博物館や日鉱記念館以外に、本市の歴史や文化財の調査・研究成果について学習でき、地域の文化財を紹介する施設が少ない。

文化財所在地における文化財の概要を示した解説板や、文化財所在地への案内板が未整備の場所がある。特に本市を代表する史跡等の当地に説明板等がないことで、発掘調査の結果や史跡が使われていた当時の状況への理解が困難となっている。

長者山遺跡などの本市の主要な文化財に文化財情報を提供する施設が併設されておらず、市民や地域を訪れる人々に対して効果的な情報提供がなされていない。

歴史文化の特徴を効果的に学ぶための周遊ルートが設定されていない。また、市内を巡る際に有効となる駐車場やトイレ、給水施設が文化財周辺で未整備である、又は周辺の店舗等に設置されているとしても文化財情報と合わせてそれらの情報提供がなされていないことから文化財を訪問しにくい。

(ウ) 情報発信の脆弱性

本市の文化財や文化財関連のイベント情報や施設等に関する情報発信が不足しており、市民や観光客が市内を訪れるための情報提供が十分になされていない。

2 文化財の保存・活用に関する方針

(1) 目指すべき将来像

文化財の保存・活用に関する現状と課題を踏まえ、本市における将来的な文化財の保存・活用の取組みを見据えた目指すべき将来像を以下に設定する。

**我がまちの風土に培われた文化財を
市民のくらしに活かし守るまち**

この将来像の設定には、近年の本市の発展に伴う文化財の姿や役割の変化が関係する。本市の歴史文化の特徴の一つを象徴する文化財である日立風流物は、近世に起源を有するが、近代の経済発展や人口増加による恩恵を受けた結果、山車の大型化や人形からくりの機構の複雑化を経て現在の姿になっている。同様に近代に日立鉱山の福利厚生施設として建設された旧共楽館は、現在においては日立武道館として新たな役割を与えられている。このように本市では、古いものをそのままの姿で保つだけでなく、社会や市民のくらしの中で生じた新たな変化に逆らわず、その変化を享受することによって、古いものと新しいものを共存させて発展した経緯がある。

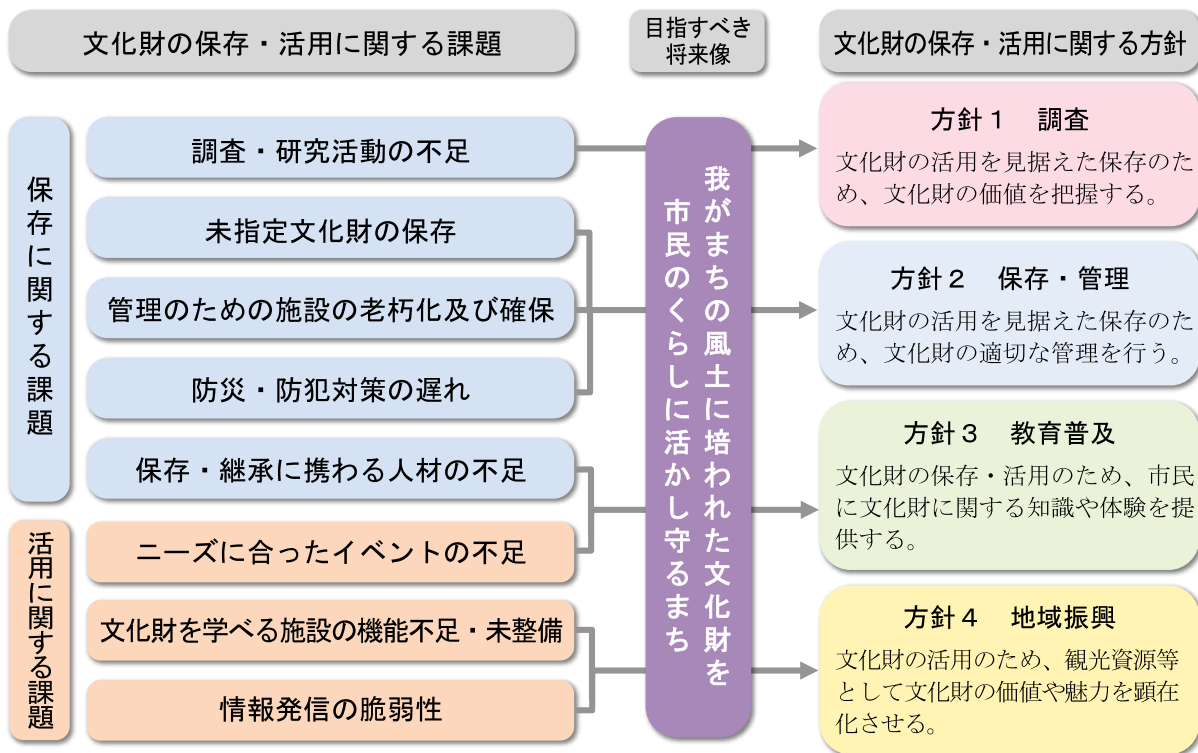
このことから、現在の日立市に住む人々のくらしに「活かす」ことを原則として文化財の保存・活用に取り組むことで、現代社会における文化財の存在意義を高めることにも繋がると考えられる。

(2) 文化財の保存・活用に関する方針

「1 文化財の保存・活用に関する現状と課題」及び目指すべき将来像を踏まえ、本市の文化財の保存・活用の現状に基づく課題に対して、文化財の保存・活用に関する方針を次頁のように定める。

文化財の保存にあたっては、「調査」及び「保存・管理」に取り組む、文化財の価値に悪影響を及ぼさない範囲で、市民にとって有益となる活用に繋げる。また、文化財の保存・継承に携わる人材を確保するための「教育普及」に取り組む。

文化財の活用にあたっては、文化財を市民のくらしにいっそう密接に関わらせる方法として、市民によるこれまでの文化財に関する取組みを継承しながら、柔軟性をもって文化財に関わる人材や手法の変化を受容し、ニーズに合ったイベントを新たに実施する「教育普及」と、地域おこしのための資源として文化財を用いる「地域振興」に取り組む。



方針1 調査

本市の全ての文化財について、適切な保存・管理方法を検討するため、文化財の価値の把握に向けた調査を実施する。

調査に関する具体的な方針は以下のとおりである。

方針1-1 学術的調査・研究活動の強化

これまで調査が十分でなかった中近世の歴史や近代産業の関連施設、地域に伝わる伝承等を重点的に、その文化財の調査・研究を継続し、保存すべき文化財の価値を明らかにする。

方針2 保存・管理

本市の文化財には、市民にとって有益な活用を行うことができる可能性が秘められている。個々の文化財が持つその可能性を見据えて適切に維持し、継承していくため、確実な保存・管理と必要な修理・整備を実施する。

方針2-1 市指定等の推進

文化財の保存を図るため、未指定文化財の市指定を推進する。国指定、県指定、国登録を目指す場合は、価値を明らかにするための詳細な調査を実施する。

方針2-2 財源及び収蔵施設の確保や支援

文化財の適切な管理の実施や、その実施のための体制整備及び財源確保、適切な環境下での管理のための収蔵施設（日立風流物等）の補修や新規施設の設置を行う。

方針2-3 防災・防犯対策の推進

文化庁の防火ガイドラインをはじめ、茨城県地域防災計画、日立市地域防災計画に基づき、文化財の防災対策を進めるとともに、防災・防犯体制を整備し、被災・被害防止策や発生時の対応を検討する。

方針3 教育普及

市民に文化財の知識と体験を提供し、文化財の教育普及を行うことによって、本市の歴史を知り、郷土に対する市民意識や誇りを醸成することを促す。学校等教育機関や日立市郷土博物館等の行政機関が主導する方針に加えて、市民自らが主導するための方針を設定する。

教育普及に関する具体的な方針は以下のとおりである。

方針3-1 保存・継承に携わる人材の確保

文化財に関わる市民団体の後継者や専門的知識を有した人材を確保するための支援や研修、広報・啓発を行う。

方針3-2 児童・生徒に向けた文化財に関する教育の強化

教育機関における文化財学習の充実や、文化財に親しみを持てるような新たな学習媒体の開発によって、本市の将来を担う子供たちが、日常の中で自然に文化財に触れ、学ぶことのできる環境を整備する。

方針3-3 大人に向けた文化財に関する生涯学習の強化

学校教育課程を終えた大人に対して文化財への興味・関心を啓発し、コミュニティ組織や市民団体と連携して、生涯を通じて生きがいとなるような文化財に関する学習や体験の機会を提供する。

方針3-4 文化財を活用する取組等への市民参画

市民が学んだ文化財に関する知識を活かし、興味・関心をさらに深めることのできるイベント等を実施することで、市民が主体的に文化財の活用を検討できる機会への参画を促す。

方針4 地域振興

文化財の価値や魅力を顕在化させ、文化財を地域おこしのための観光資源等として利用することによって、市内の宿泊施設や飲食店等の利益創出の機会を増やし、交流人口の増加と地域経済の活性化を促す。

地域振興に関する具体的な方針は以下のとおりである。

方針4-1 周辺の観光施設等を結ぶ周遊性の確保

歴史文化の特徴を示す文化財の集積地を利用した周遊ルートを設定・整備し、人々が現地で本物の文化財に触れてその価値や魅力を理解することのできる観光を促進する。

また、周遊ルートを補完する取組みとして、コミュニティ組織が実施する「日立の魅力再発見ウォーク事業」や、生涯学習団体による「日立のまち案内人」等と連携する。

方針4-2 魅力を伝える地域発信型観光の推進

周遊ルートを活用した各種ツアーなどのイベント開催をはじめ、文化財に関する情報発信や広報を強化し、人々が文化財を知り、親しむ機会を増加させる。また、文化財を活用した地域発信型観光の推進体制を構築し、地域経済の活性化を目指す。

第5章 文化財の保存・活用に関する措置

1 文化財の保存・活用に関する措置

「2. 文化財の保存・活用に関する方針」を踏まえ、市内の文化財等の状況に応じて、実施すべき保存・活用に関する措置と実施主体、財源、計画期間での実施時期を示す。実施時期は、緊急性の高い措置や、これまでの取組みの延長線上にある措置については前期で実施し、比較的緊急性の低い措置や新たな取組みが必要な措置、他機関との調整が重要な措置については中期・後期で実施することを検討する。措置は、市費、県費、国費（文化財補助金・地方創生推進交付金等）、その他民間資金等も活用しながら進めていく。

文化財の保存・活用に関する方針		文化財の保存・活用に関する措置
方針1 調査	方針1-1 学術的調査・研究活動の強化	1. 調査・研究の継続 2. 中近世の城館・社寺に関する調査・研究 3. 近代産業の関連施設に関する調査・研究
方針2 保存・管理	方針2-1 市指定等の推進	4. 文化財の市指定の推進 5. 「日立市民文化遺産」登録の推進 6. 『増補・改訂版 日立市民文化遺産ガイドブック』の作成 7. 文化財の保存や活用に関わる財源確保 8. 老朽化した日立風流物収蔵庫の整備 9. 保存に関する団体等への支援 10. 指定等文化財を優先とした防災・防犯設備の設置 11. 文化財防災体制の充実 12. 防犯のための文化財定期巡回の実施
	方針2-2 財源及び収蔵施設の確保や支援	
	方針2-3 防災・防犯対策の推進	
方針3 教育普及	方針3-1 保存・継承に携わる人材の確保	13. 文化財研修事業への専門家派遣 14. 文化財を守る人材育成支援 15. 文化財を扱う保存団体等の育成支援 16. 日立市郷土博物館職員や文化財技術者、専門家等による出前授業 17. 日立市郷土博物館や地域の文化財を訪れる校外学習 18. 子供たちによる新たな芸能の創出と発表 19. 文化財啓発映像の動画配信・公開 20. 歴史文化児童絵本の作成 21. 文化財クイズラリーの開催 22. 歴史文化講座の実施 23. 「ひたち生き生き百年塾」の活動強化 24. 歴史文化の特徴に関する検定試験の実施 25. 文化財に関するAR画像・映像の作成コンテストの実施 26. 地域の小字名に関する調査・研究 27. 身近な伝承や信仰に関する調査・研究 28. ボランティアとしての市民ガイドの育成 29. 市民ガイドによる文化財ツアーの開催 30. 市民ワークショップによる新たな歴史文化の特徴の発見
	方針3-2 児童・生徒に向けた教育の強化	
	方針3-3 大人に向けた生涯学習の強化	
	方針3-4 文化財を活用する取組等への市民参画	
方針4 地域振興	方針4-1 周辺の観光施設等を結ぶ周遊性の確保	31. 日立市文化財回廊の設定 32. サテライトガイダンス(ビジターセンター)の整備 33. 統一デザインの説明板・案内板の設置 34. 遺跡等におけるARを利用した仮想展示 35. 2次元バーコードによる周辺文化財や観光施設等への案内 36. 歴史文化の特徴の解説書・パンフレットの作成 37. 日立市文化財保存活用地域計画の概要版パンフレットの作成及び市民への配布 38. 観光ホームページでの文化財の紹介 39. 文化財関連イベントを紹介するホームページの開設 40. 市内外に向けた文化財プロモーションの作成 41. 文化財に関する季節ごとの情報提供やイベントの開催 42. 市民から募集したイメージモデルと文化財の写真のSNS投稿 43. DMO 発足に向けた調整や支援 44. 日立市文化財回廊(文化財周遊ルート)周辺飲食店等との連携調整
	方針4-2 魅力を伝える地域発信型観光の推進	

「方針1 調査」に基づく措置

日立市郷土博物館がこれまで行ってきた文化財の調査・研究を今後も継続して実施するとともに、これまで調査・研究が十分に行われてこなかった中近世の佐竹氏及び水戸徳川家にまつわる城館・社寺や、近代産業の関連施設、地域の小字名や伝承等に関する調査・研究を行う。

「方針1-1 学術的調査・研究活動の強化」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021~2023)	中期 (2024~2027)	後期 (2028~2030)
1	調査・研究の継続 地域の小字名や伝承等、調査研究のさらなる深化や充実	市・市民	市費			
2	中近世の城館・社寺に関する調査・研究 佐竹氏及び水戸徳川家にまつわる調査・研究	市	市費			
3	近代産業の関連施設に関する調査・研究 「大煙突」や工場施設等、近代産業の発展を支えた施設の調査研究	市	市費			

「方針2 保存・管理」に基づく措置

文化財の学術的な調査・研究によって、文化財保護法に基づく確実な保存が望ましいことが判明した文化財について、市指定等を推進するとともに、本市の未指定文化財の活用を目指し発行された『日立市民文化遺産ガイドブック（平成26年度（2014））』の取組みを継続し、新たな文化財の発掘・抽出を進める。

文化財の保存・活用を着実に進めるために、国・県の補助制度はもとより、文化財保護を目的としたふるさと納税の応援メニューの追加や、文化財の保存・活用に関わるクラウドファンディングの実施検討等の財源確保に取り組む。

また、本市を代表する文化財である「日立風流物」の適切な管理のための維持補修や、老朽化した収蔵施設等の整備をはじめ、市民団体が行う文化財の管理や維持・保存等に対し、適切な支援を行い、貴重な文化財の保護に努める。

文化財の防災・防犯対策については、火災や自然災害による文化財の損傷や滅失を防ぐため、防災・防犯設備の設置を進めるとともに、市民等を交えた防災訓練や定期巡回の実施に取り組む。

「方針2-1 市指定等の推進」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021~2023)	中期 (2024~2027)	後期 (2028~2030)
4	文化財の市指定の推進 未指定文化財等の市指定の推進	市	市費			
5	「日立市民文化遺産」登録の推進 『日立市民文化遺産ガイドブック』に掲載する、新たな文化財の発掘・抽出	市・市民	市費			
6	『増補・改訂版 日立市民文化遺産ガイドブック』の作成 『日立市民文化遺産ガイドブック』の増補・改訂版を発行	市・市民	市費			

「方針２－２ 財源及び収蔵施設の確保や支援」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
7	文化財の保存や活用に関わる財源確保 ふるさと納税の応援メニューの追加 クラウドファンディング実施の検討	市	市費			
8	老朽化した日立風流物収蔵庫の整備 管理者による定期的な維持管理への支援、老朽化した収蔵施設等の整備	市	国補 市費			
9	保存に関する団体等への支援 文化財の所有者や文化財の保存・活用に関わる市民団体等が行う文化財の管理や維持・保存等に対する助成を実施	市	国補 県補 市費			

表：保存に関する団体等への支援（補助金）の例

基礎分（A）	活動分（B）	事業分（C）
団体の活動に対し一律（定額）の補助。	経常的に実施する活動内容に応じた補助。	積極的事業（改修、大規模修繕、臨時開催イベントなど）に対する補助。年次計画に基づく補助とし、予算の範囲内で対応する。

「方針２－３ 防災・防犯対策の推進」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
10	指定等文化財を優先とした防災・防犯設備の設置 消火器や防犯カメラ等の設置	市	国補 市費			
11	文化財防災体制の充実 災害に備えた連絡網の整備や防火訓練の実施	市・ 市民	市費			
12	防犯のための文化財定期巡回の実施 防犯及び早期に異常を発見するための定期巡回の実施	市・ 市民	市費			

「方針3 教育普及」に基づく措置

文化財に関わる市民団体やボランティアグループ等に対して、指導者・後継者の育成を目的とした、支援や研修等を実施するとともに、文化財の調査や保存修理等に関する専門性を有する人材や、文化財の継承に興味・関心のある人材を確保・育成するための広報・啓発を強化する。

小中学校等においては、市内に分布する文化財を実際に訪れ、見て、感じて、学ぶことのできる学習機会を増やすとともに、本市の生涯学習組織である「ひたち生き生き百年塾」等の活動を通じた学習など、本市の文化財や歴史文化に関する学習内容を充実させる取組みを実施する。

また、子供たちや若い世代が、文化財を身近に感じ愛着を持つことを促すため、動画配信等の新たな媒体を利用した文化財の普及啓発を実施する。

さらに、市民がやりがいを持って文化財の保存・継承に携わり、文化財についての興味や関心、知識を深める場として、楽しみながら参加できる事業を実施する。

「方針3-1 保存・継承に携わる人材の確保」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021~2023)	中期 (2024~2027)	後期 (2028~2030)
13	文化財研修事業への専門家派遣 文化財を扱う団体等が開催する研修事業に専門家等の講師を派遣	市	市費			
14	文化財を守る人材育成支援 専門調査員や保存修理技術者等の育成支援	市	市費			
15	文化財を扱う保存団体等の育成支援 会員募集についてホームページ等での広報協力	市	市費			

「方針3-2 児童・生徒に向けた教育の強化」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021~2023)	中期 (2024~2027)	後期 (2028~2030)
16	日立市郷土博物館職員や文化財技術者、専門家等による出前授業 小中学校等に対し有識者を講師として派遣	市・教育機関	市費			
17	日立市郷土博物館や地域の文化財を訪れる校外学習 社会科教育(校外学習)での文化財活用	市・教育機関	市費			
18	子供たちによる新たな芸能の創出と発表 伝統芸能を踏襲しつつ、子どもたちの興味関心に合った創作芸能による啓発	教育機関	市費			
19	文化財啓発映像の動画配信・公開 文化財をキャラクター化した映像を動画共有サービス(YouTube等)で公開	市	市費			
20	歴史文化児童絵本の作成 歴史文化の特徴の概要をまとめた子供向け絵本の作成	市・教育機関	市費			
21	文化財クイズラリーの開催 市内の文化財を利用した子供向けクイズラリーの開催	市	市費			

「方針３－３ 大人に向けた生涯学習の強化」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
22	歴史文化講座の実施 歴史文化の特徴に関する市民向け講座の実施	市・教育機関	市費			
23	「ひたち生き生き百年塾」の活動強化 市の生涯学習組織「ひたち生き生き百年塾」で取り組まれている「市民教授による生き生き講座」や「日立のまち案内人」等の活動を通じた文化財学習の強化	市・教育機関	市費			

「方針３－４ 文化財を活用する取組等への市民参画」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
24	歴史文化の特徴に関する検定試験の実施 市民参加による啓発イベントの開催	市・市民	市費			
25	文化財に関するAR画像・映像の作成コンテストの実施 市民参加による文化財啓発素材の作成	市・市民	市費			
26	地域の小字名に関する調査・研究 現在の住居表示等から消えた小字名等の古い地名の調査・研究	市・市民	市費			
27	身近な伝承や信仰に関する調査・研究 市民参加による地域伝承等の調査・研究	市・市民	市費			
28	ボランティアとしての市民ガイドの育成 歴史文化や文化財に関する知識や情報を、市民相互に共有する機会の創出	市・市民	市費			
29	市民ガイドによる文化財ツアーの開催 市民が主体となった文化財関連イベントにおける知識の活用	市・市民	市費			
30	市民ワークショップによる新たな歴史文化の特徴の発見 市民主体の活動による身近な歴史文化に触れる機会の創出	市・市民	市費			

「方針4 地域振興」に基づく措置

同じ歴史文化の特徴を示す文化財や拠点となる施設、周辺観光施設等を結び、文化財の集積地を効果的に利用できる周遊ルート「日立市文化財回廊」を設定し活用することにより、文化財に対する理解を深めることはもとより、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。

また、「日立市文化財回廊」を補完する取り組みとして、日立市コミュニティ推進協議会が作製するコミュニティの「ふるさとマップ（22箇所）」を活用した「日立の魅力再発見ウォーク事業」や、ひたち生き生き百年塾による「日立のまち案内人」等と連携し、より魅力的な周遊性を創出する。

周遊の拠点となる施設をサテライトガイド（ビジターセンター）として設定し、周辺文化財の紹介資料や駐車場、トイレ、給水・休憩施設等の機能を整備する。快適な周遊を補助するため、文化財の説明や周辺観光施設等への案内を整備する。ARを利用した仮想展示については、地元の茨城大学などと連携して研究・開発に取り組む。

さらに、文化財や文化財関連イベント情報に簡易にアクセスできるQRコードを活用した情報発信に取り組むとともに、文化財観光と連動した経済活性化を図るために、事業者と連携し地域が積極的に観光に取り組む体制を構築する。

「方針4-1 周辺の観光施設等を結ぶ周遊性の確保」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021~2023)	中期 (2024~2027)	後期 (2028~2030)
31	日立市文化財回廊の設定 文化財の集積地を効果的に利用できる周遊ルートの設定 「日立の魅力再発見ウォーク事業」、 「日立のまち案内人」との連携	市・市民団体	市費			
32	サテライトガイド(ビジターセンター)の整備 周遊の拠点となる施設を整備し、周辺文化財の紹介資料や駐車場、トイレ、給水・休憩施設等の機能を整備（新設2か所、既存施設利用4か所）	市	国補市費			
33	統一デザインの説明板・案内板の設置 表示デザインやロゴ等の統一 多言語標記対応	市	国補市費			
34	遺跡等におけるARを利用した仮想展示 地元大学と連携したARコンテンツの作成	市・教育機関	国補市費			
35	2次元バーコードによる周辺文化財や観光施設等への案内 QRコードを利用した文化財情報の提供機能強化	市・事業者	市費			
36	歴史文化の特徴の解説書・パンフレットの作成 文化財に関する周遊に活かせる案内解説資料の作成	市	市費			

「方針４－２ 魅力を伝える地域発信型観光の推進」に基づく措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
37	日立市文化財保存活用地域計画の概要版パンフレットの作成及び市民への配布 文化財保存活用地域計画を市民や事業者の共通理解として推進	市	市費			
38	観光ホームページでの文化財の紹介 SNS等を活用した文化財や文化財関連イベント情報へのアクセス環境整備	市・市民団体・事業者	市費			
39	文化財関連イベントを紹介するホームページの開設 文化財に関するイベント内容や周辺周遊コースを紹介	市	市費			
40	市内外に向けた文化財プロモーションの作成 観光要素を含む映像コンテンツ等の作成	市	市費			
41	文化財に関する季節ごとの情報提供やイベントの開催 一年を通じた継続的な情報提供とイベントの開催	市	市費			
42	市民から募集したイメージモデルと文化財の写真のSNS投稿 新たな媒体を活用した市民発の市内外への情報発信	市	市費			
43	DMO発足に向けた調整や支援 地域発信型観光を推進する体制の構築と支援	市・事業者	市費			
44	日立市文化財回廊(文化財周遊ルート)周辺飲食店等との連携調整 文化財周遊ルート利用者への観光サービス提供	市・事業者	市費			

2 現状・課題・方針・措置の対応関係

第4章「1 文化財の保存・活用に関する現状と課題」及び「2 文化財の保存・活用に関する方針」、第5章「1 文化財の保存・活用に関する措置」の対応関係は以下のとおりである。

現状	課題		方針		措置	
調査・研究	保存に関する課題	調査・研究活動の不足	方針1 調査	方針1-1 学術的調査・研究活動の強化	1. 調査・研究の継続 2. 中近世の城館・社寺に関する調査・研究 3. 近代産業の関連施設に関する調査・研究	
指定・登録		未指定文化財の保存	方針2 保存・管理	方針2-1 市指定等の推進	4. 文化財の市指定の推進 5. 「日立市民文化遺産」登録の推進 6. 『増補・改訂版 日立市民文化遺産ガイドブック』の作成	
適切な管理		管理のための施設の老朽化及び確保		方針2-2 財源及び収蔵施設の確保や支援	7. 文化財の保存や活用に関わる財源確保 8. 老朽化した日立風流物収蔵庫の整備 9. 保存に関する団体等への支援	
防災・防犯		防災・防犯対策の遅れ		方針2-3 防災・防犯対策の推進	10. 指定等文化財を優先とした防災・防犯設備の設置 11. 文化財防災体制の充実 12. 防犯のための文化財定期巡回の実施	
市民参加による文化財保存		保存・継承に携わる人材の不足	方針3 教育普及	方針3-1 保存・継承に携わる人材の確保	13. 文化財研修事業への専門家派遣 14. 文化財を守る人材育成支援 15. 文化財を扱う保存団体等の育成支援	
イベントの開催	ニーズに合ったイベントの不足	方針3-2 児童・生徒に向けた教育の強化		16. 日立市郷土博物館職員や文化財技術者、専門家等による出前授業 17. 日立市郷土博物館や地域の文化財を訪れる校外学習		
		方針3-3 大人に向けた生涯学習の強化		18. 子供たちによる新たな芸能の創出と発表 19. 文化財啓発映像の動画配信・公開 20. 歴史文化児童絵本の作成 21. 文化財クイズラリーの開催		
		方針3-4 文化財を活用する取組等への市民参画		22. 歴史文化講座の実施 23. 「ひたち生き生き百年塾」の活動強化		
		活用に関する課題		24. 歴史文化の特徴に関する検定試験の実施 25. 文化財に関するAR画像・映像の作成コンテストの実施 26. 地域の小字名に関する調査・研究 27. 身近な伝承や信仰に関する調査・研究 28. ボランティアとしての市民ガイドの育成 29. 市民ガイドによる文化財ツアーの開催 30. 市民ワークショップによる新たな歴史文化の特徴の発見		
普及啓発施設	文化財を学べる施設の機能不足・未整備	方針4 地域振興	方針4-1 周辺の観光施設等を結ぶ周遊性の確保	31. 日立市文化財回廊の設定 32. サテライトガイダンス(ビジターセンター)の整備 33. 統一デザインの説明板・案内板の設置 34. 遺跡等におけるARを利用した仮想展示 35. 2次元バーコードによる周辺文化財や観光施設等への案内 36. 歴史文化の特徴の解説書・パンフレットの作成		
情報発信	情報発信の脆弱性		方針4-2 魅力を伝える地域発信型観光の推進	37. 日立市文化財保存活用地域計画の概要版パンフレットの作成及び市民への配布 38. 観光ホームページでの文化財の紹介 39. 文化財関連イベントを紹介するホームページの開設 40. 市内外に向けた文化財プロモーションの作成 41. 文化財に関する季節ごとの情報提供やイベントの開催 42. 市民から募集したイメージモデルと文化財の写真のSNS投稿 43. DMO 発足に向けた調整や支援 44. 日立市文化財回廊(文化財周遊ルート)周辺飲食店等との連携調整		

第6章 重点的に実施する措置（日立市文化財回廊の設定及びサテライトガイドの整備等）

本章では、第5章に示した文化財の保存・活用に関する措置のうち、文化財の普及啓発と地域振興を推進する上で効果的と考えられる「日立市文化財回廊の設定」及び「サテライトガイド（ビジターセンター）の整備」について、重点的に実施する措置とする。

「日立市文化財回廊の設定」については、日立市の歴史文化の特徴①～⑥を示す文化財の集積地を対象として、各歴史文化の特徴を示す文化財や周辺の観光施設等を巡る「文化財回廊」という6つの周遊ルートを設定する。人々が「文化財回廊」を利用した周遊を行うことによって、文化財の普及啓発の機会創出や、周辺事業者等への利益創出の機会促進が見込まれる。「文化財回廊」は、市内全体を対象としたものと、各文化財の集積地を対象としたものの2種類を設定する。

「サテライトガイド（ビジターセンター）の整備」については、「文化財回廊」を利用した周遊の拠点となるビジターセンターを整備する。ビジターセンターは、「文化財回廊」をより利用し易く快適に周遊できる環境を提供し、メインガイドとサテライトガイドの2種類を整備する。

また、「日立市文化財回廊」を補完する取組みとして、日立市コミュニティ推進協議会が作製するコミュニティの「ふるさとマップ（22箇所）」を活用した「日立の魅力再発見ウォーク事業」や、ひたち生き生き百年塾による「日立のまち案内人」等と連携し、より魅力的な周遊性を創出する。

1 メインガイドの整備

ビジターセンターの1種類であるメインガイドは、全ての文化財回廊についての情報が得られる中心的拠点であり、日立市郷土博物館を整備する。学芸員が常駐し、市内文化財の概要から専門的かつ詳細な情報まで得られる施設とする。

2 日立市文化財回廊の設定とサテライトガイドの整備

（1）日立市文化財回廊の設定とサテライトガイドの整備の概要

ビジターセンターのもう1種類であるサテライトガイドは、歴史文化の特徴①～⑥を示す文化財の集積地を対象とした周遊ルート「文化財回廊」を周遊する際の拠点となる、既存または新設の5つの施設である。「①悠久の日立の歩みが刻まれる大地と海」を示す文化財は市内全域に分布しており文化財の集積地は抽出していないため、個別のサテライトガイドは整備せず、歴史文化の特徴②～⑥を示す文化財の集積地内のサテライトガイドを共用する。

サテライトガイドは、周辺文化財の紹介資料の配布や掲示を行うとともに、駐車場やトイレ、給水・休憩設備等の「おもてなし機能」を備えた施設とする。また、日立市コミュニティ推進会やひたち生き生き百年塾等と連携した、市民ガイドによる文化財案内の実施等を検討する。

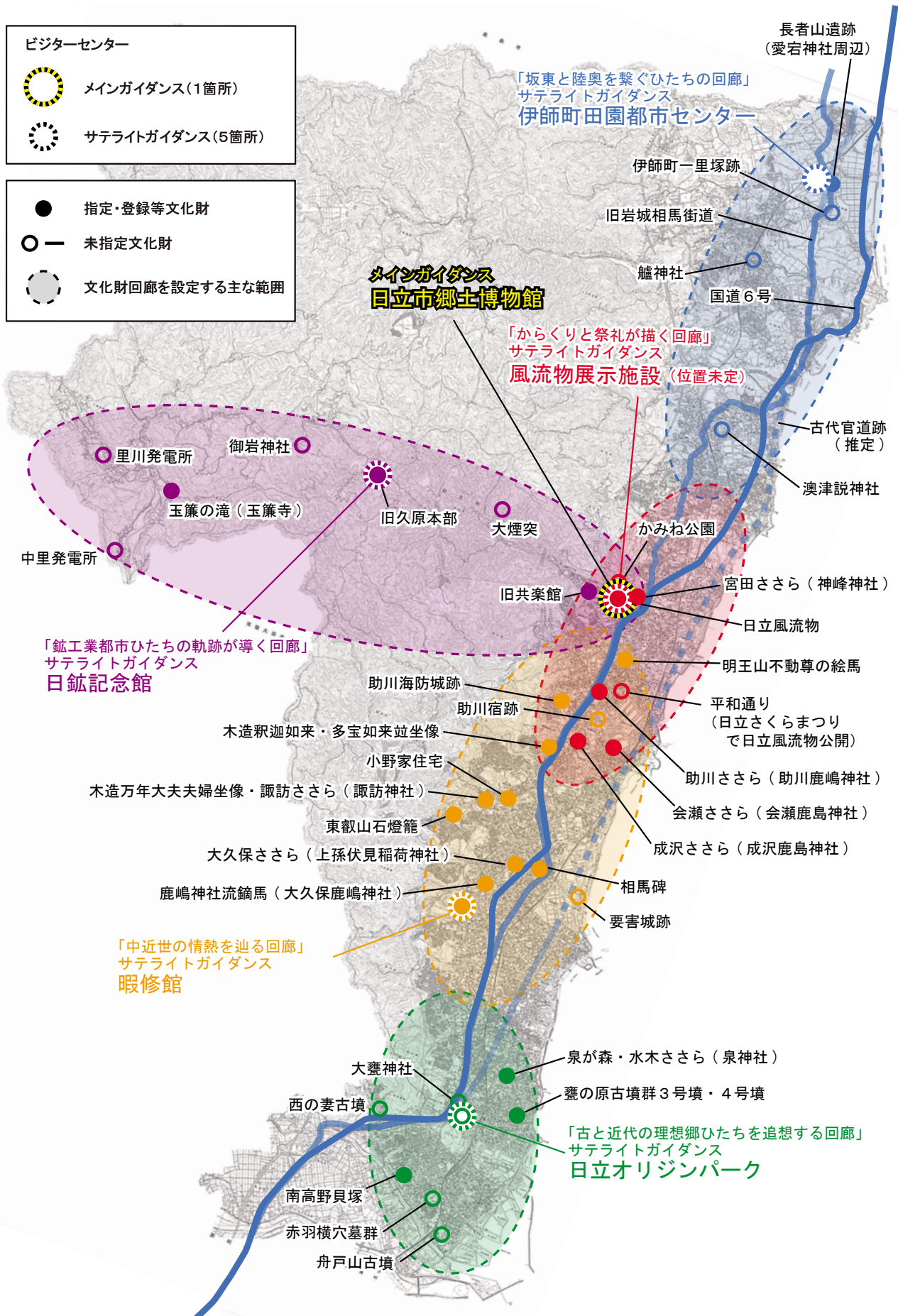
次頁に、本市の歴史文化の特徴と、歴史文化の特徴を示す文化財の集積地を周遊する「文化財回廊」、及び各文化財回廊に設置する「サテライトガイド」の対応関係を示す。

表：歴史文化の特徴と日立市文化財回廊及びサテライトガイダンス

歴史文化の特徴	日立市の歴史文化の特徴を示す文化財の集積地	対象	日立市文化財回廊	サテライトガイダンス
①悠久の日立の歩みが刻まれる大地と海	—	市内全体	悠久のひたちを巡る回廊	—
②『常陸国風土記』が描く原始・古代の豊かな生活	泉が森周辺の集積地	日立市の歴史文化の特徴を示す文化財の集積地	古と近代の理想郷ひたちを追想する回廊	日立オリジンパーク
③領主の庇護下で培われた中近世	③-1 中世の奥七郡から翻った佐竹扇 大窪城跡周辺の集積地		中近世の情熱を辿る回廊	暇修館
	③-2 近世日立を巡った水戸黄門の足跡 諏訪神社周辺の集積地			
	③-3 幕末の海防施設が語る動乱 助川海防城跡周辺の集積地			
④日立鉱山が導いた近代鉱工業都市としての始まりと発展	旧久原本部周辺の集積地		鉱工業都市ひたちの軌跡が導く回廊	日鉱記念館
⑤坂東と陸奥を繋ぐ街道	長者山遺跡周辺の集積地		坂東と陸奥を繋ぐひたちの回廊	伊師町田園都市センター
⑥神宿る峰へ捧げる山車からくりと多様な祭礼	風流物周辺の集積地	からくりと祭礼が描く回廊	風流物展示施設	

- ビジターセンター
- (黄黒点線) メインガイドンス(1箇所)
 - (黒点線) サテライトガイドンス(5箇所)

- (黒) 指定・登録等文化財
- (白) 未指定文化財
- (黒点線) 文化財回廊を設定する主な範囲



図：日立市文化財回廊と拠点となるビジターセンターの位置

ア 市内全体を対象とした日立市文化財回廊

(ア) 悠久のひたちを巡る回廊

文化財回廊として、歴史文化の特徴（１）「悠久の日立の歩みが刻まれる大地と海」を示す文化財を周遊するルートを設定する。市内全体に広く分布する特徴的な地形・地質や樹木、自然を対象にした生業である漁業や鉱工業の関連施設等を周遊する。

この回廊のサテライトガイダンスは整備せず、次項に示す各文化財の集積地を対象とした文化財回廊のサテライトガイダンスを共用する。



写真：空からみた本市の海・山
（日立市報 HP より）

イ 日立市の歴史文化の特徴を示す文化財の集積地を対象とした日立市文化財回廊

(ア) 古と近代の理想郷ひたちを追想する回廊〈サテライトガイダンス：日立オリジンパーク〉

【現状と課題】

市の南部に位置し、貝塚や古墳時代の遺跡なども多く見られるとともに、産業発展を支えた重要港湾や大規模な工場なども発展しているが、近隣に拠点となる施設がない。

【主な取組内容】

文化財回廊として、歴史文化の特徴（２）『常陸国風土記』が描く原始・古代の豊かな生活を示す、泉が森周辺の文化財の集積地を主として周遊するルートを設定する。

また、周遊の拠点となるサテライトガイダンスとして、近代に「日立に桃源郷を造る」という理想の下、大規模な鉱山町を造った日立鉱山の一工場から独立・創業した日立製作所の記念館である、日立オリジンパークと連携し、周遊性を高める事業に取り組む。



写真：日立オリジンパーク

(イ) 中近世の情熱を辿る回廊〈サテライトガイド：暇修館〉

【現状と課題】

本市の中南部に位置する広い台地であって、都市化や丘陵部にまで及ぶ宅地開発が進んでいる地域である。この地域で見られる文化財は、顕在化している遺跡等は少なく、中世から近世の書簡、文献等の記録に残るものが多い。

【主な取組内容】

文化財回廊として、歴史文化の特徴
(3)－1「中世の奥七郡から翻った佐竹扇」、(3)－2「近世日立を巡った水戸黄門の足跡」、(3)－3「幕末の海防施設が語る動乱」を示す、大窪城跡周辺・諏訪神社周辺・助川海防城跡周辺の文化財の集積地を主として周遊するルートを設定する。

また、周遊の拠点となるサテライトガイドとして、佐竹氏の重臣大窪氏が居城とした大窪城跡に創建された水戸藩の郷校である暇修館跡に、昭和48年に復元された現暇修館の機能を整備する。周辺の遺跡等の顕在化を進めるとともに、書簡や文献等の記録を基にした情報提供を行い、先人の成し遂げた業績を辿る取組を進める。



写真：暇修館

(ウ) 鉱工業都市ひたちの軌跡が導く回廊〈サテライトガイド：日鉱記念館〉

【現状と課題】

本市の中西部から山間部に至る地域で、中心市街地には本市の文化財や歴史文化に関する資料を展示する日立市郷土博物館があり、近代の産業発展を支えた鉱山関係の資料を展示している日鉱記念館が、市街地から離れた山間部にある。また、山地には鉱業を支えた地下資源と関連の深い、日本最古である5億3,300万年前のカンブリア紀の地層が発見されているなど周遊の範囲が広範囲に及んでいる。

【主な取組内容】

文化財回廊として、歴史文化の特徴
(4)「日立鉱山が導いた近代鉱工業都市としての始まりと発展」を示す、旧久原本部周辺の文化財の集積地を主として周遊するルートを設定する。

また、周遊の拠点となるサテライトガイドとして、日立鉱山の創業者久原房之助の創業精神や、現在のJX金属(株)に至るまでの歴史を紹介した施設である日鉱記念館と連携し、路線バスや自家用車を利用して広範囲を周遊するための取組を進める。



写真：日鉱記念館

(エ) 坂東と陸奥を繋ぐひたちの回廊〈サテライトガイドンス：伊師町田園都市センター〉

【現状と課題】

本市北部に位置し、主な文化財として、国指定史跡「長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡」があるほか、多くの観光客が訪れる利用率 32 年連続 1 位の国民宿舎「鶉の岬」があり、周遊性の向上が期待されている。

【主な取組内容】

文化財回廊として、歴史文化の特徴(5)「坂東と陸奥を繋ぐ街道」を示す、長者山遺跡周辺の文化財の集積地を主として周遊するルートを設定する。

また、周遊の拠点となるサテライトガイドンスとして、長者山遺跡に隣接する地域集會施設である伊師町田園都市センターを利用した機能整備を行う。



写真：伊師町田園都市センター

(オ) からくりと祭礼が描く回廊〈サテライトガイドンス：風流物展示施設〉

【現状と課題】

国指定重要有形・無形民俗文化財である日立風流物は、毎年、春の「日立さくらまつり」で公開されるほか、7年に1度の神峰神社の大祭礼では4台の山車が同時公開されている。

この民俗文化財を守る人々の高齢化や後継者不足が課題となっており、日頃から「日立風流物」に親しめる機会を提供し保存・活用を可能とする施設が求められている。

【主な取組内容】

文化財回廊として、歴史文化の特徴(6)「神宿る峰へ捧げる山車からくりと多様な祭礼」を示す、風流物周辺の文化財の集積地を主として周遊するルートを設定する。

また、周遊の拠点となるサテライトガイドンスとしての機能に加え、日立風流物の展示・紹介を行う施設として風流物展示施設を新たに整備する。



写真：日立風流物(模型)

表：重点的に実施する措置とその主な取組

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
方針4-1 31 (再掲)	日立市文化財回廊の設定 文化財の集積地を効果的に利用できる周遊ルートの設定	市・関係機関	市費			
	「悠久のひたちを巡る回廊」の設定 市内の地形・地質の周遊ルートの設定					
	「古と近代の理想郷ひたちを追想する回廊」の設定 泉が森周辺の周遊ルートの設定					
	「中近世の情熱を辿る回廊」の設定 大窪城跡周辺の周遊ルートの設定					
	「鉱工都市ひたちの軌跡が導く回廊」の設定 旧久原本部周辺の周遊ルートの設定					
	「坂東と陸奥を繋ぐひたちの回廊」の設定 長者山遺跡周辺の周遊ルートの設定					
	「からくりと祭礼が描く回廊」の設定 日立風流物周辺の周遊ルートの設定					
方針4-1 32 (再掲)	サテライトガイダンス(ビジターセンター)の整備 周遊の拠点となる施設を整備し、周辺文化財の紹介資料や駐車場、トイレ、給水・休憩施設等の機能を整備(新設2か所、既存施設利用4か所)	市・関係機関	国補市費			
	メインガイダンスの整備 日立市郷土博物館の整備	市				
	サテライトガイダンスの整備 1 日立オリジンパークと連携した泉が森周辺の文化財の集積地における拠点整備	市・関係機関				
	サテライトガイダンスの整備 2 暇修館を活用した大窪城跡周辺の文化財の集積地における拠点整備	市				
	サテライトガイダンスの整備 3 日鉱記念館と連携した旧久原本部周辺の文化財の集積地における拠点整備	市・関係機関				
	サテライトガイダンスの整備 4 伊師町田園都市センターを整備した長者山遺跡周辺の文化財の集積地における拠点整備(新設)	市・関係機関				
	サテライトガイダンスの整備 5 日立風流物展示施設を新設した風流物周辺の文化財の集積地における拠点整備(新設)	市	国補市費			

(2) 優先的に行う日立市文化財回廊の設定とビジターセンターの整備

前項で示した文化財回廊の設定とサテライトガイドランスの整備のうち、優先的に行う整備として、本市の重要な文化財である長者山遺跡と日立風流物が含まれる文化財回廊「坂東と陸奥を繋ぐひたちの回廊」及び「からくりと祭礼が描く回廊」に関する整備を位置付ける。その整備内容は以下のとおりである。

ア 坂東と陸奥を繋ぐひたちの回廊〈サテライトガイドランス：伊師町田園都市センター〉

(ア)「坂東と陸奥を繋ぐひたちの回廊」の設定〔実施主体：市、財源：主に市費〕

長者山遺跡や古代官道等を周遊するルートを文化財回廊の一例として設定する。同じ歴史文化の特徴を示す文化財をはじめ、付近の他の文化財も幅広く含めることによって、市民や観光客のより体系的・効率的な本市の文化財への理解・把握を促進する。また、説明・案内設備の整備等によって、ルート上で文化財回廊についての情報提供を行う。

周遊の方法としては、十王駅や国民宿舎「鶉の岬」等を発着点とした小型バスによる見学や、古代官道のウォーキング・サイクリング等を検討する。

表：優先的に実施する措置とその主な取組

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
31 方針 (再掲) 4 1	「坂東と陸奥を繋ぐひたちの回廊」の設定 長者山遺跡周辺の集積地を効果的に利用できる周遊ルートの設定	市・関係機関	市費			

(イ) サテライトガイドランスの整備〔実施主体：市、財源：主に市費〕

長者山遺跡の指定地近隣に位置する伊師町田園都市センターを、長者山遺跡の保存・活用のための機能を備えたサテライトガイドランスとして整備する。また、駐車場の整備も並行して実施する。

表：優先的に実施する措置とその主な取組

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
32 方針 (再掲) 4 1	サテライトガイドランスの整備 4 伊師町田園都市センターを整備した長者山遺跡周辺の文化財の集積地における拠点整備（新設）	市・関係機関	国補市費			

(ウ) 長者山遺跡の保存・活用のための整備〔実施主体：市・市民、財源：主に市費〕

当文化財回廊の中心となる長者山遺跡の保存・活用のための整備を行う。整備では、市民の教育や生涯学習のため、長者山遺跡ガイドツアーや歴史文化の特徴に関するパンフレットの配布、説明板・案内板の設置等を行い、現地での体験学習を提供する。また、遺跡への理解を視覚的・直観的に促すため、ARを利用した仮想展示を行う。

表：優先的に実施する措置

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021~2023)	中期 (2024~2027)	後期 (2028~2030)
29 方針 3 (再掲) 4	市民ガイドによる文化財ツアーの開催 市民が主体となった文化財関連イベントにおける知識の活用	市・市民	市費			
方針 4 1	統一デザインの説明板・案内板の設置 表示デザインやロゴ等の統一 多言語標記対応	市	国補 市費			
33 ・ 34 ・ 36 (再掲)	遺跡等におけるARを利用した仮想展示 地元大学と連携したARコンテンツの作成	市・ 関係 機関	国補 市費			
	歴史文化の特徴の解説書・パンフレットの作成 文化財に関する周遊に活かせる案内解説資料の作成	市・ 関係 機関	市費			



写真：伊師町田園都市センターの位置



写真：伊師町田園都市センター



写真：長者山遺跡ガイドツアーイメージ



写真：ARを利用した仮想展示イメージ
(山梨県南アルプス市の事例より)

イ からくりと祭礼が描く回廊〈サテライトガイダンス：風流物展示施設〉

(ア) 「からくりと祭礼が描く回廊」の設定〔実施主体：市、財源：主に市費〕

かみね公園や旧助川西上町舞屋台等を周遊するルートを文化財回廊として設定する。周遊ルートには、旧共楽館や日鉦記念館等の同じ歴史文化の特徴を示す文化財をはじめ、付近の他の文化財も幅広く含めることによって、市民や観光客のより体系的・効率的な本市の文化財への理解・把握を促進する。また、説明・案内設備の整備等によって、ルート上で文化財回廊についての情報提供を行う。

表：優先的に実施する措置とその主な取組

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
31 方針 4 1 (再掲)	「からくりと祭礼が描く回廊」の設定 日立風流物周辺の集積地を効果的に利用できる周遊ルートの設定	市・ 関係 機関	市費			

(イ) サテライトガイダンスの整備〔実施主体：市、財源：主に市費〕

旧宮田村（現宮田町、白銀町、神峰町、本宮町、東町）の範囲に適切な土地を選定し、日立風流物及び日立のさらの保存・活用のための機能を備え、日立風流物の実物大の山車の常設展示を可能とする風流物展示施設を新たに整備し、サテライトガイダンスとして活用する。

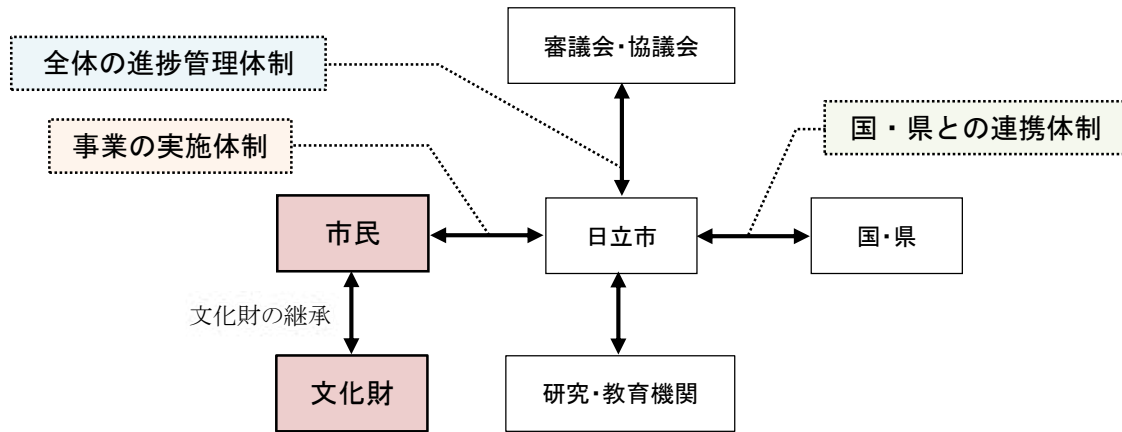
風流物展示施設では、伝統芸能の後継者育成のため、施設内に日立風流物の人形操作や鳴物の練習・研修場所を確保する。また、市民の教育や生涯学習のため、文書や映像等を保管したライブラリーや人形操作の体験コーナーを設置する。さらに、日立風流物への理解を視覚的・直観的に促すため、日人形の自動演技や映像演出、動画解説を用いた山車の常設展示等を行う。

表：優先的に実施する措置とその主な取組

番号	措置	実施主体	財源	前期 (2021～2023)	中期 (2024～2027)	後期 (2028～2030)
32 方針 4 1 (再掲)	サテライトガイダンスの整備 5 日立風流物展示施設を新設した風流物周辺の文化財の集積地における拠点整備（新設）	市・ 関係 機関	国補 市費			

第7章 文化財の保存・活用の推進体制

本計画に基づく文化財の保存・活用は、主に本市の実施する又は本市と市民が関わって実施する事業に対して、事業推進を円滑にするための助言や支援を求め、更には財源確保等を図る「国・県との連携体制」、事業全体の進捗管理を行う有識者を交えた審議会・協議会による「全体の進捗管理体制」、市民と市が連携して取り組むための「事業の実施体制」の3つの体制の下で取り組む。(詳細は p115 図)。



図：文化財の保存・活用の推進体制と文化財との関係イメージ

1 事業の実施体制

事業の実施は、市の事業主管課所が事務局となり、国、県、市内の関連部課や研究・教育機関、市民との連携を図り、必要に応じて有識者専門会議等を設置の上進める。

前項までに示した方針毎に、本体制に関わる構成組織等を以下に例示した。

(1) 「方針1 調査」に関する実施体制

方針1-1 学術的調査・研究活動の強化

日立市：日立市教育委員会 郷土博物館、有識者専門会議（適宜設置）
市民

(2) 「方針2 保存・管理」に関する実施体制

方針2-1 市指定等の推進

国：文化庁
茨城県：教育庁総務企画部 文化課
日立市：日立市教育委員会 郷土博物館、市民文化遺産活用会議（新規）
市民

方針2-2 財源及び収蔵施設の確保や支援

日立市：教育委員会 郷土博物館

方針2-3 防災・防犯対策の推進

日立市：消防本部、教育委員会 郷土博物館
市民

(3) 「方針3 教育普及」に関する実施体制

方針3-1 保存・継承に携わる人材の確保

日立市：生活環境部 文化・国際課、教育委員会 郷土博物館
 市民：市民団体（各種保存会、日立市文化協会日立市文化少年団 等）

方針3-2 児童・生徒に向けた教育の強化

日立市：市長公室 シティプロモーション推進課、教育委員会 指導課、教育委員会 郷土博物館
 教育機関：市内小中学校、特別支援学校、高等学校

方針3-3 大人に向けた生涯学習の強化

日立市：生活環境部 コミュニティ推進課、教育委員会 生涯学習課、教育委員会 郷土博物館

方針3-4 文化財を活用する取組等への市民参画

日立市：市長公室 シティプロモーション推進課、生活環境部 コミュニティ推進課、文化・国際課、教育委員会 生涯学習課、教育委員会 郷土博物館
 市民：市民団体（調査・研究会 等）

(4) 「方針4 地域振興」に関する実施体制

方針4-1 周辺の観光施設等を結ぶ周遊性の確保

日立市：産業経済部 観光局観光物産課、生活環境部 コミュニティ推進課、教育委員会 生涯学習課、教育委員会 郷土博物館
 関係機関：茨城大学、民間の博物館相当施設等

方針4-2 魅力を伝える地域発信型観光の推進

日立市：市長公室 シティプロモーション推進課、教育委員会 生涯学習課、教育委員会 郷土博物館
 市民：事業者 等

表：事業の実施体制に含まれる日立市の組織一覧

組織名		本計画に関連する主な業務内容
市長公室	シティプロモーション推進課	地域資源の活用に係る企画、調整及び推進に関する事。市の魅力の情報発信に係る企画、調整及び推進に関する事。フィルムコミッションに関する事。市ホームページに関する事。
生活環境部	コミュニティ推進課	コミュニティ推進協議会に関する事。
	文化・国際課	文化振興の調査企画に関する事。文化団体に関する事。その他文化事業の推進に関する事。
産業経済部	観光局観光物産課	観光の振興に関する事。物産の振興に関する事。
消防本部	警防課	災害時における関係機関の連絡に関する事。
	予防課	消防用設備等の設置、指導及び検査に関する事。
教育委員会	指導課	学校教育内容の助言及び指導に関する事。教材及び教育資料の収集及び研究に関する事。
	生涯学習課	ひたち生き生き百年塾推進本部に関する事。生涯学習講座の開設及びその奨励に関する事。生涯学習関係団体の指導育成に関する事。
	郷土博物館	文化財に関する事。他の博物館、図書館、学校その他の関係機関、団体等との協力に関する事。

2 国・県との連携体制

国・県との連携は、日立市郷土博物館が事務局となり事業を実施する中で、助言や支援等が必要となる場合に適宜要請し進める。

本体制に関わる組織は、以下のとおりである。

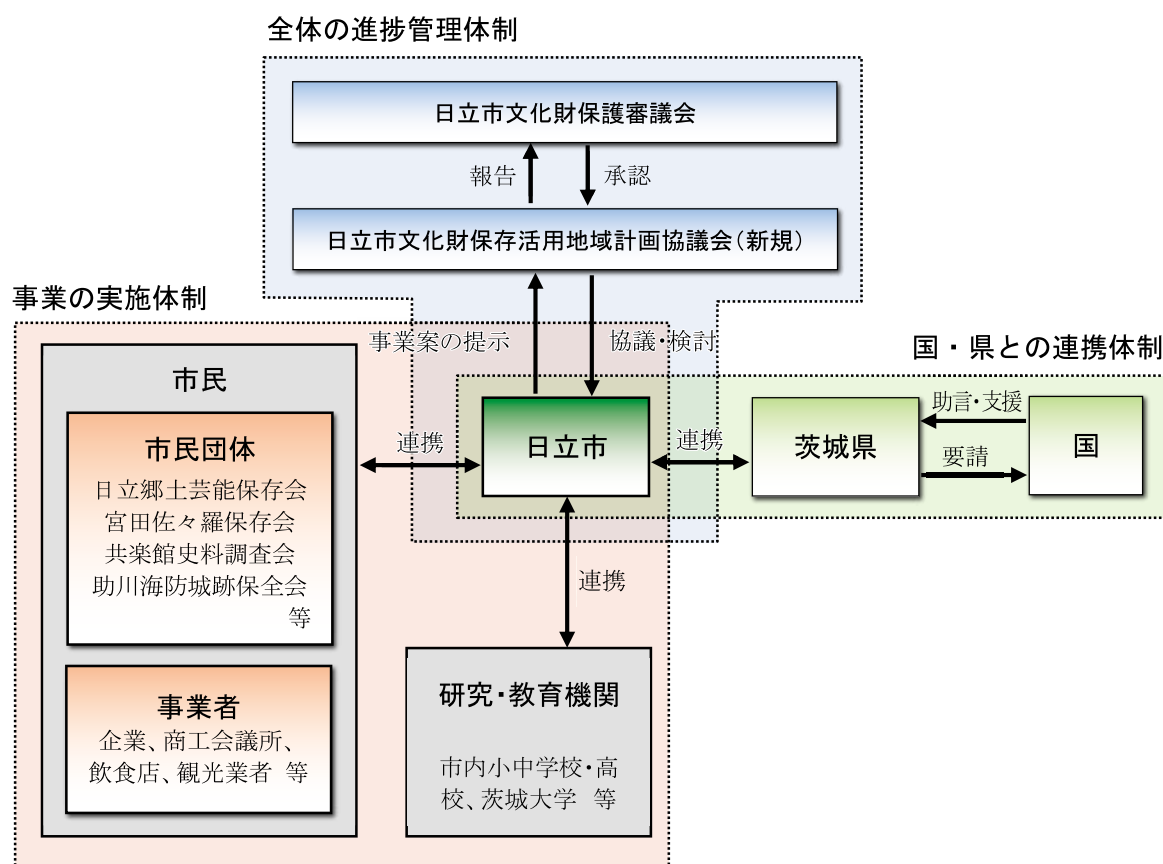
国（文化庁）、茨城県（教育庁総務企画部 文化課）、日立市教育委員会 郷土博物館

3 全体の進捗管理体制

全体の進捗管理は、日立市郷土博物館が事務局となり提示する事業案について、新規に設置する日立市文化財保存活用地域計画協議会が協議・検討を行い、協議・検討結果を日立市文化財保護審議会に報告するという体制によって進める。

本体制に関わる組織は、以下のよう定める。

日立市文化財保護審議会、日立市文化財保存活用地域計画協議会（新規）、日立市



図：文化財の保存活用の推進体制^{7 8}

⁷ 図中においてグレーで囲んだ組織（日立市、研究・教育機関、市民）は、第5章「1 文化財の保存・活用に関する措置」で示した、各措置の実施主体に位置付けられる組織である。

⁸ 市民団体の取組例については、第2章「5 文化財に関する普及・啓発活動」に示した。

参考資料

1 文化財リスト

(1) 指定等文化財リスト

ア 国指定文化財（4件）

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
日立風流物(5段屋形開閉式山車1基)	宮田町 神峰神社	昭和34年5月6日	重要有形民俗文化財	1
日立風流物	宮田町 神峰神社	昭和52年5月17日	重要無形民俗文化財	1
いぶき山イブキ樹叢	十王町	大正11年10月12日	天然記念物	2
長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡	十王町	平成30年10月15日	史跡	3

イ 県指定文化財（24件）

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
小野家住宅	諏訪町	昭和49年11月25日	建造物	5
絹本著色阿弥陀如来来迎図	日立市郷土博物館	昭和49年3月31日	絵画	6
木造釈迦如来三尊像	宮田町	昭和37年10月24日	彫刻	7
木造大日如来坐像	入四間町	昭和44年12月1日	彫刻	8
木造観音菩薩坐像	東河内町	昭和44年12月1日	彫刻	9
木造万年大夫夫婦坐像(胎内像を含む)	日立市郷土博物館	昭和49年3月31日	彫刻	10
木造薬師如来坐像	久慈町	昭和54年11月1日	彫刻	11
木造聖徳太子坐像	金沢町	昭和57年3月4日	彫刻	12
古鏡	弁天町	昭和32年1月25日	工芸品	13
蒔絵鏡箱	弁天町	昭和49年3月31日	工芸品	13
大般若波羅密多經	神峰町	昭和37年2月26日	書跡	14
訂正常陸国風土記版木 付箱板2枚	茨城県立歴史館	昭和60年3月25日	歴史資料	15
5馬力誘導電動機 附設計図1枚	幸町	平成14年1月25日	歴史資料	16
十王台遺跡出土十王台式土器	日立市郷土博物館 東京国立博物館	平成14年12月25日	考古資料	17
日立風流物人形頭	神峰町	昭和39年7月31日	有形民俗文化財	14
日立のささら			無形民俗文化財	
宮田ささら	宮田町 神峰神社	昭和38年8月23日		18
助川ささら	鹿島町 鹿嶋神社	昭和38年8月23日		19
会瀬ささら	会瀬町 鹿島神社	昭和38年8月23日		20
大久保ささら	桜川町 伏見稲荷	昭和45年9月28日		21
諏訪ささら	諏訪町 諏訪神社	昭和45年9月28日		22
水木ささら	水木町 泉神社	昭和45年9月28日		23
成沢ささら	中成沢町 鹿嶋神社	昭和46年7月19日		24
佛ヶ浜(度志観音を含む)	田尻町	昭和30年6月25日	史跡	25
助川海防城跡	助川町	昭和42年11月24日	史跡	26
泉が森	水木町 泉神社	昭和44年12月1日	史跡	27
旧久原本部	日鉱記念館	昭和45年9月28日	史跡	28
南高野貝塚	南高野町	昭和54年3月8日	史跡	29
海鷗渡来地	川尻町	昭和31年5月25日	天然記念物	30
御岩山の三本杉	入四間町 御岩神社	昭和43年9月26日	天然記念物	8
駒つなぎのイチョウ	大久保町 鹿嶋神社	昭和44年12月1日	天然記念物	31

ウ 市指定文化財（44件）

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
泉川道標	大みか町	昭和46年1月21日	建造物	32
入四間道標	東河内町	昭和55年4月24日	建造物	33
旧共楽館(日立武道館)	白銀町	平成21年9月30日	建造物	4
下孫停車場記念碑	多賀町	平成27年3月24日	建造物	34
絹本著色涅槃図	日立市郷土博物館	昭和55年4月24日	絵画	6
木造阿弥陀如来坐像	入四間町	昭和47年7月27日	彫刻	8
日光・月光菩薩立像	久慈町	昭和49年3月27日	彫刻	11
木造阿弥陀如来坐像	日立市郷土博物館	昭和53年12月21日	彫刻	6
木造釈迦如来・多宝如来竝坐像	西成沢町	昭和54年2月22日	彫刻	35
火縄三眼鏡	日立市郷土博物館	昭和46年1月21日	工芸品	6
旧助川西上町舞屋台	鹿島町	昭和47年2月24日	工芸品	36
東叡山石燈籠	諏訪町	昭和48年8月23日	工芸品	37
太刀(銘・大江勝永)	千石町	昭和51年11月25日	工芸品	38
短刀(銘・驚鯢丸)	千石町	昭和62年10月22日	工芸品	38
藤田東湖揮毫諏訪神社大のぼり	日立市郷土博物館	昭和46年1月21日	書跡	6
藤田東湖揮毫南高野鹿島神社大幟	日立市郷土博物館	昭和61年3月27日	歴史資料	6
吉田神社棟札	日立市郷土博物館	平成7年3月27日	歴史資料	6
鱸神社棟札	十王町	平成4年12月1日	歴史資料	39
友部村絵図	日立市郷土博物館	平成13年3月21日	歴史資料	6
諏訪遺跡出土縄文土器	日立市郷土博物館	平成6年5月23日	考古資料	6
愛宕原火葬墓出土骨蔵器	日立市郷土博物館	平成13年3月21日	考古資料	6
十王台南遺跡第1号住居跡出土遺物	日立市郷土博物館	平成13年3月21日	考古資料	6
明王山不動尊の絵馬	神峰町	昭和60年2月28日	有形民俗文化財	40
日立郷土芸能保存会北町支部所有の風流物人形頭	日立市郷土博物館	平成13年12月21日	有形民俗文化財	6
日立郷土芸能保存会西町支部所有の風流物人形頭	日立市郷土博物館	平成13年12月21日	有形民俗文化財	6
黒田入り口道標	十王町	平成7年3月10日	有形民俗文化財	41
大原道標	十王町	平成7年3月10日	有形民俗文化財	42
鶴捕りの技術	(十王町伊師・碁石浦)	平成4年12月1日	無形民俗文化財	30
鹿嶋神社流鏝馬	大久保町	平成31年1月24日	無形民俗文化財	31
助川海防城跡(県指定区域を除く)	助川町	昭和45年8月20日	史跡	26
大窪城跡及び暇修館跡	大久保町	昭和47年7月27日	史跡	43
相馬碑	多賀町	昭和51年11月25日	史跡	44
十王前横穴	川尻町	昭和56年2月19日	史跡	45
甕の原古墳群3号墳	大みか町	平成6年5月23日	史跡	46
甕の原古墳群4号墳	大みか町	平成6年5月23日	史跡	46
山野邊家墓所	高鈴町	平成14年8月22日	史跡	47
水漏舎小学校跡	中成沢町	平成27年3月24日	史跡	48
玉簾の滝	東河内町	昭和46年7月21日	名勝	49
小貝浜	川尻町	昭和55年8月28日	名勝	50
大甕神社境内樹叢	大みか町	昭和46年4月22日	天然記念物	51
澳津説神社のシイ	小木津町	昭和48年8月23日	天然記念物	52
本山の一本杉	宮田町	昭和49年6月27日	天然記念物	53
諏訪のヤマザクラ	諏訪町	昭和49年6月27日	天然記念物	54
愛宕神社境内「椎」	十王町	昭和57年5月25日	天然記念物	55

エ 国登録有形文化財（1件）

名称	所在地	登録年月日	種別	図中番号
旧共楽館(日立武道館)	白銀町	平成11年7月8日	-	4

オ 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）（1件）

名称	所在地	選択年月日	種別	図中番号
日立風流物	宮田町 神峰神社	昭和49年12月4日	無形民俗文化財	1

(2) 未指定文化財リスト

ア 日立市民文化遺産（35件）

名称	所在地	種別	分野 ⁹	図中番号
撫子山の能因法師歌碑	中深荻町	建造物	歴史	1
中里発電所と里川発電所	東河内町、下深荻町	建造物	産業	2
御岩神社と回向祭	入四間町	民俗	民俗	3
伊師町一里塚跡	十王町伊師	史跡	歴史	4
十王町の徒歩鵜漁	十王町友部	民俗	民俗	5
友部海防陣屋跡	十王町友部	史跡	歴史	6
山尾城跡と友部城跡	十王町友部	史跡	歴史	7
金色姫伝説の伝わる蚕養神社	川尻町2丁目	民俗	民俗	8
大津淳一郎顕彰碑	川尻町1丁目	建造物	歴史	9
小木津浜風流物	小木津町	民俗	民俗	10
日立紅寒桜	日高町2丁目	天然記念物	自然	11
空窪廃寺の不動明王	田尻町7丁目	彫刻	歴史	12
太田尻海岸の西行法師歌碑	東滑川町5丁目	建造物	歴史	13
かみね公園と公園内の石碑群、動物園	宮田町5丁目	建造物	自然・産業	14
熊野神社の日立製作所創業石	白銀町1丁目	史跡	産業	15
平和通りのサクラ並木	神峰町、鹿島町、若葉町、 弁天町、平和町、幸町	天然記念物	自然	16
金山百観音	助川町	民俗	民俗	17
助川一里塚跡	鹿島町3丁目	史跡	歴史	18
山野邊氏家臣墓所	城南町1丁目	史跡	歴史	19
水漏舎跡一池の川弁天池公園	中成沢町2丁目	史跡	歴史	20
島木赤彦歌碑	東成沢町1丁目	建造物	歴史	21
小豆洗不動尊	東成沢町3丁目	民俗	民俗	22
常陸之國御諏訪太鼓	諏訪町3丁目	民俗	民俗	23
諏訪梅林と長塚節歌碑	諏訪町	天然記念物	歴史・自然	24
河原子海岸の烏帽子岩と藤田東湖詩碑	河原子町2丁目	天然記念物	自然・歴史	25
照山修理顕彰碑	金沢町2丁目	建造物	歴史	26
でんがくばら児童公園の 長塚節歌碑と水木遠見番所跡	水木町1丁目	史跡	歴史	27
日立灯台	大みか町4丁目	建造物	産業	28
石名坂の西行法師歌碑	石名坂町1丁目	建造物	歴史	29
三代芳松像	久慈町1丁目	彫刻	産業	30
赤羽緑地と赤羽横穴墓群	久慈町5丁目	史跡	自然・歴史	31
西の妻古墳群1号墳	石名坂町1丁目	史跡	歴史	32
西大塚古墳群1号墳石室	南高野町3丁目	史跡	歴史	33
八つ凧	茂宮町	民俗	民俗	34
留町の木造聖観音像	留町	彫刻	歴史	35

⁹ 『日立市民文化遺産ガイドブック』において示された「民俗、歴史、自然、産業」の4分野を準用した。

イ 「ひたちらしさ」を象徴する近現代の文化財（10件）

分類	名称
産業	大煙突
	日立市天気相談所
	昇開式可動橋
インフラ	日立LNG基地
	JR日立駅駅舎
観光	茨城県立国民宿舎鶴の岬
美術・学術	日立市郷土博物館所蔵品
音楽	吉田メロディー
運動	ラジオ体操
	パンポン

2 協議会及び保護審議会

日立市文化財保存活用地域計画協議会の委員名簿及び経緯と、日立市文化財保護審議会で行われた日立市地域計画に関する報告は以下のとおりである。

表：日立市文化財保存活用地域計画協議会委員名簿（任期：令和元年10月3日～令和3年3月31日）

分類	番号	氏名	所属	備考
学識経験者	1	阿久津 久	日立市文化財保護審議会会長	委員長 「長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡保存活用計画策定委員会」副委員長 専門分野：考古学、古代史
	2	小泉 晋弥	茨城大学名誉教授	副委員長 専門分野：日本美術史、博物館学
	3	岩間 信之	茨城キリスト教大学教授	専門分野：都市地理学
	4	大窪 範光	日立市文化財愛護協会会長	元茨城高等学校・茨城中学校校長 専門分野：中世史
	5	佐川 武男	日本伝統建築技術保存会伝統建築技能認定者	専門分野：伝統建築技術
	6	折笠 修平	茨城県立歴史館 資料調査専門員	「日立風流物保存活用計画策定委員会」委員長 ※教育長就任にあたり退任 専門分野：近代史
	7	菊池 健策	独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所 客員研究員	「日立風流物保存活用計画策定委員会」副委員長 専門分野：無形民俗文化財
	8	田中 裕	茨城大学人文社会科学部教授	「長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡保存活用計画策定委員会」委員長 専門分野：考古学、歴史学
	9	田切 美智雄	日立市郷土博物館特別専門員	茨城大学名誉教授 専門分野：地質学
関係団体	10	水庭 久勝	日立郷土芸能保存会 会長	
	11	助川 和明	日立郷土芸能保存会 ささら部会長	
	12	深津 正孝	十王地区コミュニティ推進会長	令和2年3月31日まで
	13	川井 健一	十王地区コミュニティ推進会長	令和2年4月1日から
	14	三澤 俊介	日立商工会議所	
	15	住谷 玲	日立市観光物産協会専務理事	令和2年3月31日まで
	16	田所 保行	日立市観光物産協会専務理事	令和2年4月1日から
行政関係者	17	市村 志保	茨城県教育庁総務企画部文化課長	
	18	富永 淳子	日立市市長公室シティプロモーション推進課長	
	19	鈴木 由美子	日立市産業経済部観光局長	
	20	大澤 正樹	日立市生活環境部文化・国際課長	
	21	窪田 康德	日立市教育委員会教育部長	

表：日立市文化財保存活用地域計画協議会経緯

年度	回	開催月	議題
令和元年度	第1回	10月	計画の目的、方針及び進め方等について
	第2回	12月	計画の骨子及びプロポーザルの方法等について
	第3回	2月	プロポーザルの審査について
令和2年度	第4回	8月	計画の記載内容等について
	第5回	12月	計画の記載内容等について
	第6回	3月	計画の確定

※ このほか令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面会議を2回、一部委員による幹事会を4回実施した。

表：日立市文化財保護審議会経緯

年度	回	開催月	報告
令和元年度	第1回	10月	報告第5号 日立市文化財保存活用地域計画の策定について

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面会議を1回実施した。

表：日立市文化財保存活用地域計画認定までの文化庁との協議経緯

年度	月日	内容
令和2年度	3月19日	県を通じて文化庁地域文化創生本部と協議開始
令和3年度	11月11、12日	文化庁地域文化創生本部調査官による現地調査
	11月17日	文化庁および関係省庁との協議完了
	11月26日	県を通じて日立市文化財保存活用地域計画を認定申請
	12月17日	文化庁文化審議会文化財分科会において日立市文化財保存活用地域計画が認定

3 参考文献等一覧

(1) 参考文献

- ・茨城県多賀郡編『常陸多賀郡史』、帝国地方行政学会、1923年
- ・茨城県教育委員会『茨城県の民家（茨城県民家緊急調査報告書）』、茨城県教育委員会、1976年
- ・茨城県教育委員会『茨城県の近世社寺建築』、茨城県教育委員会、1982年
- ・茨城県教育委員会『茨城県歴史の道調査事業報告書近世編Ⅲ』、茨城県教育委員会、2015年
- ・茨城県教育庁総務企画部文化課『茨城県近代和風建築総合調査報告書』、茨城県教育委員会、2017年
- ・茨城県教育庁文化課編『茨城県の近代化遺産 茨城県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』、茨城県教育委員会、2007年
- ・十王町史編さん調査会編『十王町史 地誌編』、日立市、2008年
- ・十王町史編さん調査会編『十王町史 通史編』、日立市、2011年
- ・十王町史編纂委員会編『図説 十王町史』、十王町、2004年
- ・助川海防城跡保全会編『ガイドブック 助川海防城と陣屋・番所・台場』、日立市郷土博物館、2007年
- ・日立市教育委員会『日立市の文化財』、日立市教育委員会、1999年
- ・日立市郷土博物館編『ガイドブック 日立風流物』、日立市郷土博物館、2007年
- ・日立市郷土博物館編『ガイドブック 日立の文化財めぐり』、日立市郷土博物館、2008年
- ・日立市郷土博物館編『写真でたどる日立百年のあゆみ 日立鉱山創業105年 日立製作所創業100年 写真集』、日立市郷土博物館、2011年
- ・日立市郷土博物館編『常陸国風土記にみる日立』、日立市郷土博物館、2013年
- ・日立市郷土博物館編『日立市民文化遺産ガイドブック』、日立市郷土博物館、2014年
- ・日立市郷土博物館編『新郷土日立 地理 <改訂二版>』、日立市教育委員会、2019年
- ・日立市郷土博物館編『新郷土日立 歴史』、日立市教育委員会、2007年
- ・日立市郷土博物館編『長者山遺跡がつなぐ古代の道と常陸国風土記の世界』、日立市郷土博物館、2019年
- ・日立商工会議所・ふるさと日立検定実行委員会編『ふるさと日立検定 公式ガイドブック 中級編』、日立商工会議所、2012年
- ・日立市史編さん委員会編『図説 日立市史 市制50周年記念』、日立市、1989年
- ・日立市史編さん委員会編『新修 日立市史 上巻』、日立市、1994年
- ・日立市史編さん委員会編『新修 日立市史 下巻』、日立市、1996年
- ・日立風流物記録編さん委員会編『日立風流物 歴史と記録』、日立郷土芸能保存会、1976年
- ・ふるさとひたち刊行会編『日立のいまむかし』、国書刊行会、1993年

(2) 参考計画書

- ・日立市「日立市総合計画 後期基本計画」、2017年
- ・日立市「日立市文化振興指針」、2017年
- ・日立市「日立市教育振興基本計画」、2019年
- ・日立市「日立市森林整備計画」、2019年
- ・日立市「日立市都市計画マスタープラン」、2020年
- ・日立市「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、2020年

(3) 参考ホームページ・URL

- ・会瀬鹿島神社「会瀬鹿島神社のしおり」、(<https://pitachi.com/wp-content/uploads/2018/09/06466d0f03370c74419b3e4b6b46e03c.pdf> 閲覧日：2020年11月26日)
- ・泉神社「泉神社について」、(<https://izumi-jinja.com/about.html> 閲覧日：2020年8月8日)
- ・茨城県「茨城港湾事務所日立港区事業所」、(<https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/ibako/hikoku/index.html> 閲覧日：2020年6月10日)
- ・茨城県「茨城県オープンデータカタログ」、(<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/joho/it/opendata/od-03.html> 閲覧日：2020年6月5日)
- ・茨城県「常磐自動車道」、(<https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/doken/shomu/joban.html> 閲覧日：2020年6月9日)
- ・茨城県「《道路改良事業》一般国道245号ひたちなか市・東海村4車線拡幅」、(<https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/miyado/02-r245.html> 閲覧日：2020年6月9日)
- ・茨城県「常陸国風土記紹介」、(<http://www.bunkajoho.pref.ibaraki.jp/fudoki/introduction/fudoki/index.html> 閲覧日：2020年6月30日)
- ・茨城県「平成30年8月23日(木曜日)に国道349号那珂常陸太田拡幅の供用を開始しました。」、(<https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/doken/kokudo/kaitso/kokudo-349.html> 閲覧日：2020年6月9日)
- ・茨城県営業戦略部観光物産課「2018年(平成30年)観光客動態調査結果」、(<https://www.pref.ibaraki.jp/shokorodo/kanbutsu/kikaku/documents/h30dotai.pdf> 閲覧日：2020年6月5日)
- ・茨城県営業戦略部観光物産課「平成30年 茨城の観光レクリエーション現況」、(<https://www.pref.ibaraki.jp/shokorodo/kanbutsu/kikaku/documents/h30dotai2.pdf> 閲覧日：2020年6月5日)
- ・茨城県教育委員会「ウミウ渡来地」、(<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/bunkazai/ken/tennen/14-15/14-15.html> 閲覧日：2020年8月7日)
- ・茨城県教育委員会「日立市の文化財」、(<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/bunkazai/itiran/sityouson/hitachi.html> 閲覧日：2020年6月12日)
- ・いばらき路線バス案内所「市町村バス案内」、(<http://www.bus-ibaraki.jp/shichoson/shichoson0.html> 閲覧日：2020年6月5日)
- ・御岩神社「年中行事」、(<http://www.oiwajinja.jp/nentyuu.html> 閲覧日：2020年7月10日)
- ・観光いばらき「神峰神社大祭礼」、(<https://www.ibarakiguide.jp/events/events-140738.html> 閲覧日：2020年7月3日)
- ・観光いばらき「道の駅日立おさかなセンター」、(<https://www.ibarakiguide.jp/seasons/michinoeki/hitachi-osakana-center.html> 閲覧日：2020年6月10日)
- ・気象庁「過去の気象データ検索」、(http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=40&block_no=1011&year=2019&month=&day=&view=p1 閲覧日：2020年7月3日)

- ・島崎和夫「日立市の歴史点描」、(<http://saki-archives.com/index.html> 閲覧日：2020年6月4日)
- ・助川鹿嶋神社「ご祈願・行事」、(<https://kashimajinja.com/prayer/> 閲覧日：2020年11月26日)
- ・東京ガス「日立LNG基地の営業運転開始と茨城～栃木幹線の供用開始について」、(<https://www.tokyo-gas.co.jp/Press/20160325-05.html> 閲覧日：2020年7月21日)
- ・ひたち生き生き百年塾 (<http://www.net1.jway.ne.jp/iki100j/> 閲覧日：2021年1月11日)
- ・常陸太田市「馬坂城跡」、(<http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/page000215.html> 閲覧日：2020年8月8日)
- ・常陸河川国道事務所「久慈川」、(https://www.ktr.mlit.go.jp/hitachi/hitachi_index002.html 閲覧日：2020年6月26日)
- ・ひたち風「大煙突とさくら」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/citypromotion/hitachikaze/topic/001/p068346.html> 閲覧日：2020年7月22日)
- ・ひたち風「わたしたちのオンリーワン！ナンバーワン！」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/citypromotion/hitachikaze/boasts/no1/p068340.html> 閲覧日：2020年7月10日)
- ・日立市「1－3 市域の変遷」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/shisei/008/001/p003126.html> 閲覧日：2020年6月4日)
- ・日立市「市内の漁港と港湾」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/jigyoku/002/006/gyokokouwan.html> 閲覧日：2020年6月5日)
- ・日立市『市のさかな』の名称（さくらダコ）について、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/jigyoku/002/006/p000068.html> 閲覧日：2020年6月22日)
- ・日立市「組織一覧」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/shozoku.html> 閲覧日：2021年2月14日)
- ・日立市「日立市都市計画図1（北部）平成27年3月現在」「日立市都市計画図2（中部）平成27年3月現在」「日立市都市計画図3（南部）平成27年3月現在」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/shimin/014/010/p003181.html> 閲覧日：2020年6月4日)
- ・日立市「日立市の統計：2 位置・面積・土地・気象」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/shisei/008/001/p003129.html> 閲覧日：2020年6月19日)
- ・日立市「日立市の統計：4 国勢調査」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/shisei/008/001/p003129.html> 閲覧日：2020年6月11日)
- ・日立市「ひたちBRTが本格運行を開始！」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/shimin/014/001/003/p075012.html> 閲覧日：2020年8月7日)
- ・日立市かみね動物園「動物園×博物館＝その答えは・・・」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/blog/staff/nakamoto/p042008.html> 閲覧日：2020年9月4日)
- ・日立市観光物産協会「伊師浜海水浴場」、(<http://www.kankou-hitachi.jp/page/page000022.html> 閲覧日：2020年6月22日)
- ・日立市観光物産協会「日立市ウォッチングガイド」、(http://www.kankou-hitachi.jp/data/doc/1372412490_doc_4_0.pdf 閲覧日：2020年6月5日)

- ・日立市郷土博物館「施設概要」、(<https://www.city.hitachi.lg.jp/museum/page/p002089.html> 閲覧日：2020年8月8日)
- ・日立市郷土博物館「日立市指定文化財」、
(<https://www.city.hitachi.lg.jp/museum/page/bunnkazai.html> 閲覧日：2020年6月12日)
- ・日立市郷土博物館「日立風流物」、
(<https://www.city.hitachi.lg.jp/museum/page/p074706.html> 閲覧日：2020年8月11日)
- ・日立市郷土博物館「ふるさと教育通信」、(https://www.city.hitachi.lg.jp/oonuma-e/009/p016856_d/fil/1429026_20130123_0001.pdf 閲覧日：2020年8月3日)
- ・日立市郷土博物館「令和元年度～平成27年度 日立市郷土博物館 年報」、
(<https://www.city.hitachi.lg.jp/museum/003/index.html> 閲覧日：2021年1月11日)
- ・日立市総務部総務課「日立市の人口のうつりかわり」、
(<https://www.city.hitachi.lg.jp/shisei/008/001/p003153.html> 閲覧日：2020年6月4日)
- ・ひたちすくすくガイド「文化少年団」、
(<https://www.city.hitachi.lg.jp/sukusuku/003/004/bshounendan.html> 閲覧日：2020年7月10日)
- ・ひたち6月号巻頭特集「日立市文化少年団」、(<http://h-http://h-bunkyo.jp/2018/07/post-1.html> 閲覧日：2020年8月3日)
- ・文化庁 国指定文化財等データベース「重要有形民俗文化財 日立風流物」、
(<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/301/36> 閲覧日：2020年9月17日)
- ・JR東日本「首都圏発着 在来線特急のご案内」、(https://www.jreast.co.jp/ltd_exp/ 閲覧日：2020年7月20日)
- ・JR東日本「路線図」、(<https://www.jreast.co.jp/map/> 閲覧日：2020年8月7日)
- ・Facebook「日立市都市政策課」、
(<https://www.facebook.com/hitachi.tosei/posts/1432518607003643/> 閲覧日：2020年6月5日)
- ・HITACHI「茨城県日立市に『日立オリジンパーク』（仮称）を2021年に開設」、
(<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2019/07/0703.html> 閲覧日：2020年7月21日)

日立市文化財保存活用地域計画

令和4（2022）年3月発行

編集・発行

日立市郷土博物館

〒317-0055 茨城県日立市宮田町5丁目2番22号

TEL 0294(23)3231

FAX 0294(23)3230

Email hakubutsukan@city.hitachi.lg.jp

